



システムキッチン

ウォールユニット・フロアユニット ①

- 取付・設置業者と使用者の安全確保のため、作業開始前に本書をよく読んで理解の上、正しく取付・設置作業を行ってください。
- システムキッチンのレイアウト図・取付設置図も併せて確認しながら、作業を行ってください。
- システムキッチンの取付・設置作業と、関連工事（建設工事など）は区別し、関連工事は法令・規定に従って、有資格者が行ってください。
- 梱包材や残材は、「廃棄物処理法」に従って適切に処理してください。
- 各部材に付属している取扱説明書は、使用者にシステムキッチンを正しく使用していただくための大事な書類です。紛失したり汚したりしないように保管し、作業完了後、建築工事責任者、または使用者にすべて渡してください。

もくじ

はじめに

安全上のご注意	3
本製品のホルムアルデヒド発散区分	3
工事区分と説明内容について	4
1 建設工事について	4
2 事前工事と事後工事について	4

事前工事と設置前

事前工事について	6
1 火災予防条例に関する確認	6
2 設置場所の確認	6
3 床面の補強工事について	7
4 取付枠を取り付ける	8
取付・設置前には	9
1 現場調査をする	9
2 養生をする	9
3 搬入された製品を確認する	9
各部のなまえ	9

ウォールユニットの設置

ウォールユニットの設置概要	10
各部のなまえ	10
ウォールユニットの取付・設置の流れ	10
1 壁面に凹凸がないことを確認する	11
2 取付位置寸法に合わせて基準線を出す	11
2-1 キャビネットの取付高さを確認する	11
2-2 取付・設置の基準線を出す	12
3 キッチンパネルと見切り材を取り付ける	12
4 不燃ファイラーを取り付ける	12
5 レンジフードを取り付ける	13
6 締結部品類を確認する	13
7 ウォールキャビネットを取り付ける	13
7-1 取付前の準備をする	13
7-2 壁面へ固定する・キャビネットを連結する	19
8 天井ファイラーを取り付ける	22
9 付属品・扉を取り付ける	24
10 扉を調整する	25
11 扉キャッチの動作確認・調整をする	26
12 清掃する	26
13 養生する	27

フロアユニットの設置

フロアユニットの設置概要	28
各部のなまえ	28
フロアユニットの取付・設置の流れ	28
1 締結部品類の確認	29
2 扉・引き出し・幕板・鴨居を外す	30
2-1 扉を外す	30
2-2 引き出しを抜く	30
2-3 幕板を取り外す	31

3 フロアキャビネットを仮設置する	32
3-1 水平基準ラインを出す	32
3-2 フロアキャビネットを仮置きする	33
4 フロアキャビネットを準備する	34
5 フロアキャビネットを連結・壁固定する	39
5-1 連結する	39
5-2 ひな段タイプの点検口を取り付ける	40
5-3 IHヒーター用コンセントを取り付ける	41
5-4 グリルレスコンロ用キャビネットを設置する	41
6 ワークトップを取り付ける	42
6-1 ワークトップ固定用金具を取り付ける	42
6-2 ワークトップを取り付ける	44
6-3 L型ワークトップを連結する	48
6-4 人造大理石トップを連結する	51
7 エンドパネルを取り付ける	59
8 水栓金具・浄水機能付水栓を取り付ける	60
9 排水部品を取り付ける	60
9-1 排水位置を確認する	61
9-2 排水セット部品を取り付ける	61
9-3 水漏れ確認をする	67
9-4 封印シールを貼る	69
9-5 排水接続について	70
10 食器洗い乾燥機を設置する	72
11 加熱機器を設置する	74
12 扉・引き出しを取り付ける	74
12-1 扉を取り付ける	74
12-2 扉キャッチの動作確認・調整をする	74
12-3 引き出しを取り付ける	75
13 扉・引き出しを調整する	76
13-1 扉を調整する	76
13-2 引き出しを調整する	78

取付・設置後

取付・設置後	83
1 清掃する	83
2 シーリングをする	83
3 付属品を取り付ける	84
3-1 棚板を取り付ける	84
3-2 保護シートをはがす	84
3-3 シンクキャビネット(引き出しタイプ)の トラップ下スペーサーを取り付ける	84
3-4 ドアポケットクッションについて	84
3-5 シンク付属品を保管・取り付ける	85
4 養生する	85
5 取付・設置後の確認をする	86
6 事後工事の説明と引き継ぎをする	86
7 廃棄処分について	86

安全上のご注意 — 必ず守ってください

この製品を安全に正しく取付・設置し、使用者や他の人への危害や財産の損害を未然に防止するために、以下の表示を行っています。

いずれも、取付・設置業者や使用者への安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

表示について



警告

誤った取付・設置を行うと、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。



注意

誤った取付・設置を行うと、傷害や物的損害を負う可能性が想定される内容です。



行為を禁止する内容です。



必ず実行してほしい内容です。



警告



作業を行うときは、保護手袋を着用する。
特にステンレス製品を取り扱うときは注意する。
切断面に触れたりして、ケガをするおそれがあります。



ウォールユニットの取付・設置は壁の構造を、フロアユニットの取付・設置は床の構造を確認し、正しく行う。
ウォールキャビネットが落下してケガをするおそれがあります。
床がたわんで損傷するおそれがあります。



建設工事(電気工事・管工事・大工工事・建具工事など)は、関連する法令・規定に従って、必ず有資格者が行う。
無資格者が行うと法令に違反することになり、火災や感電・ガス漏れ・水漏れするおそれがあります。



注意



本書に書かれた手順を守り、正しく取付・設置する。
思わぬ事故や破損・故障するおそれがあります。



システムキッチンに組み込まれる電気機器や加熱機器・レンジフードなどの取付・設置については、それぞれに付属している説明書やラベル表示に記載されている内容を守って正しく行う。
思わぬ事故や破損・故障するおそれがあります。



作業中に使用する、溶剤や接着剤・洗剤、その他の薬品類については、それぞれに記載されている内容を守って、正しく取り扱う。
人体に影響が出たり、部材の損傷や劣化のおそれがあります。



取付・設置完了後は、引き出しや扉のガタツキや傾き、丁番のゆるみがないことを確認し、ある場合は調整してから引き継ぎをする。
使用中に扉や引き出しが落下や破損して、ケガをするおそれがあります。

本製品のホルムアルデヒド発散区分

表 示 内 容	
1 商品名	システムキッチン
2 企業名	株式会社 LIXIL
3 ホルムアルデヒド発散区分	内装仕上げ部分および下地部分とも F☆☆☆☆
4 表示ルール	「住宅部品表示ガイドライン」 キッチン・バス工業会表示指針による
5 製造番号又は年月日	キャビネット本体に貼付けの検査証によりご確認ください。

VOC放散性能	4VOC基準適合(木質建材)
表示ルール	住宅部品VOC表示ガイドラインによる

*4VOCとは、トルエン・キシレン・エチルベンゼン・スチレンを示す。

工事区分と説明内容について — 知っておいてください

1 建設工事について

- 新築や改築、リフォームの現場ではシステムキッチンの取付・設置の前後に「建設工事」が必要です。
- 「建設工事」には、大工工事・電気工事・ガス配管工事・管工事(給排水)・建具工事などがあります。

⚠ 警告

- 建設工事(大工工事・電気工事・建具工事・管工事など)は、関連する法令・規定に従って、必ず有資格者が行う。
法令に違反することになり、火災や感電・ガス漏れ・水漏れのおそれがあります。

2 事前工事と事後工事について

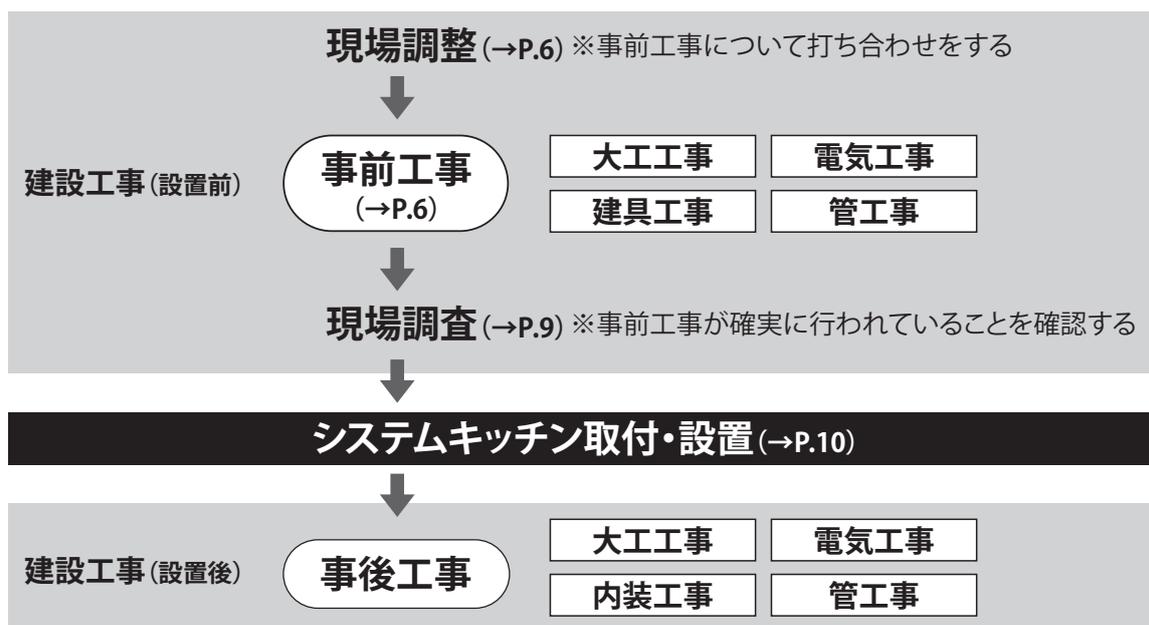
- システムキッチンの取付・設置の前に行う建設工事を「事前工事」、取付・設置の後に行う建設工事を「事後工事」と呼びます。
- 事前工事・事後工事の作業内容は右表を参照してください。
- 事前工事の前後に「現場調整」(→P.6)・「現場調査」(→P.9)を行い、事前工事が確実に行われていることを確認してから取付・設置を行ってください。
また、システムキッチンの取付・設置後は、事後工事が行われるので、引き継ぎを確実に行ってください。(→P.86)

⚠ 注意

- 事前工事の確認、事後工事への引き継ぎを確実に行う。
システムキッチンの取付・設置が正しく行えず、使用者の方がケガをしたり、扉・引き出しなどの動作不備が発生するおそれがあります。

システムキッチン取付・設置の流れ

- 本書では、システムキッチンの取付・設置と建設工事(事前・事後工事)を区別して説明しています。
- 事前・事後工事で行う説明内容については、以下のアイコンで表しています。



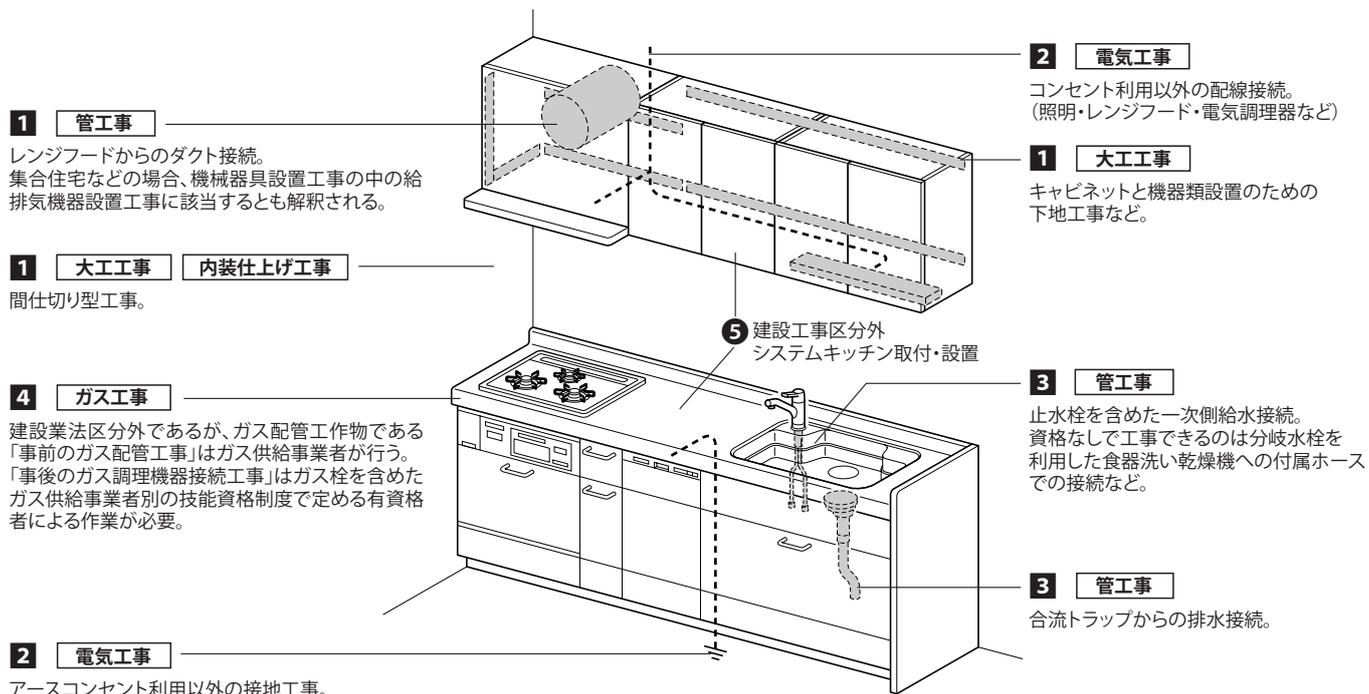
- BL認定品には製品や施工の瑕疵、その瑕疵に起因する損害に係る優良住宅部品瑕疵担保責任保険・損害賠償責任保険が付されています。

システムキッチンの工事区分表 (例)

■ 内が本書で主に説明するシステムキッチンの取付・設置作業です。
 ※作業名称や作業内容は例です。実際の工事工程表を確認してください。

工事区分	工事の種類	工事・作業のなまえ(区分)	有資格者が行う					作業内容
			建設業区分		建設業外			
			大工工事業	管工事業	電気工事業	ガス設備	キッチン取付	
建設工事	事前工事 (→P.6)	1 大工工事業 管工事	外壁の開口工事	○	○			建築壁にレンジフードのダクト用の穴を開ける
			建築壁の下地処理工事	○				キャビネットなどを取り付けるために壁面の下地処理をする
			排気ダクトの関連工事		○			建築物へ排気ダクトを配管する
			キッチンパネル下地処理工事	○				キッチンパネルを貼るために壁面の下地処理をする
	2 電気工事	レンジフードの電源アース工事			○		屋内配線と配線器具(コンセント)工事をする	
		加熱機器の電源アース工事			○		加熱機器の事前電気工事をする	
		ウォールキャビネットの電気工事			○		屋内配線と配線器具(照明)の接続・検査工事をする	
		電動昇降機の電源工事			○		電動昇降機の専用電源・アース工事をする	
		食器洗い乾燥機の電源・アース工事			○		食器洗い乾燥機用の専用電源・アース工事をする	
		その他電気機器の電源工事			○		屋内配線と配線器具(コンセント)工事をする	
	3 管工事	排水配管の立上工事		○			キッチンの排水用配管を所定位置へ立ち上げる	
		給水給湯配管立上工事		○			キッチンの給水給湯用配管を所定位置へ立ち上げる	
	4 ガス工事	食器洗い乾燥機用給排水配管工事		○			食器洗い乾燥機用の給水給湯・排水用配管の事前工事	
		ガス調理機器のガス配管				○	ガス調理機器用の事前ガス配管工事	
	システムキッチン取付・設置 (→P.10)	5 建設工事区分外	キッチンパネル貼付作業(→P.12)				○	キッチンパネルを加工して建築下地へ貼り付ける
			レンジフード取付作業(→P.13)				○	本体および化粧パネルを取り付ける
ウォールキャビネットの準備・取付作業(→P.13)							○	ウォールユニットを壁へ取り付ける
電動昇降ウォールキャビネット取付作業							○	電動昇降ウォールキャビネットを壁へ取り付ける
フロアキャビネット・トップの設置・取付作業(→P.28)							○	キャビネットやトップを組み立て、設置する
キッチン排水用部品の組立作業(→P.60)							○	排水トラップ部品をシンクに取り付ける
水栓の組立・トップへの取付作業(→P.60)							○	水栓・浄水器の同梱部材を組み立て、トップに取り付ける
ビルトイン機器の取付作業(→P.72・74)							○	ビルトイン機器をキッチン本体に組み込む
製品間のシリコン充填作業(→P.83)							○	製品間のすき間を仕上げ処理する
試運転・完成品検査(→P.86)(※)							○	完成後の試運転、性能の確認検査をする
建設工事	6 電気工事	ウォールキャビネット照明器具工事				○	事前配線した電源線と照明器具を接続し、検査する	
		電気配線器具の取付作業				○	スイッチやコンセントなどの電気配線工事をする	
	7 ガス工事	レンジフードとダクト接続工事		○			ダクトとレンジフードを接続し、検査する	
		その他電化機器の工事			○		電化機器と電源線、アースを接続する	
8 管工事	ガス調理機器のガス管接続				○	ガス調理機器とガス配管の配管接続工事をする		
	給水給湯配管と水栓の接続		○			給水・給湯の一次側と水栓を接続し、検査する		
		給水給湯配管とオプション機器の接続		○		オプション機器と一次側給排水を接続し、検査する		

※製品の完成品検査、試運転は、事後工事完成後に行う場合が多い。



事前工事について — 有資格者が行ってください

現場調整で以下のことを確認してください。

不備がある場合は手直しが必要です。現場責任者に不備のある場所や内容を伝えてください。

1 火災予防条例に関する確認

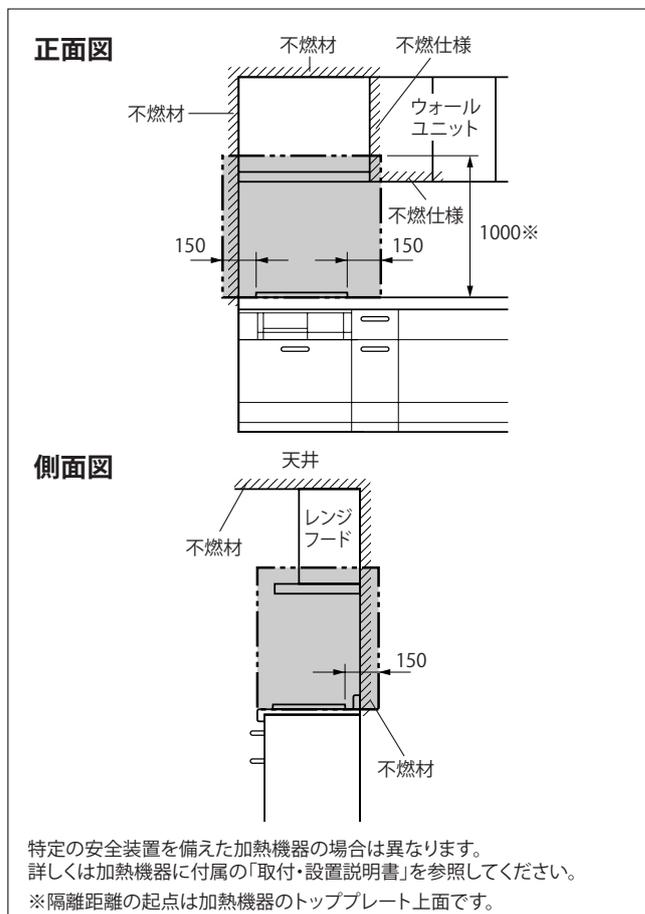
火災予防条例(例:東京都)では、図の[]内に不燃材以外の材料があってはならないと規定されています。

●右図のレンジフード周り(斜線部)や[]内には、不燃仕様のウォールユニットやエンドパネルを設置する。また、壁面や天井の素材にも、関連する法令・規定に準じて、不燃材を使用する。

●下地を準不燃材以下で仕上げている場合は、加熱機器を運転させたときに、下地の表面温度が100℃を超えないこと。
(室温35℃とした場合の換算温度)

※詳細に関しては各自治体か所轄の消防署へ確認してください。

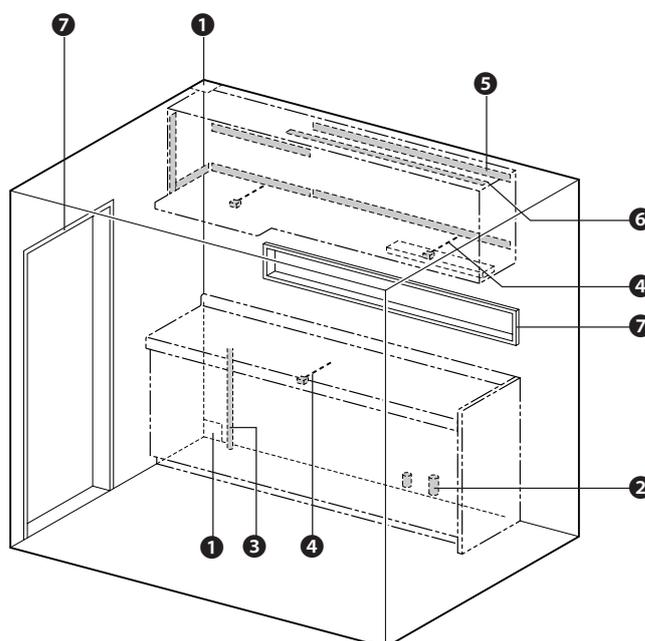
※上記の条件以上に規定されている地域もありますので、地域の条例に従ってください。



2 設置場所の確認

システムキッチンの取付・設置場所について以下のことを確認してください。

- ① 設置場所の水平・垂直・コーナーの直角など、レベルがでていること。
- ② 給水給湯管・排水管の位置。
- ③ 加熱機器の配管・配線接続位置。
- ④ 電気製品の配線接続位置。
- ⑤ ユニットを取り付ける壁面の強度、また必要な場所に取り付枠や下地が入っていること。(→P.8)
- ⑥ 天吊型ウォールキャビネットを取り付ける場合の天井の強度、また必要な場所に取り付枠や下地があること。
- ⑦ 扉や引き出しを完全に開いたときに、窓枠やドア枠・巾木などと干渉しないこと。



事前工事には、主に以下の作業があります。

大工工事

- 床の補強工事
- 取付棧の取り付け
- 排気ダクトの関連工事と開口工事

電気工事

- 電源線の取り出し・コンセントの取り付け

管工事

- 給水給湯管・排水管の立ち上げ など

ガス工事

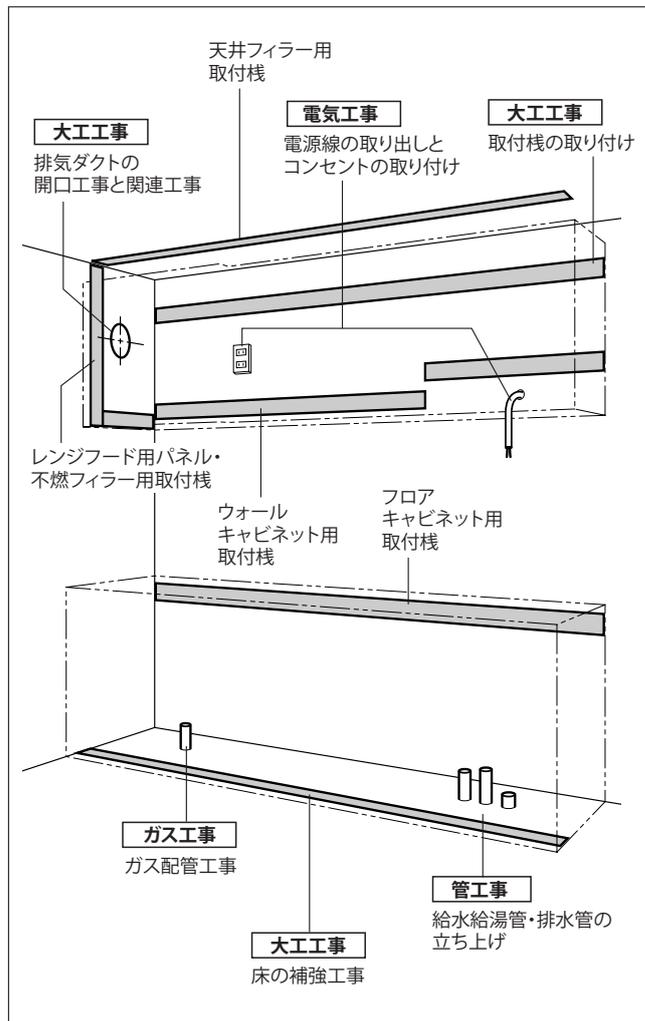
- ガス調理機器のガス配管工事

特に、床面の補強工事と取付棧については、システムキッチンの取付・設置に直接関わりますので注意してください。

⚠ 警告

❗ 建設工事（電気工事・管工事・大工工事・建具工事など）は、関連する法令・規定に従って、必ず有資格者が行う。

法令に違反することになり、火災や感電・ガス漏れ・水漏れするおそれがあります。



3 床面の補強工事について

1. システムキッチンを設置する床が荷重に耐えられる材質・構造であることを確認する。
2. 床裏の根太や束、補強支持脚などを225～310mm程度の間隔で設置する。

⚠ 注意

❗ システムキッチンを設置する床が、荷重に耐えられる材質や強度であることを確認する。（耐荷重は右表参照）足りない場合は補強工事をする。床の強度が弱いと、床やキッチンユニットが沈み、不具合が発生する原因になります。

〈システムキッチン全体の重量と耐荷重の目安〉

キッチン型レイアウトの場合

床耐荷重：480kg/m²

間口W (mm)	重量 (kg)
2100	580
2400	670
2550	710
2700	750
3000	830

大型収納など

床耐荷重：1200kg/m²

間口W (mm)	重量 (kg)
1800	950
2100	1110
2400	1260
2700	1420
3000	1580

【参考】

グランドピアノ 300～500kg

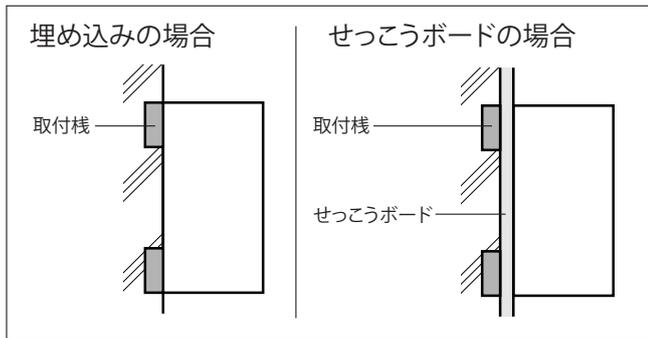
警告

システムキッチンを取り付ける壁面に、荷重に耐えられる取付棧や下地があることを確認する。
強度が弱いと、キャビネットが落下し、ケガをするおそれがあります。

4 取付棧を取り付ける

強度のある取付棧や下地が必要

- 取付棧を壁面に取り付けるか、埋め込む。
※せっこうボードで仕上げる壁面の場合は、せっこうボードの内側に取付棧を取り付けます。

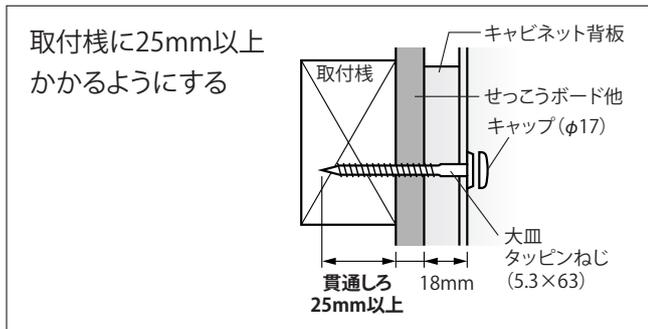


- システムキッチンを取り付ける壁面に、本体と収納物の荷重(1キャビネットあたり最大300kg)に耐えられる取付棧を柱・間柱へ確実に固定する。

取付棧の素材

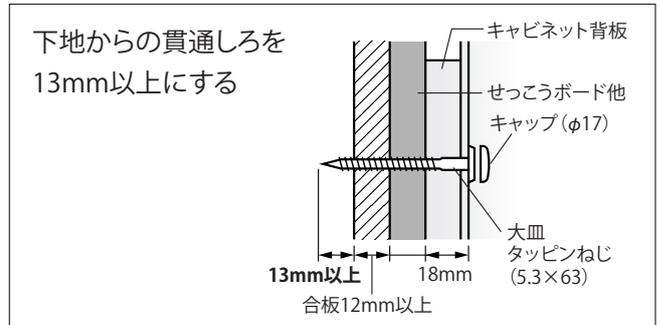
無垢材の場合

- 広葉樹、マツ・ツガなど、強度がある針葉樹。
- 厚さ30mm以上、幅100mm以上。



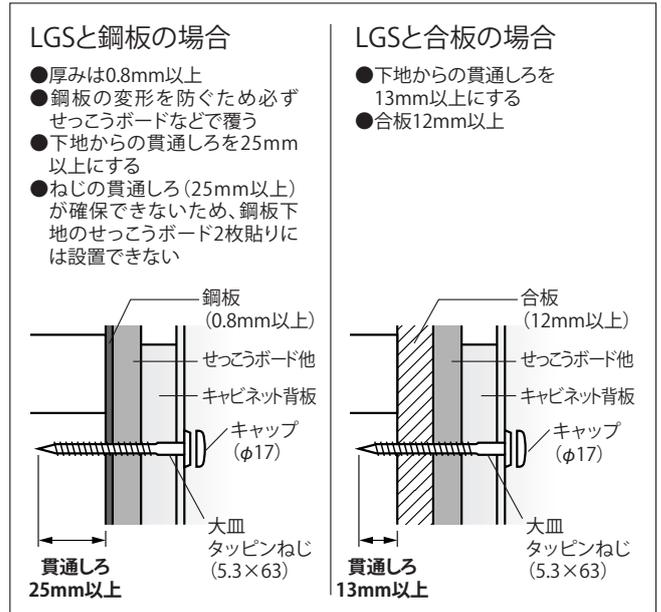
合板の場合

- ラワン合板などの硬い材質の普通合板(表面が平滑でフシや虫くい、腐れがないもの)。
- 厚さ12mm以上。
- ねじで固定する箇所だけでなく、吊戸棚全体の下地とする。



軽量鉄骨躯体の場合

軽量鉄骨躯体(LGS)の設置間隔は300mm以下。



取付・設置前には

1 現場調査をする

事前工事(P.6～P.8)が確実に行われていることを確認してください。

不備がある場合は手直しが必要ですので、現場責任者に不備のある場所や内容を伝えてください。

2 養生をする

製品の搬入や作業前に、他の建具や建材、搬入路の床や壁・天井・エレベーター内、取付・設置場所を傷つけないように、しっかり養生してください。

⚠️ 注意

- ❗ 製品を荷受けする前に、搬入路や仮置位置に養生をしっかりと行う。
搬入路や製品を傷つけたり、破損させるおそれがあります。

3 搬入された製品を確認する

製品の荷受時に、以下のことを確認してください。

1. 外装箱が凹んでいたり、傷ついたりしていないこと。
2. 製品が、図面と同じであること、注文と同じ色であること。
3. 注文した製品と納入された製品の左右勝手やガス種、周波数など。

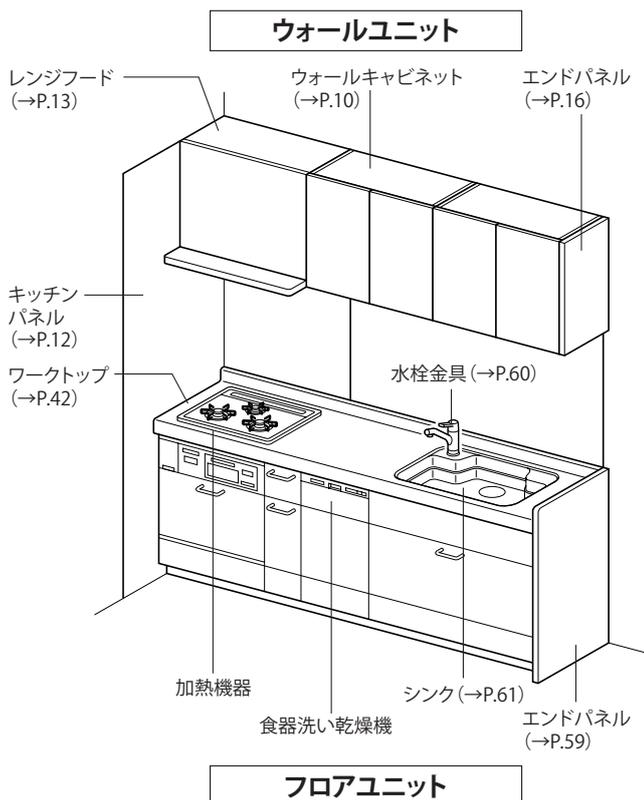
⚠️ 注意

以下の内容を守らないと、製品が破損し、ケガをする原因になります。

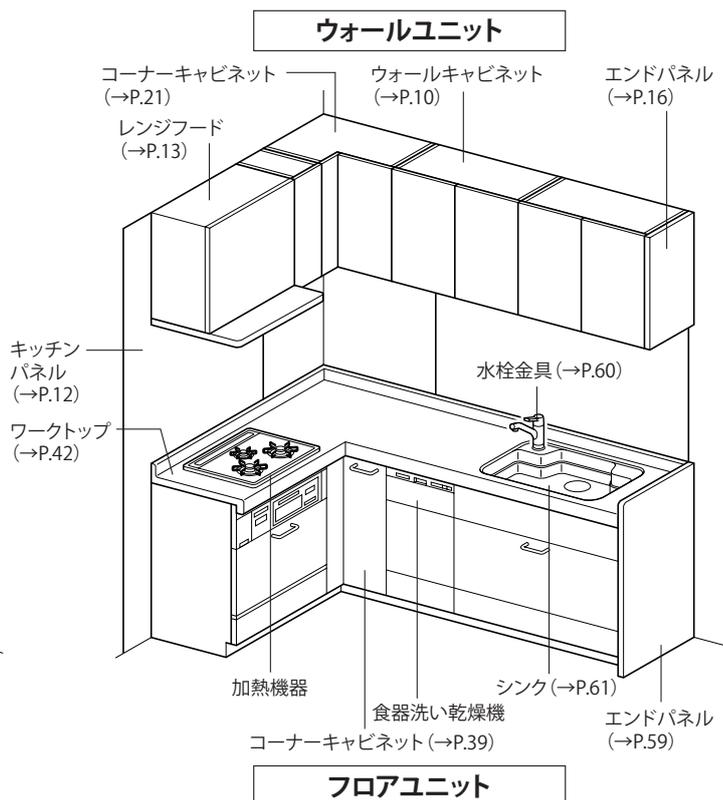
- ❌ 外装箱の表示に従って、注意して搬入し、乱暴に取り扱わない。
- ❌ 搬入路の床や壁・天井などに製品をぶつけない。

各部のなまえ

I型レイアウト

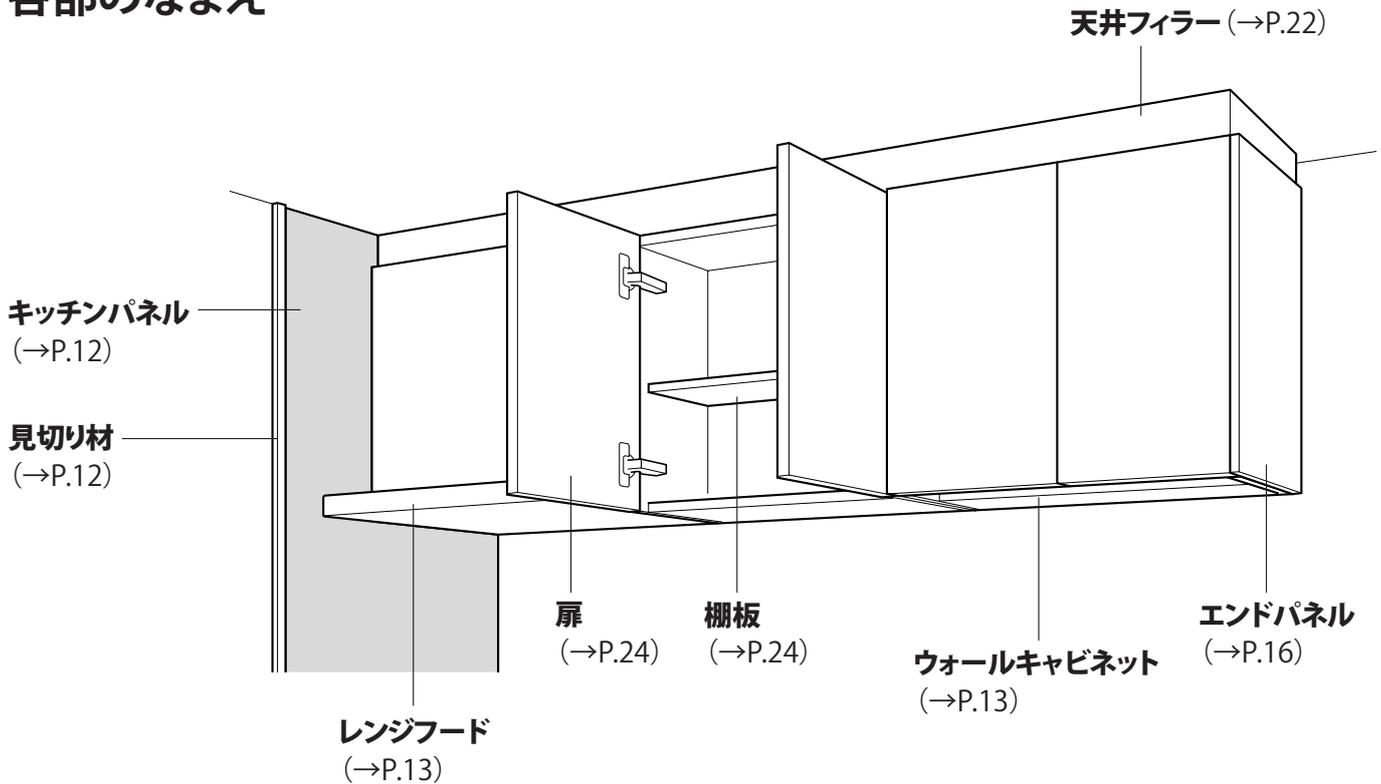


L型レイアウト



ウォールユニットの設置概要

各部のなまえ

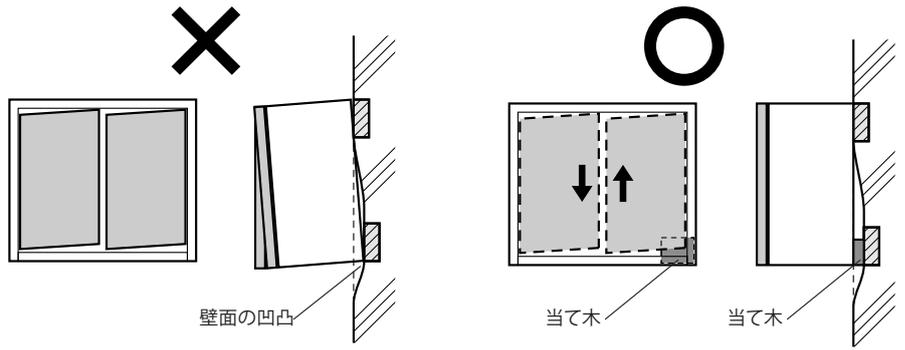


ウォールユニットの取付・設置の流れ

- ① 壁面に凹凸がないことを確認する 11
- ② 取付位置寸法に合わせて基準線を出す 11
- ③ キッチンパネルと見切り材を取り付ける 12
- ④ 不燃フィラーを取り付ける 12
- ⑤ レンジフードを取り付ける 13
- ⑥ 締結部品類を確認する 13
- ⑦ ウォールキャビネットを取り付ける 13
- ⑧ 天井フィラーを取り付ける 22
- ⑨ 付属品・扉を取り付ける 24
- ⑩ 扉を調整する 25
- ⑪ 扉キャッチの動作確認・調整をする 26
- ⑫ 清掃する 26
- ⑬ 養生する 27

1 壁面に凹凸がないことを確認する

ウォールユニットを取り付ける壁面に凹凸があると、扉位置にズレが生じて正しく閉めることができません。壁面が平らであることを確認してください。
壁面に凹凸がある場合は、当て木をはさむなどして調整してください。



2 取付位置寸法に合わせて基準線を出す

2-1

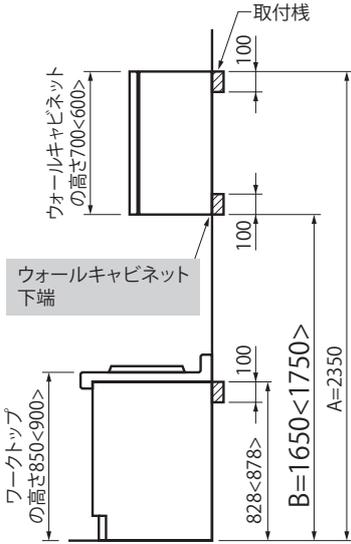
キャビネットの取付高さを確認する

図は、参考取付位置図です。
下表、または取付・設置図面を確認し、ウォールキャビネット下端Bを位置出ししてください。

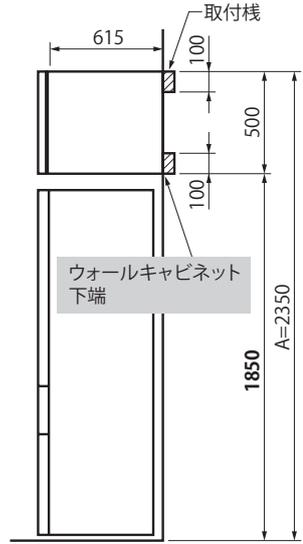
(単位:mm)

ワークトップ高さ	A	B
800	2300	1600
850	2350	1650
900	2350	1750

ワークトップ高さ900・850mmの場合

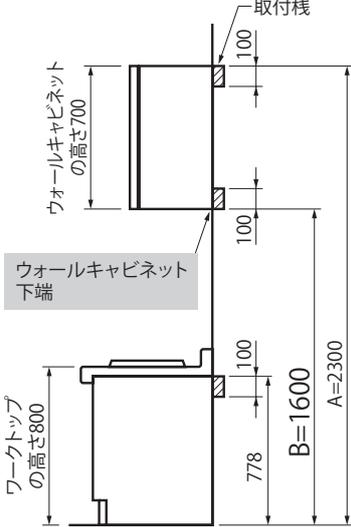


冷蔵庫用上置きキャビネットの場合

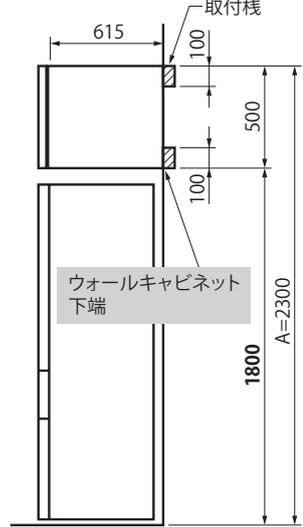


※< >はワークトップ高さ900の場合です。

ワークトップ高さ800mmの場合



冷蔵庫用上置きキャビネットの場合



ウォールユニットの設置

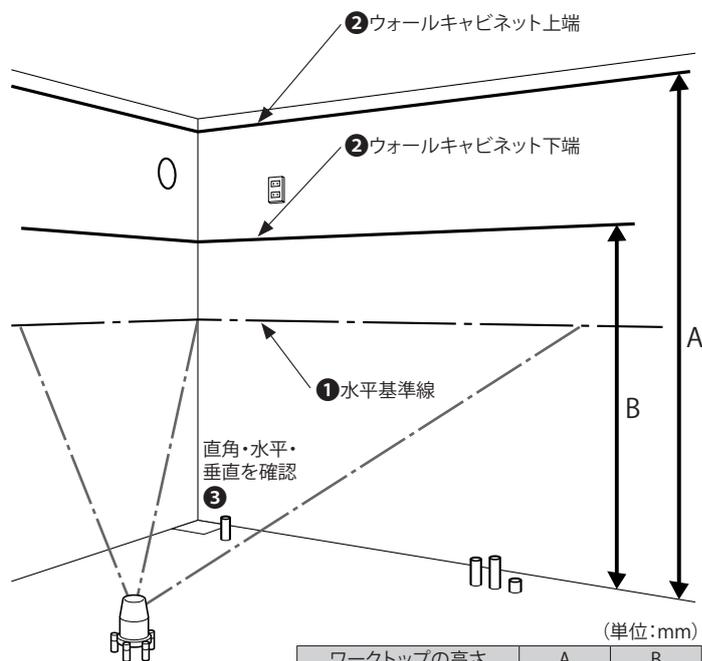
2-2 取付・設置の基準線を出す

⚠ 注意

必ずウォールキャビネットを設置する場所の水平・垂直・直角・レベルを正確に確認し、基準線を出す。

ウォールキャビネットが水平・垂直が出ないために、扉キャッチが正常に作動せず、ケガをするおそれがあります。

- 1 レーザーや水準器などで各コーナーにポイントを取り、水平基準線を出す。^①
- 2 水平基準線と平行に、「2-1」で出したウォールキャビネット下端と上端に、墨出しをする。^②
- 3 床、壁面、天井の直角と水平、垂直をレーザーや水準器などで確認する。^③

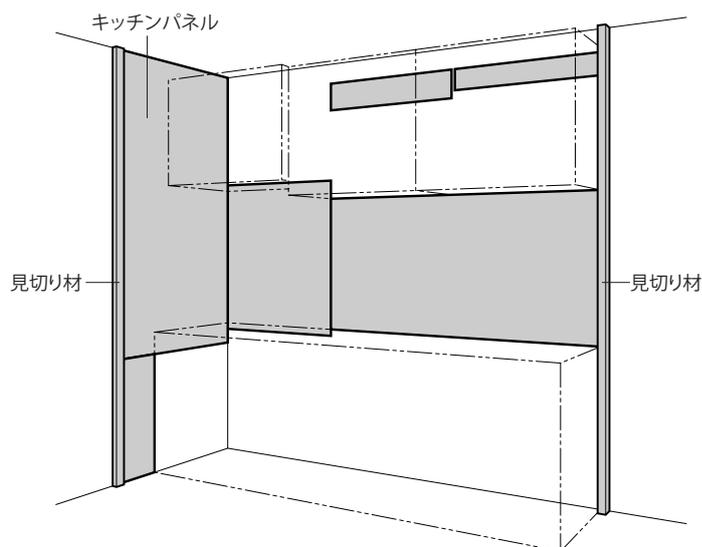


(単位:mm)

ワークトップの高さ	A	B
800	2300	1600
850	2350	1650
900	2350	1750

3 キッチンパネルと見切り材を取り付ける

キッチンパネル部材に付属の「取付・設置説明書」を参照して、キッチンパネルを壁面に、見切り材をキッチンパネルに取り付けてください。



4 不燃フィラーを取り付ける ※不燃フィラーがある場合のみ

不燃フィラーに付属の「取付・設置説明書」を参照して、壁面とレンジフードの間に取り付けてください。

5

レンジフードを取り付ける

レンジフードに付属の「取付・設置説明書」を参照して、壁面に取り付けてください。

6

締結部品類を確認する

警告

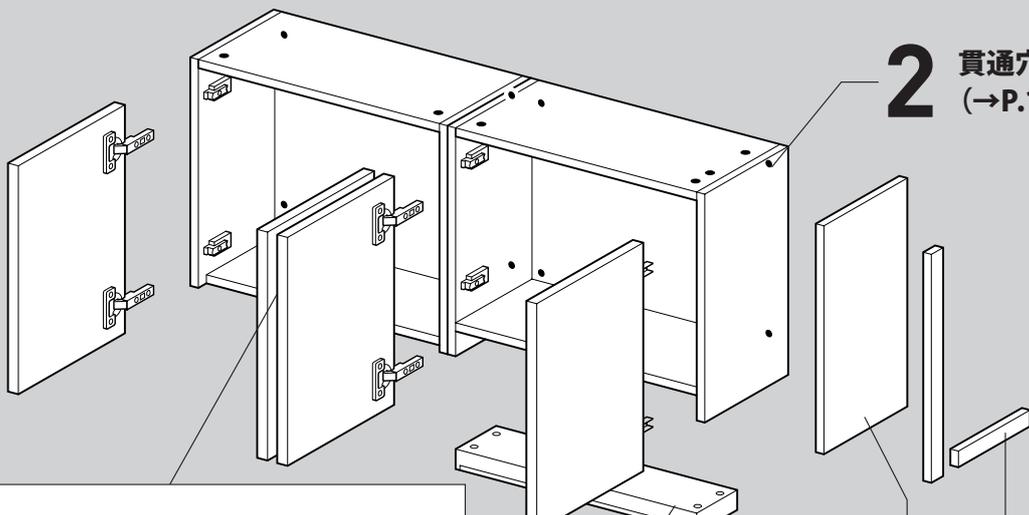
- ❗ **必ず指定の部品を使用する。**
キャビネットの落下などにより、ケガをするおそれがあります。
- ❗ **ねじを締め過ぎないようにする。**
空回りやねじ頭がつぶれることで、確実に固定できないと、キャビネットなどが落下してケガをするおそれがあります。

部品名	部品図	用途
大皿タッピンねじ 5.3 × 63 φ17 キャップ		キャビネットの 壁面固定用
皿タッピンねじ 4.5 × 27 (頭白塗装)		キャビネットの連結用 エンドパネルの固定用
棚受け		棚板の取付用

7

ウォールキャビネットを取り付ける

7-1 取付前の準備をする



- 1 扉を外す**
標準扉の場合
レバーを引いて外す
コーナーキャビネット用扉の場合
レバーを引いて外す
- 2 貫通穴を開ける (→P.14)**
- 3 照明付ウォールキャビネットを準備する (→P.16)**
- 4 エンドパネルを取り付ける (→P.16)**
- 5 フィラーを取り付ける (→P.17)**

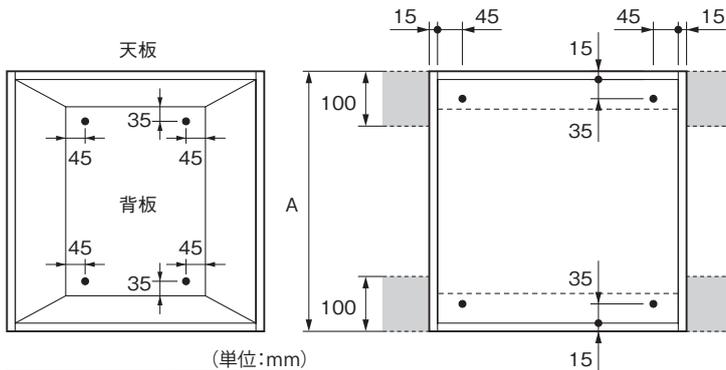
2 貫通穴を開ける

- 1 ウォールキャビネットの種類や寸法によって、壁面固定の取付位置やねじの本数が異なるので確認する。
- 2 取付位置にφ5.5以下の貫通穴を開ける。

⚠️ 注意

- ⊘ φ5.5より大きな貫通穴を開けない。
ウォールキャビネットの保持力が弱くなり、キャビネットが落下してケガをする原因になります。

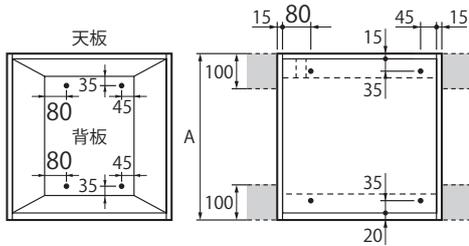
●標準タイプ:ねじ4本固定



(単位:mm)

タイプ	A(本体高さ)
ロング(H900)	900
ミドル(H700)	700
ミドル(H600)	600
ショート(H500)	500

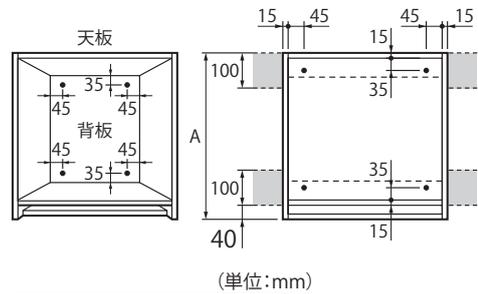
●LED照明付タイプ:ねじ4本固定



(単位:mm)

タイプ	A(本体高さ)
ミドル(H700)	700
ミドル(H600)	600
ショート(H500)	500

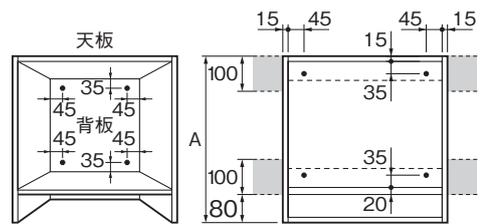
●インバーター照明付タイプ:ねじ4本固定



(単位:mm)

タイプ	A(本体高さ)
ミドル(H700)	700
ミドル(H600)	600

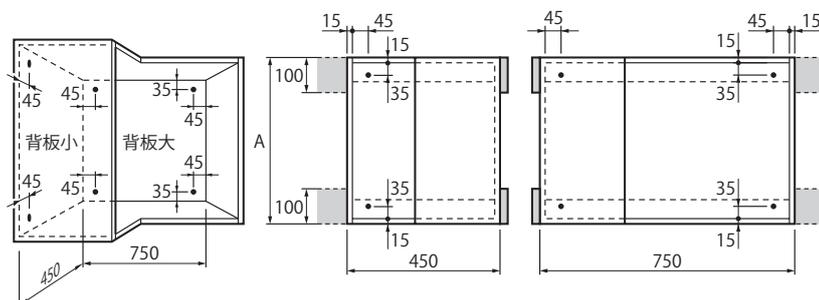
●クイックパレット付タイプ:ねじ4本固定



(単位:mm)

タイプ	A(本体高さ)
ミドル(H700)	700
ミドル(H600)	600

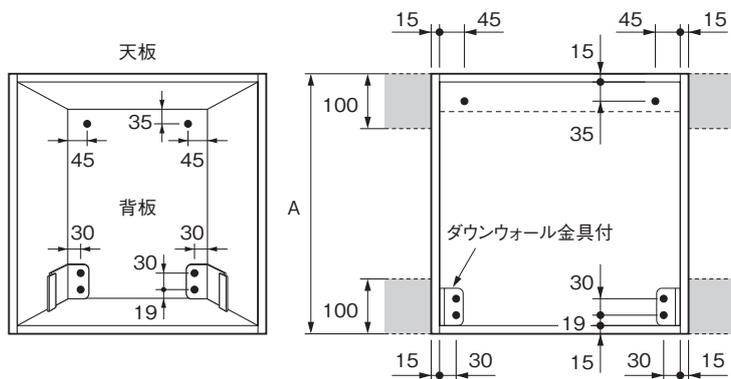
●コーナータイプ(L型コーナー):背板小側ねじ2本固定/背板大側ねじ4本固定



(単位:mm)

タイプ	A(本体高さ)
ロング(H900)	900
ミドル(H700)	700
ミドル(H600)	600
ショート(H500)	500

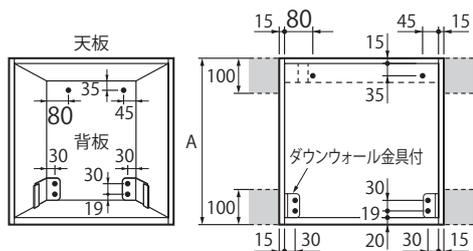
●ダウンウォール付タイプ:ねじ6本固定



(単位:mm)

タイプ	A(本体高さ)
ミドル(H700)	700
ミドル(H600)	600

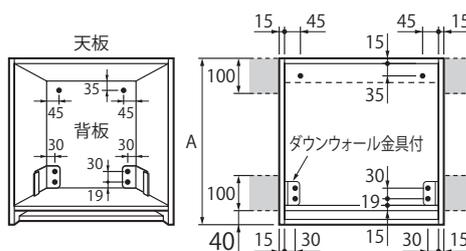
●ダウンウォール・LED照明付タイプ:ねじ6本固定



(単位:mm)

タイプ	A(本体高さ)
ミドル(H700)	700
ミドル(H600)	600

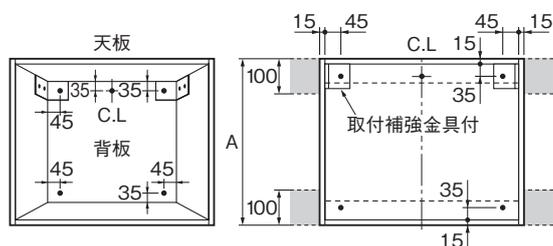
●ダウンウォール・インバーター照明付タイプ:ねじ6本固定



(単位:mm)

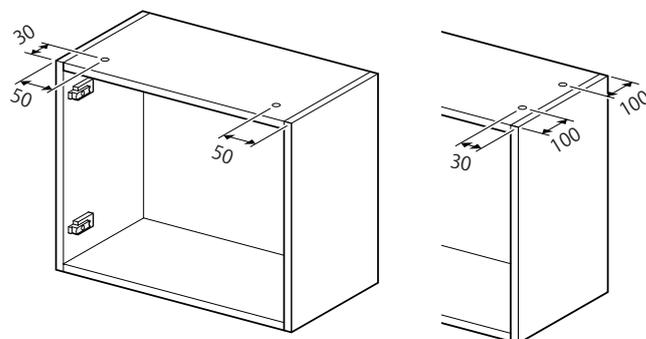
タイプ	A(本体高さ)
ミドル(H700)	700
ミドル(H600)	600

●冷蔵庫用上置きキャビネット:ねじ5本固定



●天井フィラーを設置するときの貫通穴

天井フィラーを設置するときは、
取付枠固定用の貫通穴(φ5.5~6)を開けてください。



※オープン側のウォールキャビネットは奥行方向にも貫通穴を開ける。

⚠注意

照明付タイプ、クイックパレット付タイプの背面に電源線を配線するための切欠き溝があるので、溝を避けて壁面に取り付ける。
取付強度が得られず、キャビネットが落下したり、電源線が断線するおそれがあります。

7 ウォールキャビネットを取り付ける

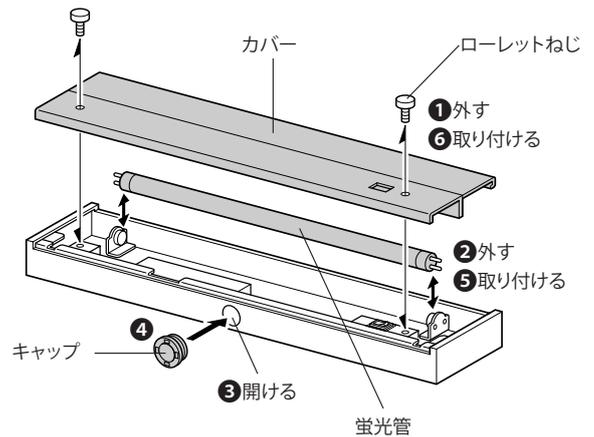
3 照明付ウォールキャビネットを準備する

●LED照明付きタイプの場合

キャビネットに付属の「取付・設置説明書」を参照して、LED照明を取り付けてください。

●インバーター照明付きタイプの場合

- 1 照明器具のローレットねじをゆるめて、カバーを外す。^①
- 2 蛍光管を外す。^②
- 3 照明器具背面の電源取込口を開けて、^③キャップを取り付ける。^④
- 4 外した蛍光管とカバーを取り付ける。^{⑤⑥}

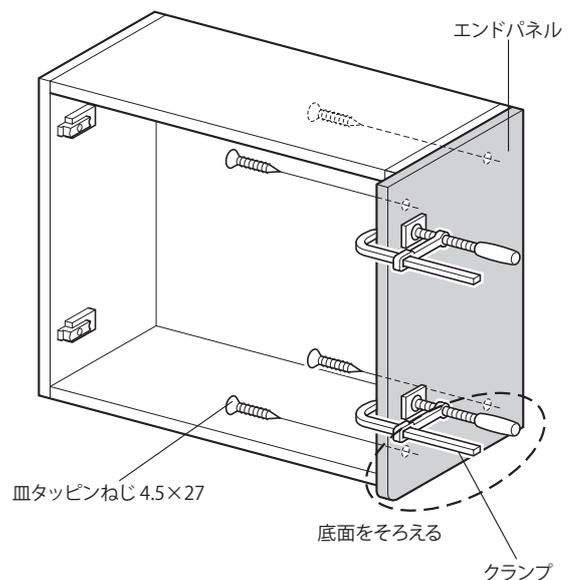
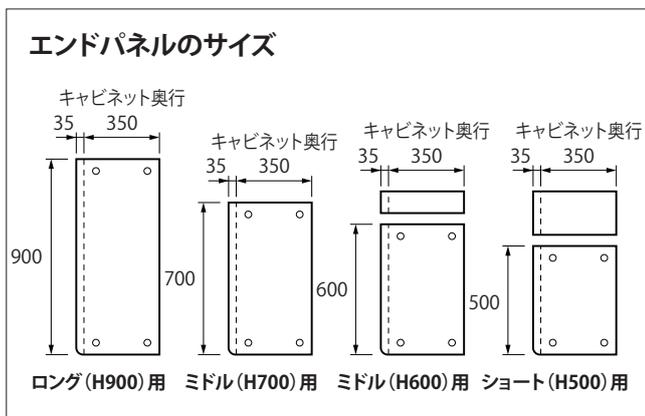


4 エンドパネルを取り付ける

- 1 保護シートが貼ってあるエンドパネルの場合は、保護シートをはがす。
- 2 エンドパネルを必要な長さにカットする。
ミドル (H600) とショート (H500) に取り付ける場合、エンドパネルをカットします。

〈使用する締結部品〉

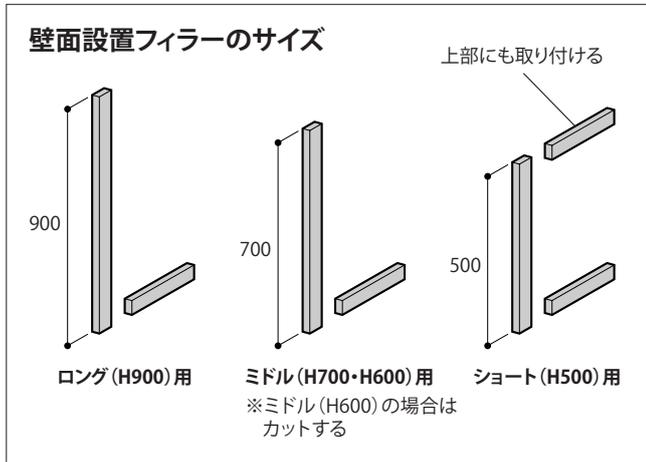
部品名	部品図
皿タッピンねじ 4.5×27 (頭白塗装)	



- 3 エンドパネルをクランプで固定する。
- 4 エンドパネルをキャビネットにねじで固定する。

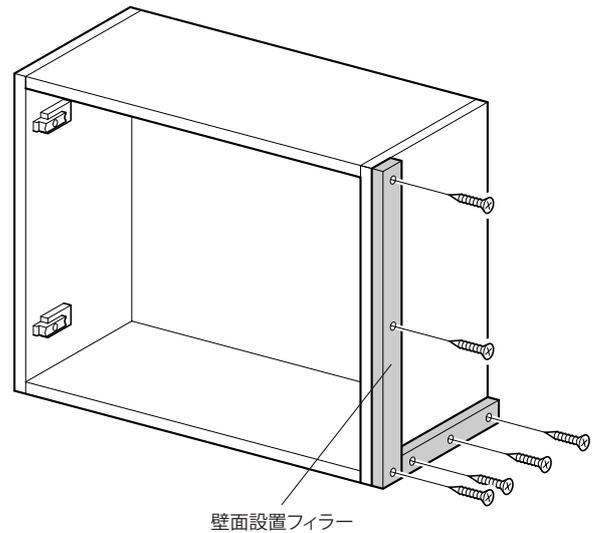
5 フィラーを取り付ける

●壁面設置フィラーの場合(幅5~30mm)



〈使用する締結部品〉

フィラーの厚み	部品名	部品図
5mm	皿タッピンねじ 3.5×16	
10~30mm (5mmピッチ)	トラスタッピンねじ 3.5×16	



- 1 フィラーをキャビネットの前面と底面にそろえてねじで固定する。
- 2 ウォールキャビネットがH500の場合、上部にもフィラーを取り付ける。

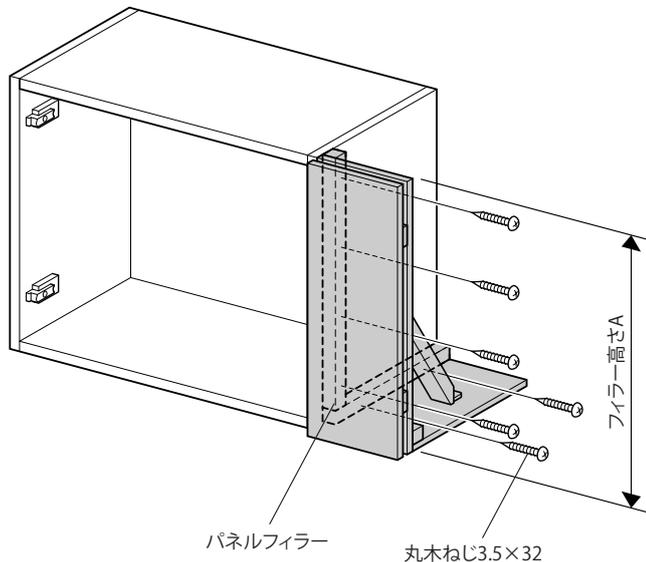
●パネルフィラーの場合(幅20~145mm)

〈パネルフィラーのサイズ〉 (単位:mm)

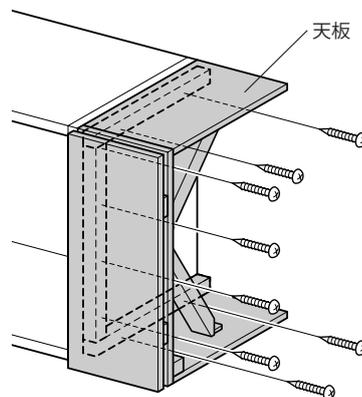
	A
ロング(H900)用	900
ミドル(H700)用	700
ミドル(H600)用	600
ショート(H500)用	500

〈使用する締結部品〉

部品名	部品図
丸木ねじ 3.5×32	
皿木ねじ 3.5×28	



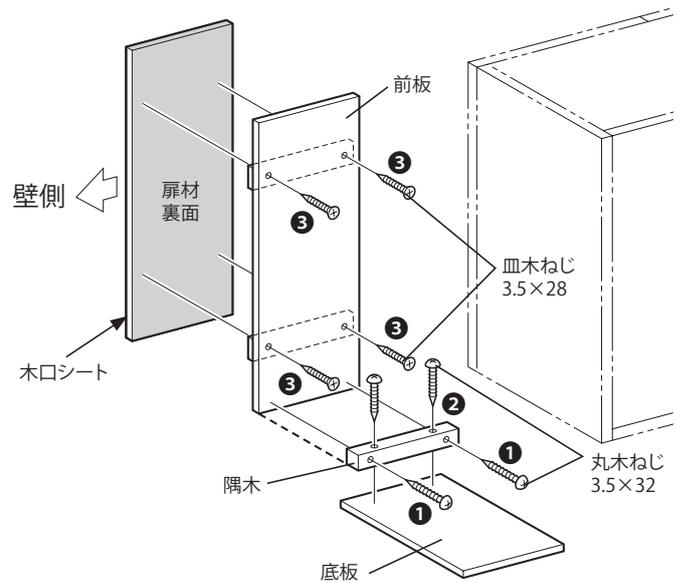
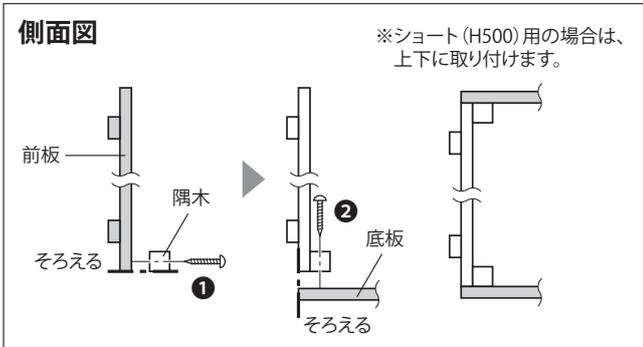
※ショート(H500)用の場合は、天板も取り付けます。



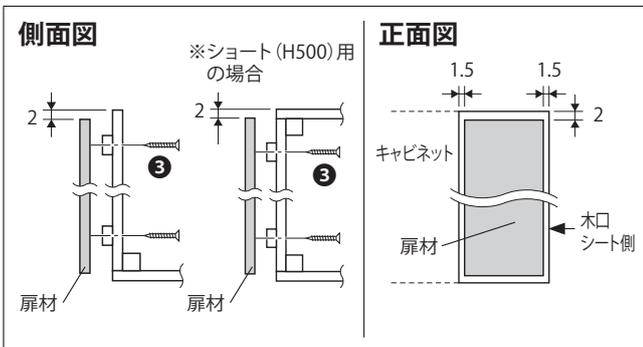
7 ウォールキャビネットを取り付ける

1 前板に隅木をねじで固定する。①

2 隅木を底板にねじで固定する。②

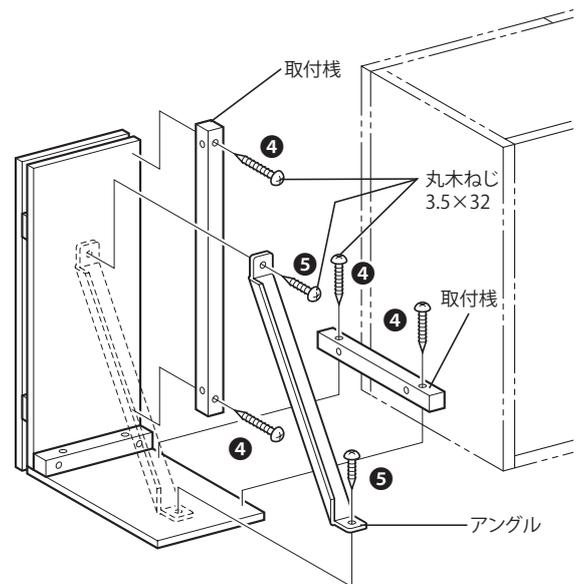


3 扉材を前板にねじで固定する。③

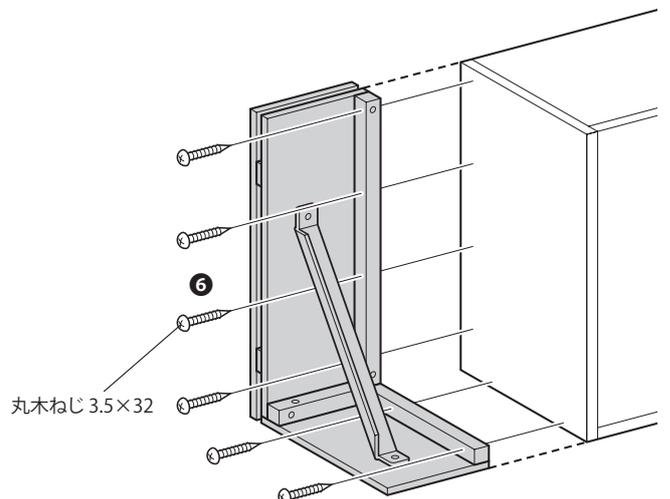


4 取付棧を底板と前板にねじで取り付ける。④

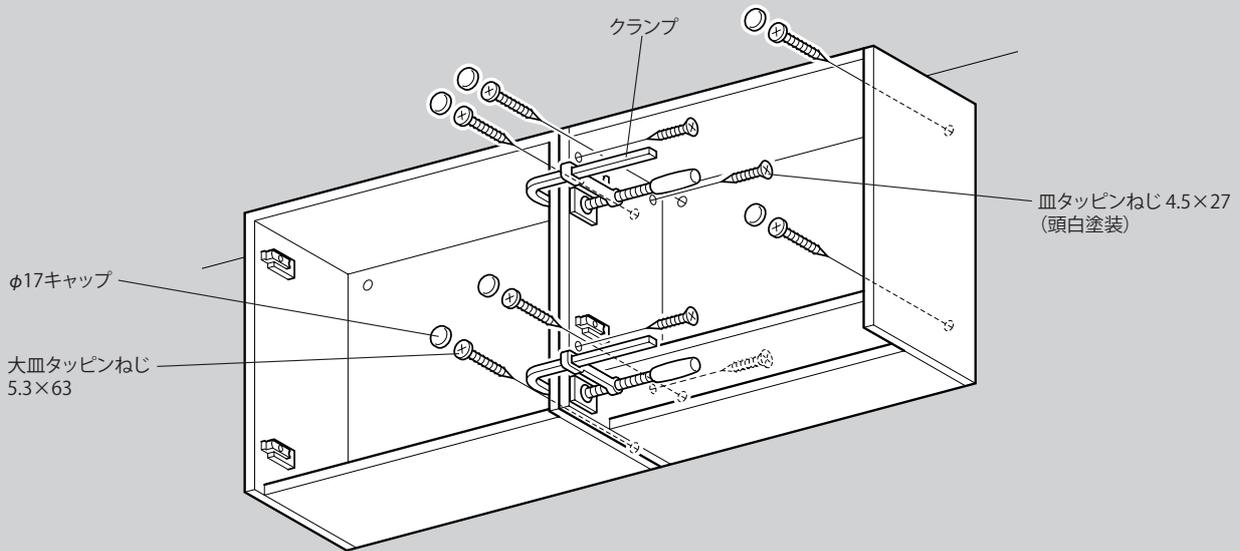
5 アンゲルを底板と前板にねじで取り付ける。⑤



6 組み立てたパネルフィラーをウォールキャビネット側面にねじで取り付ける。⑥



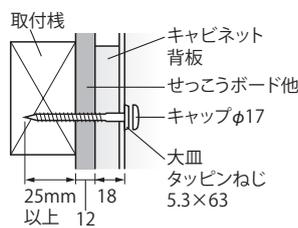
7-2 壁面へ固定する・キャビネットを連結する



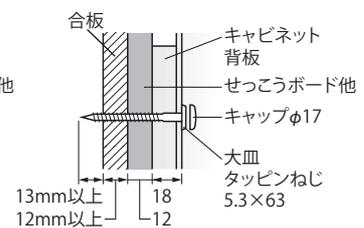
⚠ 警告

- ❗ 以下の内容を守らないと、ウォールキャビネットを確実に固定できないため、落下してケガをするおそれがあります。
- 指定しているねじの種類、本数、固定場所を守る。
- ねじを締め過ぎないようにする。
- 取付棧に25mm以上かかるようにする。
- 躯体側にねじ下穴を開ける場合は、φ3で開ける。

取付棧の場合



合板の場合

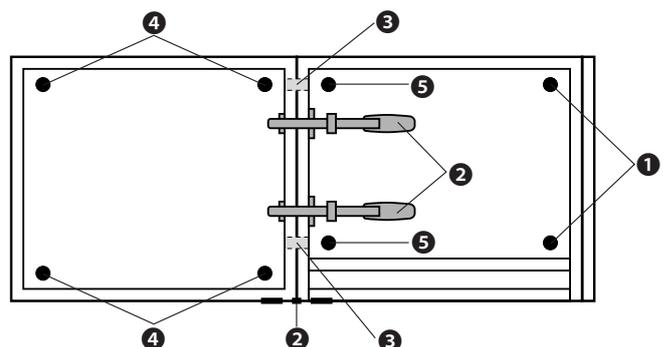


壁面への固定と連結の順序

- 1 1台目のエンド部を壁面に固定する。①
- 2 キャビネットどうしの前面と底面をそろえて、クランプで固定する。②
- 3 キャビネットどうしを連結する。③
- 4 2台目を壁面に固定する。④
- 5 1台目の連結側を壁面に固定する。⑤

〈使用する締結部品〉

部品名	部品図	用途
大皿タッピンねじ 5.3 × 63 φ17キャップ		キャビネットの壁面固定用
皿タッピンねじ 4.5 × 27 (頭白塗装)		キャビネットの連結用



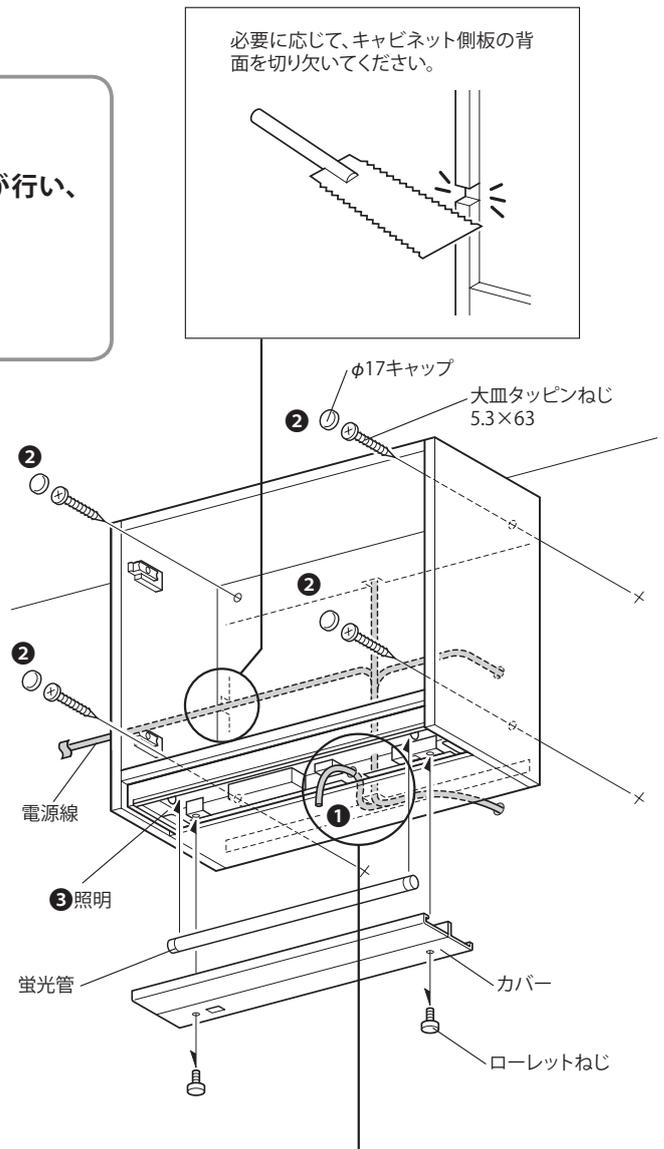
照明付ウォールキャビネットの場合

警告

❗ 電気工事は、関連する法令・規定に従って有資格者が行い、電源の接続は確実に行う。
無資格者が行うと法令に違反することになり、発煙や火災のおそれがあります。

壁面へ固定する

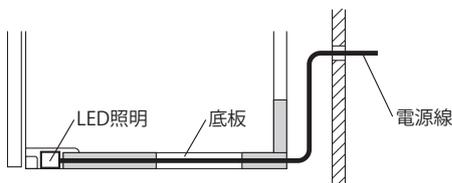
- 1 電源線をキャビネット背面の配線用溝と引き込み用穴に通す。①
 - 2 電源線と配線用溝を避けて、キャビネットをねじで壁面に固定する。②
 - 3 照明をキャビネット底面に取り付ける。③
- LED照明付タイプの場合は、キャビネットに付属の「取付・設置説明書」を参照してLED照明を取り付ける。



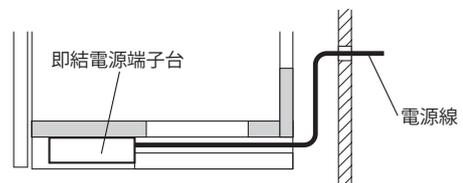
電源線の引き込みかた

●LED照明付タイプの場合

電源線は底板の中を通す。

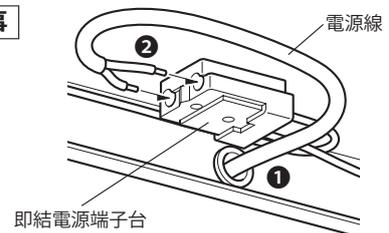


●インバーター照明付タイプの場合



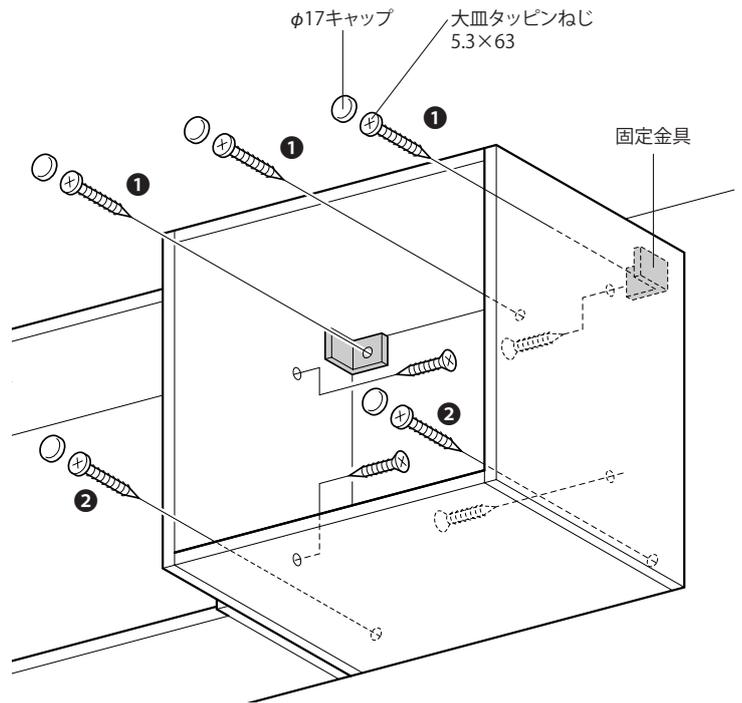
- ① 電源線を照明器具に通す。
- ② 電源線を即結電源端子台に確実に差し込む。

電気工事



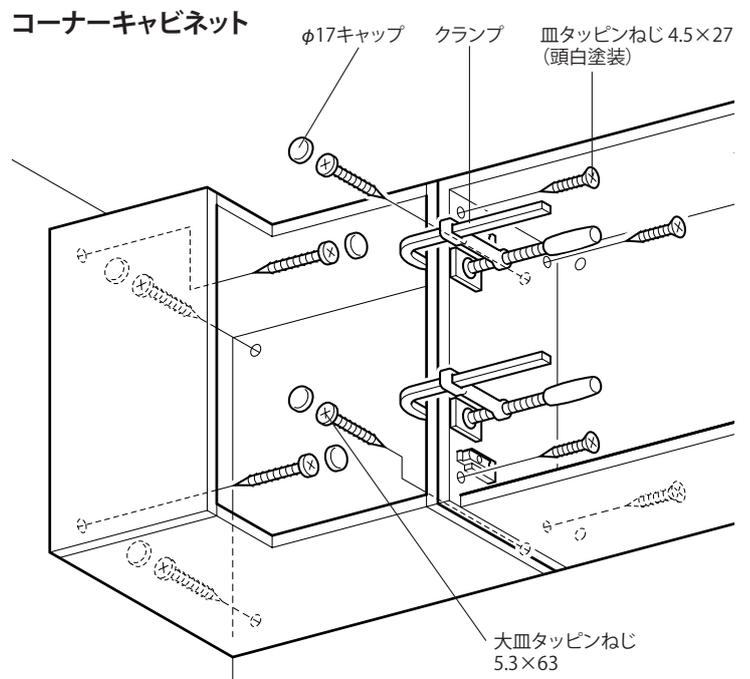
冷蔵庫上部用
ウォールキャビネットの場合

- 1 ウォールキャビネットの
上部左右を固定金具とねじで
固定する。
- 2 ウォールキャビネットの下部を
ねじで固定する。



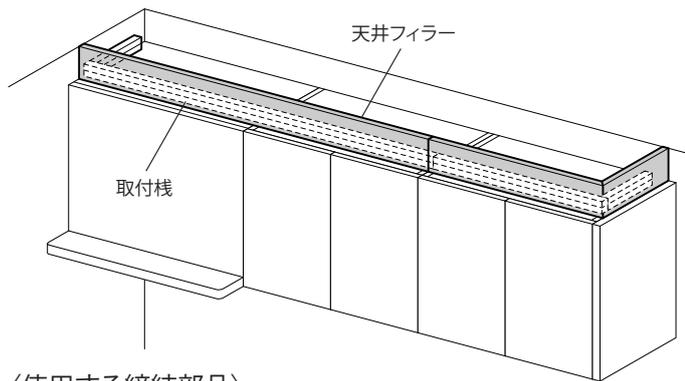
その他のウォールキャビネットの場合

- コーナーキャビネットの場合は右図を
参照してください。
- ダウンウォールキャビネットの場合は、
ダウンウォール本体に付属の「取付・設置
説明書」を参照して取り付けてください。



8

天井フィラーを取り付ける



〈使用する締結部品〉

部品名	部品図	用途
コーススレッド3.8×25 現場手配		取付棧固定用
大皿フレキタッピンねじ 5.3×27 φ17キャップ		取付棧取付用
丸木ねじ長さ75mm以上 現場手配		取付棧取付用レンジフード横壁用
カクシクギ 現場手配		天井フィラー取付用
速乾性接着剤 現場手配		取付棧・天井フィラー固定用
ゴム系接着剤 現場手配		天井フィラー出隅をイモ継ぎする場合の 木口シート貼付用
ローラー 現場手配		天井フィラー出隅をイモ継ぎする場合の 木口シート貼付用

〈ご注意〉

間口が1500mmを超える場合は、同梱の取付棧が不足するので、下地材(垂木など)を別途手配してください。

1 取付棧を固定する

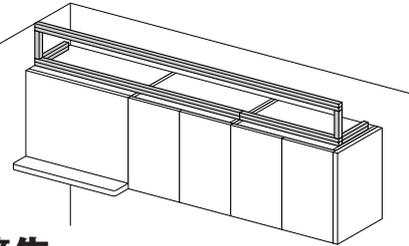
- 1 取付棧に速乾性接着剤(現場手配)を塗る。
- 2 取付棧をズレないように重ねて、ねじ(現場手配)で固定する。
- 3 取り付ける場所の寸法に合わせて、取付棧をカットする。
- 4 取付棧をウォールキャビネット内側からねじで固定する。

取付棧の固定位置



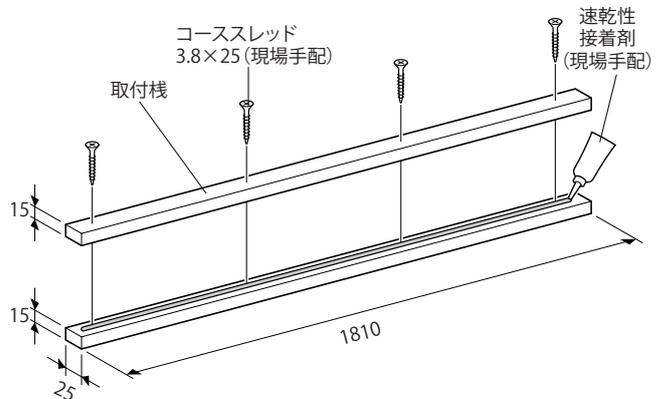
フィラーの高さが150mmを超える場合はフィラー上部も取付棧に固定する。取付棧は天井へ固定するか、垂木で枠組みをする。

例

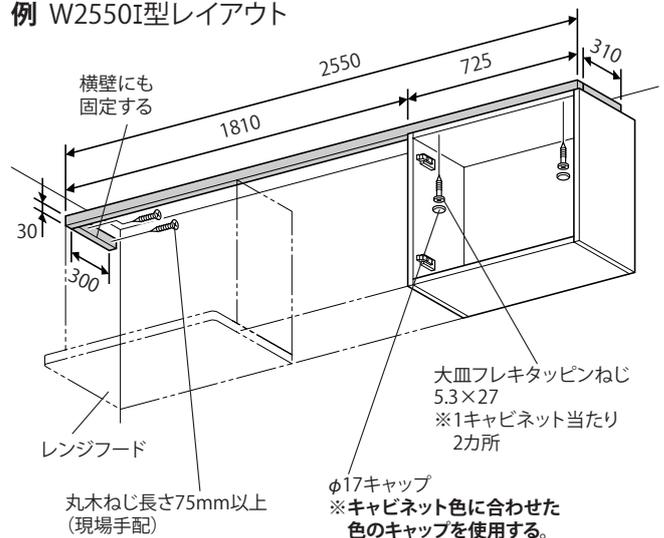


警告

天井への取付棧の取り付けは、関連する法令・規定に従って有資格者が行う。無資格者が行うと法令に違反することになり、ウォールキャビネットの落下、ケガをするおそれがあります。



例 W2550I型レイアウト



2 天井フィラーを固定する

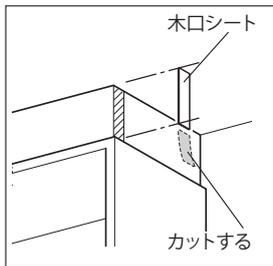
1 開口・高さの寸法に合わせて、天井フィラーをカットする。

2 レイアウトに合わせて、天井フィラーを削り合わせる。

出隅はイモ継ぎまたはトメ継ぎ、入隅はイモ継ぎしてください。開口方向の継ぎ目はキャビネットの接合部と合わせてください。

●木口面が化粧されていない場合

キャビネットと天井までの高さに合わせて、同梱の木口シートをカットする。



3 取付棧に速乾性接着剤(現場手配)を塗る。

4 天井フィラーを取付棧にカクシクギ(現場手配)で固定する。

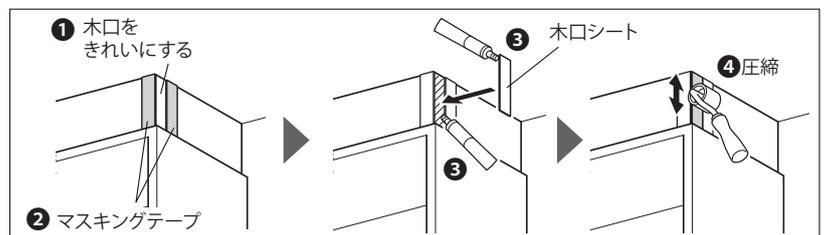
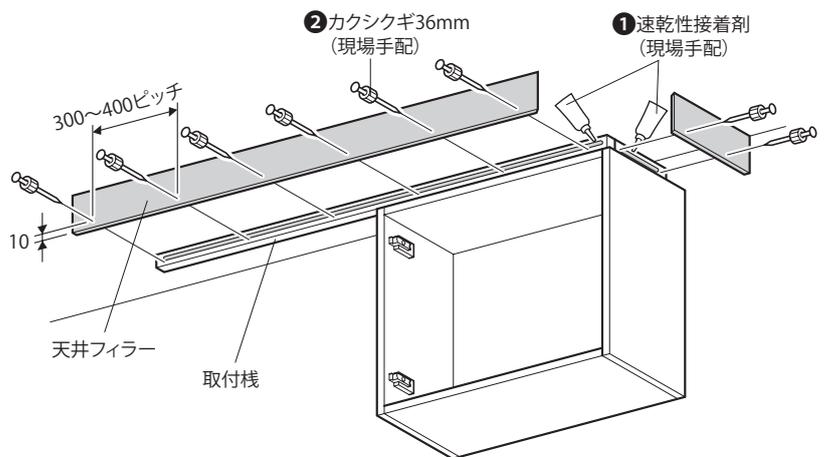
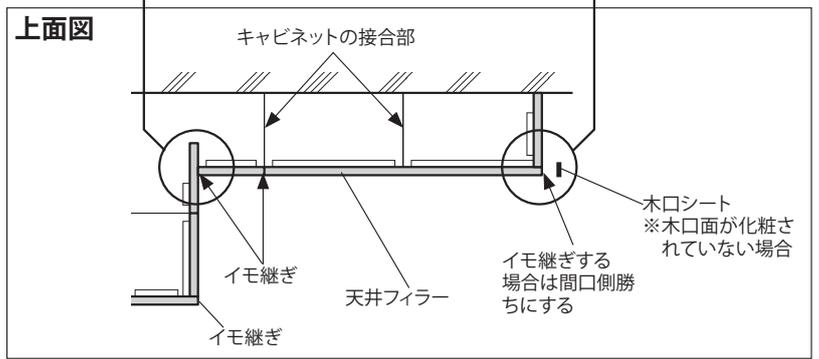
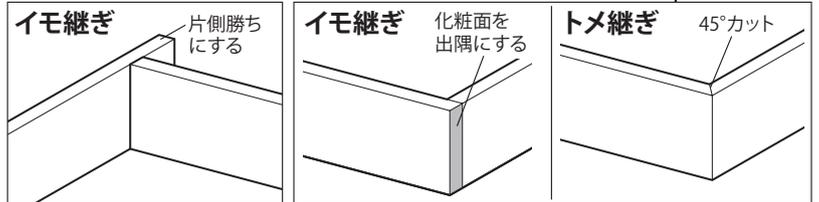
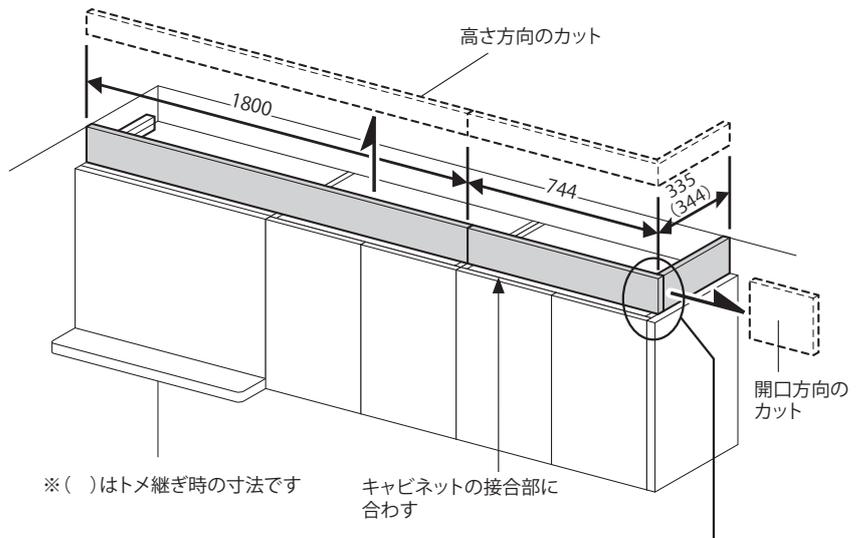
⚠注意

- ❗ クギ位置はフィラー下端から10mm程度を守る。位置が高いとクギの跡が目立ちます。

●木口面が化粧されていない場合

1. 木口のゴミやホコリをきれいに取り除く。
2. 接着剤がはみ出さないようにマスキングテープで養生する。
3. 木口と木口シートにゴム系接着剤を塗る。
4. ローラーなどを使い、木口シートを圧縮して確実に貼り付ける。
5. マスキングテープをはがす。

例 W2550I型レイアウト

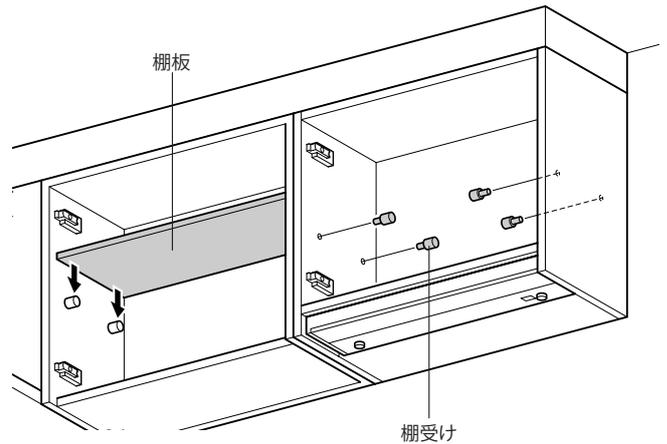
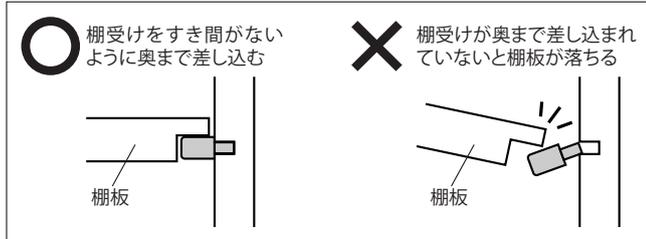


9

付属品・扉を取り付ける

1 棚板を取り付ける

棚受けをキャビネットの取付穴にすき間のないように奥まで差し込み、棚板を確実にのせてください。

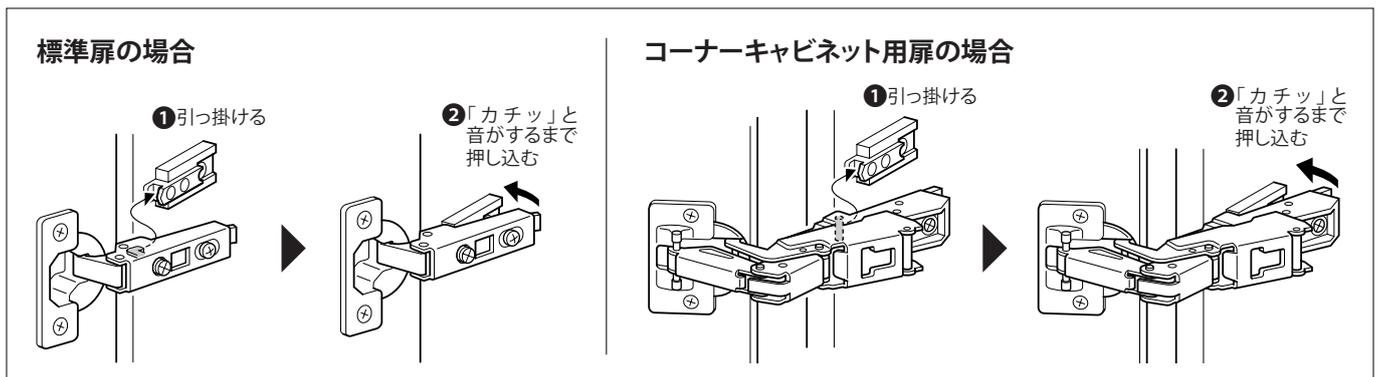
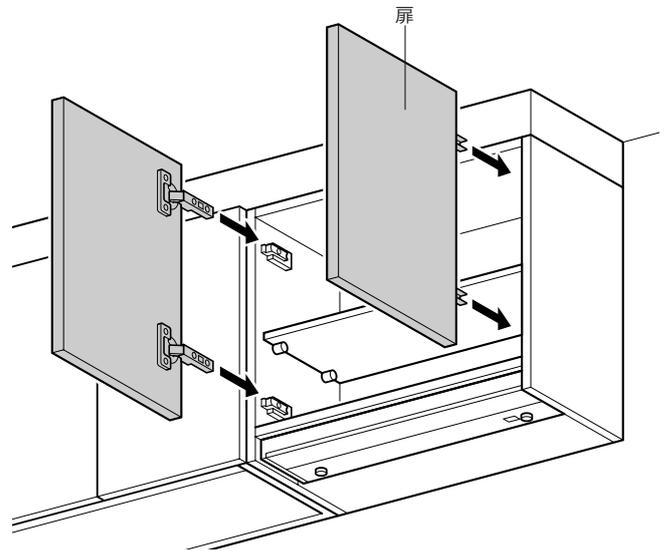


2 クイックパレットを取り付ける

クイックパレットに付属の「取付・設置説明書」を参照して、クイックパレットをキャビネットに取り付けてください。

3 扉を取り付ける

- 1 扉の丁番のフックをキャビネットの受け金具に引っ掛ける。^①
- 2 丁番の先端を「カチッ」と音がするまで押し込む。^②



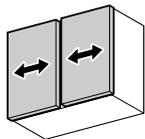
10

扉を調整する

⚠️ 注意

- ❗ 扉の調整は電動工具を使わないで、手回しドライバーで行う。
破損により、使用中に落下してケガをするおそれがあります。
- ❗ 扉の傾きやガタツキ、丁番のゆるみがないことを必ず確認してください。
使用中に扉が落下してケガをするおそれがあります。

扉に前後左右、上下のズレや傾き、ガタツキなどがある場合は、調整してズレやガタツキをなくしてください。

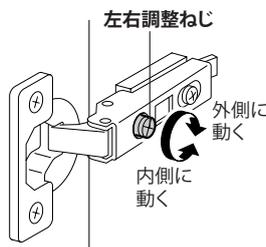


扉が左右にズレている場合

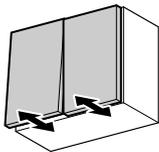
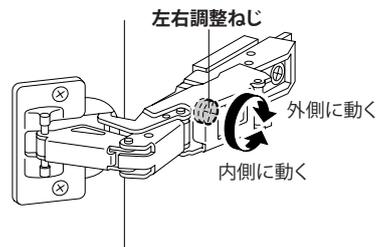
左右調整ねじで調整します。

- 扉を外側に動かしたいとき、ねじを時計回りに回します。
- 扉を内側に動かしたいとき、ねじを反時計回りに回します。

標準扉の場合



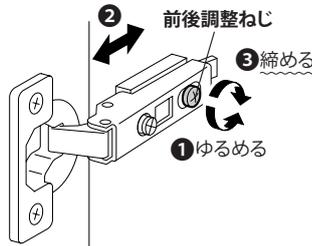
コーナーキャビネット用扉の場合



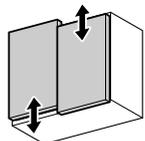
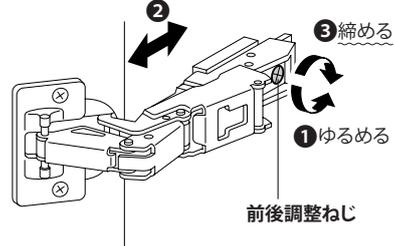
扉が前後にズレている場合

- ① 前後調整ねじをゆるめる。
- ② 金具を動かします。
 - 扉を前に動かしたいとき、金具を前に動かします。
 - 扉を後に動かしたいとき、金具を後に動かします。
- ③ 調整後は前後調整ねじを締め付ける。

標準扉の場合



コーナーキャビネット用扉の場合

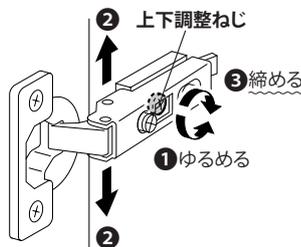


扉が上下にズレている場合

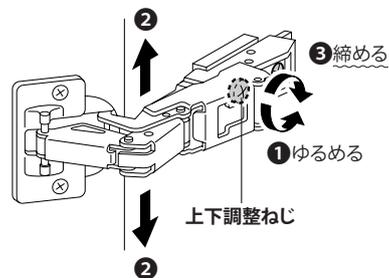
※扉に付いているすべての丁番の上下調整ねじをゆるめて、調整してください。

- ① 上下調整ねじをゆるめる。
- ② 金具を動かします。
 - 扉を上動かしたいとき、金具を上動かします。
 - 扉を下動かしたいとき、金具を下動かします。
- ③ 調整後は上下調整ねじを締め付ける。

標準扉の場合



コーナーキャビネット用扉の場合



11

扉キャッチの動作確認・調整をする

〈ご注意〉

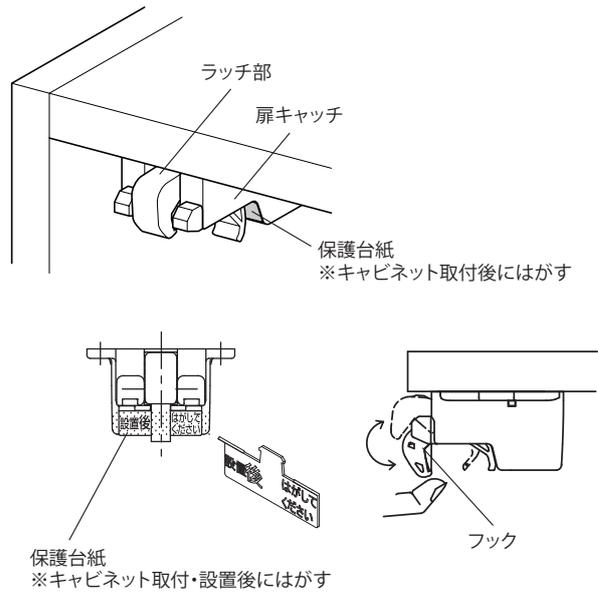
保護台紙は、キャビネット取付・設置後にはがしてください。
取付・設置前にはがすと、扉キャッチが正しく動作しない
おそれがあります。

1 保護台紙を外し、フックの動きを確認する。

扉キャッチ本体に貼り付けてある保護台紙をはがし、
フックがスムーズに上下するか確認してください。

2 扉の開閉状態を確認する。

扉をゆっくり開閉しながら、扉が正常に開閉すること
を確認してください。扉を開けたときにフックが上がった
状態であることを確認してください。



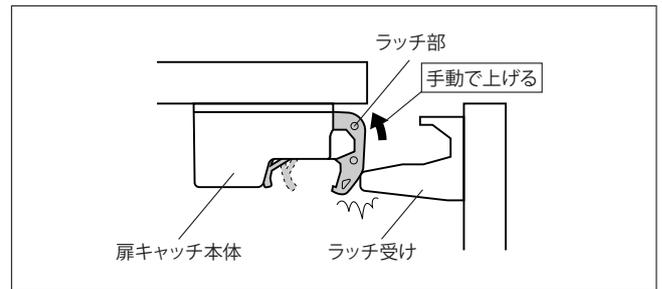
■扉キャッチのラッチ部がうまく作動しない場合

- 扉の丁番を調整する。(→P.25)
丁番を調整して、扉どうしのすき間をそろえてください。
- 動作を確認する。
扉を4、5回開閉してみて、動作に問題がないか確認
してください。

〈扉が閉まらない場合〉

扉が閉まらなかったり、扉キャッチのラッチ部と
扉のラッチ受けが当たることがあります。
その場合、以下の調整を行ってください。

- 扉キャッチのラッチ部を手動で上げる。
- 丁番を調整して(→P.25)、扉の上下位置を調整する。
- 扉を開閉してみて、動作を確認する。



12

清掃する

取付・設置後、キャビネットや扉のホコリ・汚れを、やわらかい布などできれいに拭き取ってください。

〈ご注意〉

家具用ワックスやシンナー・アルコールなどの溶剤、研磨剤の入った洗剤は使用しないでください。
変色したり、光沢をなくしたり、扉やキャビネットの表面を傷めます。

13

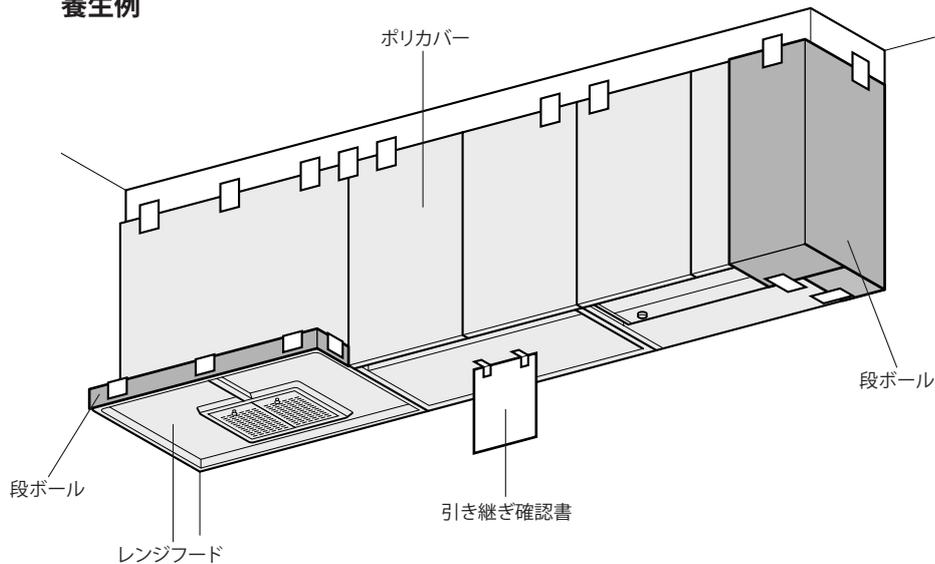
養生する

養生を行って、引き継ぎ確認書を貼ってください。

〈ご注意〉

- 養生に使う段ボールやポリカバーは梱包材を使用してください。
- 養生に使うテープは粘着の弱いものを使用してください。

養生例



(例) 電気工事引き継ぎ確認書

取付・設置担当者様へ

- 同梱の取付・設置説明書にはウォールキャビネット設置時の注意事項を記載していますので必ずお読みください。
- 取付・設置後、電気工事店引き継ぎのため、本チラシをウォールキャビネットに貼り付けてください。
- サイドカバーと固定ネジ(1本)はウォールキャビネット内に保管し、電気工事担当者様にそのまま引き継いでください。!

サイドカバー固定ネジ (タッピン M3×12) (1本)

サイドカバー (1個)

電気工事担当者様へ

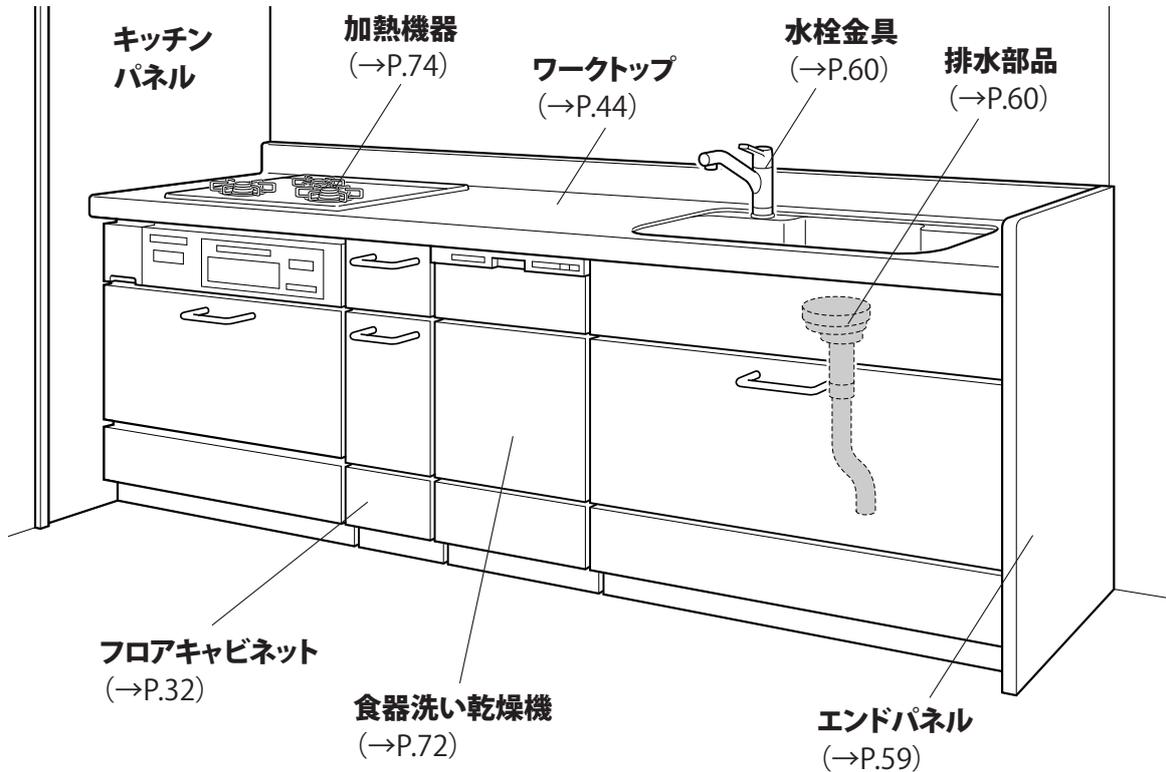
! 電気工事が残っています。

- 以下の手順で作業を行ってください。
- 電気工事は関連する法令・規定に従って有資格者が行ってください。

電源線の接続

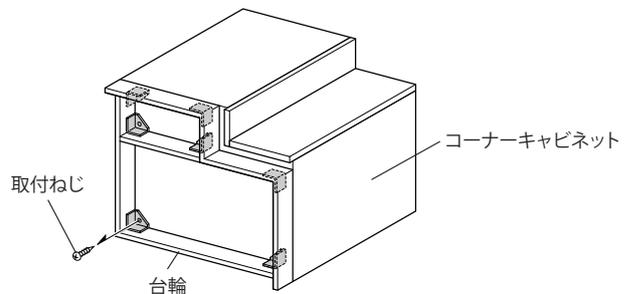
フロアユニットの設置概要

各部のなまえ



参考情報

コーナーキャビネットが現場の入口などに当たって搬入できない場合は、台輪部分を取り外して分離してから搬入してください。搬入後は、台輪を元通り取り付けてください。



フロアユニットの取付・設置の流れ

- | | |
|----------------------|----|
| ① 締結部品類の確認 | 29 |
| ② 扉・引き出し・幕板・鴨居を外す | 30 |
| ③ フロアキャビネットを仮設置する | 32 |
| ④ フロアキャビネットを準備する | 34 |
| ⑤ フロアキャビネットを連結・壁固定する | 39 |
| ⑥ ワークトップを取り付ける | 42 |
| ⑦ エンドパネルを取り付ける | 59 |

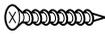
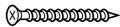
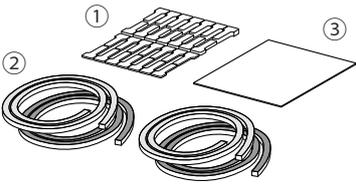
1

締結部品類の確認

フロアキャビネットに付属している締結部品類を確認してください。

警告

- ❗ **必ず指定の部品を使用する。**
キャビネットの落下などにより、ケガをするおそれがあります。
- ❗ **ねじを締め過ぎないようにする。**
空回りやねじ頭がつぶれることで、確実に固定できないと、キャビネットなどが落下してケガをするおそれがあります。

部品名	部品図	用途
大皿タッピンねじ5.3×63 φ17キャップ		フロアキャビネットの壁面固定用
皿タッピンねじ4.5×27 (頭白塗装)		フロアキャビネットの連結用 エンドパネルの固定用
ワークトップ固定用金具		ワークトップとフロアキャビネットの固定用
TU固定金具		ワークトップの加熱機器開口周り とフロアキャビネットの固定用
皿木ねじ3.3×32		ワークトップとフロアキャビネットの固定用
トラスタッピンねじ3.5×12		ワークトップとフロアキャビネットの固定用 側板フィラー固定用
ナベタッピンねじ3.5×12		排水カバー固定用
水平垂直調整スペーサーセット ①スペーサー (t1mm/3mm/5mm) ②パッキン (10×10×1000mm) ③取付説明書		①フロアキャビネットの水平・垂直レベル調整用 ②フロアキャビネットと床のすき間隠し用

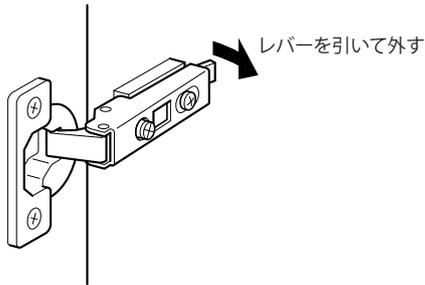
2

扉・引き出し・幕板・鴨居を外す

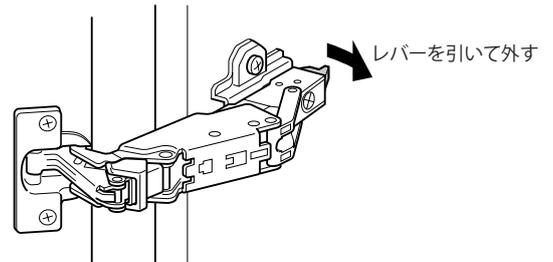
フロアキャビネットを設置する前に扉を外し、引き出しを抜いてキャビネット重量を軽くし、作業効率を高めます。外した扉と引き出しは、後工程で取り付けますので、紛失したり、破損しないように保管してください。

2-1 扉を外す

標準扉の場合



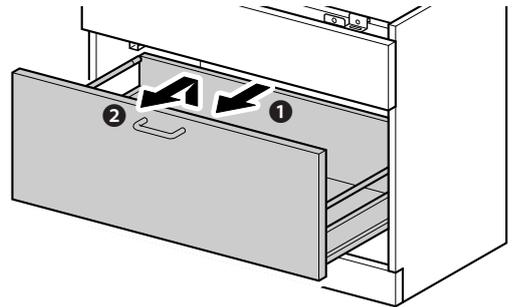
コーナーキャビネットの場合



2-2 引き出しを抜く

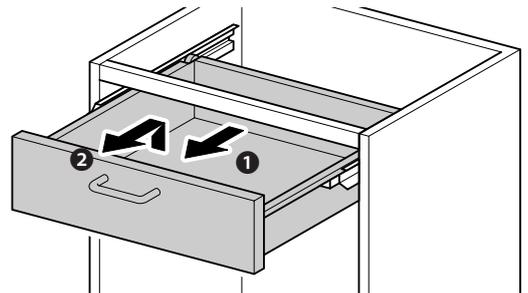
ソフトモーションレール引き出しの場合

- 1 引き出しをいっぱいまで引き出す。①
- 2 手前を持ち上げながら引き抜く。②



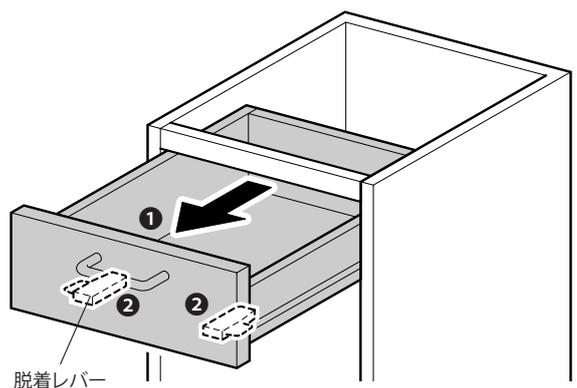
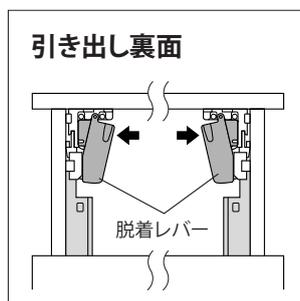
ローラーレール引き出しの場合

- 1 引き出しをいっぱいまで引き出す。①
- 2 手前を持ち上げながら引き抜く。②



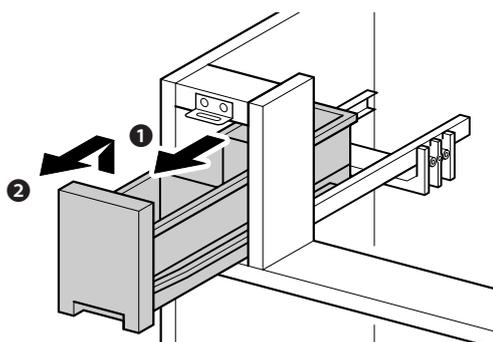
木製引き出しの場合

- 1 引き出しをいっぱいまで引き出す。①
- 2 引き出し底面の着脱レバーを外側に動かし、引き抜く。②



ローラーレール樹脂製引き出しの場合

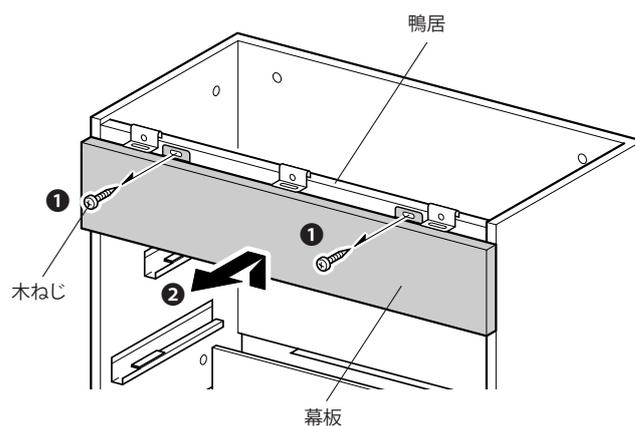
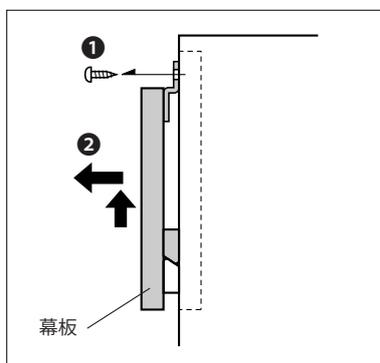
- 1 引き出しをいっぱいまで引き出す。①
- 2 手前を持ち上げながら引き抜く。②



2-3 幕板を取り外す

シンクキャビネットは、あらかじめ幕板が鴨居に固定されています。
ワークトップを取り付ける前に、幕板を必ず取り外してください。

- 1 木ねじを取り外す。①
- 2 幕板を持ち上げながら手前に引き、取り外す。②

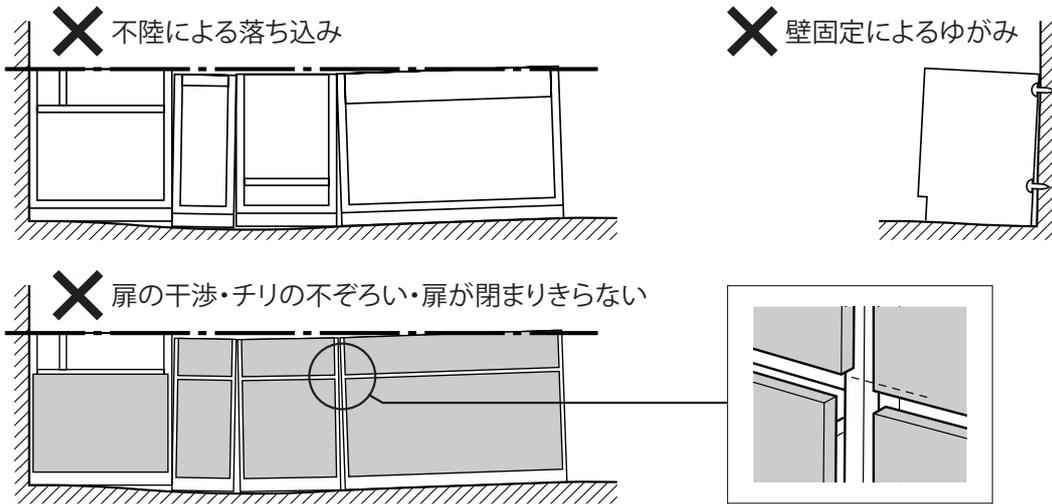


3

フロアキャビネットを仮設置する

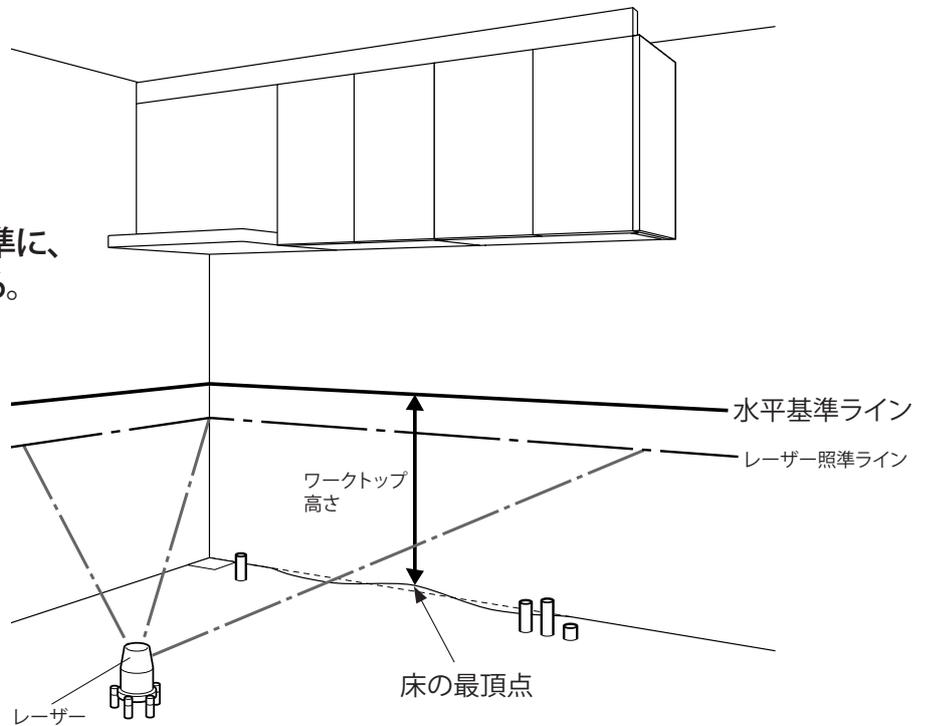
⚠️ 注意

❗ 必ずフロアユニットを設置する場所の水平・垂直・直角度・レベルを正確に確認する。
 フロアキャビネットがゆがみ、さまざまな不具合の原因になります。



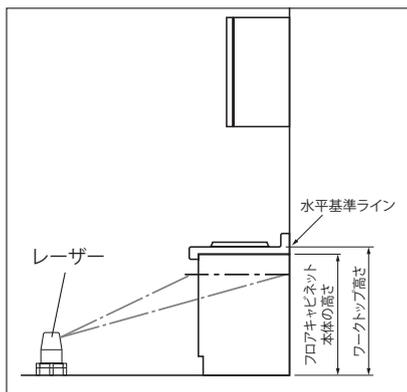
3-1 水平基準ラインを出す

- 1 レーザーを壁面に照射する。
- 2 床の最頂点からワークトップ高さの位置にマーキングする。
- 3 「2」でマーキングした点を基準に、水平基準ラインを墨出しする。



(単位:mm)

ポイント
 床の最頂点からワークトップ高さに墨出ししてください。



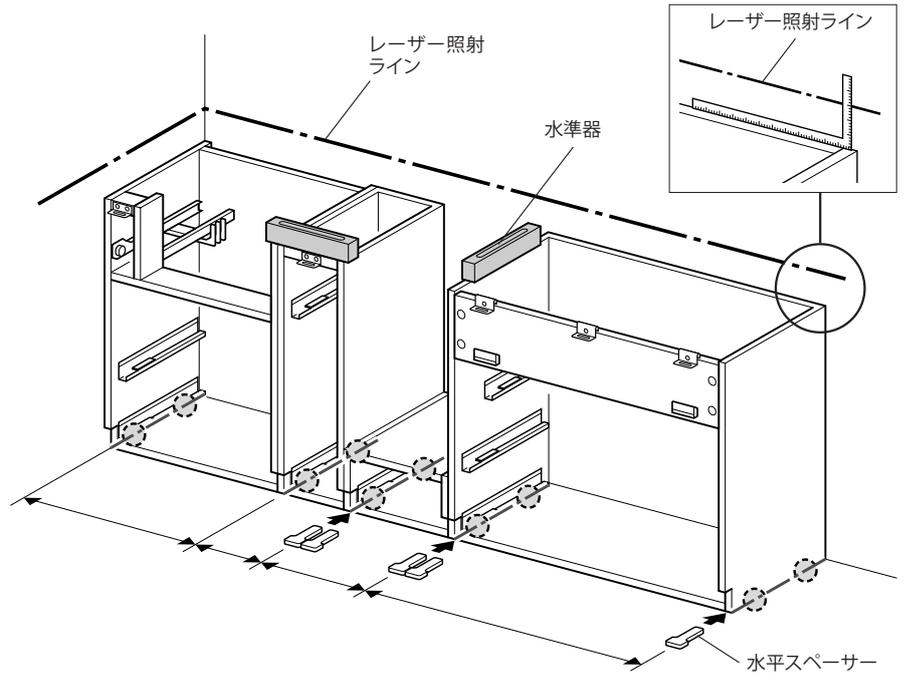
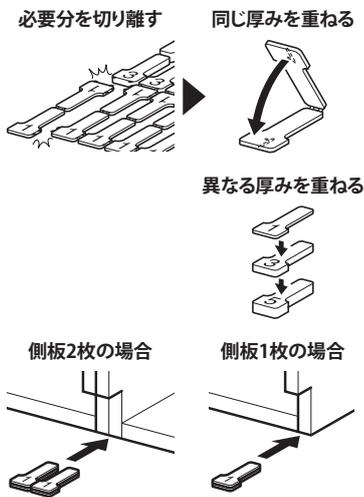
フロアキャビネット高さ	ワークトップ高さ
778	800
828	850
878	900

3-2 フロアキャビネットを仮置きする

- 1 レイアウト図や取付設置図を確認し、フロアキャビネットを仮置きする。
- 2 レーザーや水準器などで、フロアキャビネットの水平・垂直を確認する。
- 3 低くなっている位置に、低くなっている分の水平スペーサーを置く。

水平スペーサーの使いかた

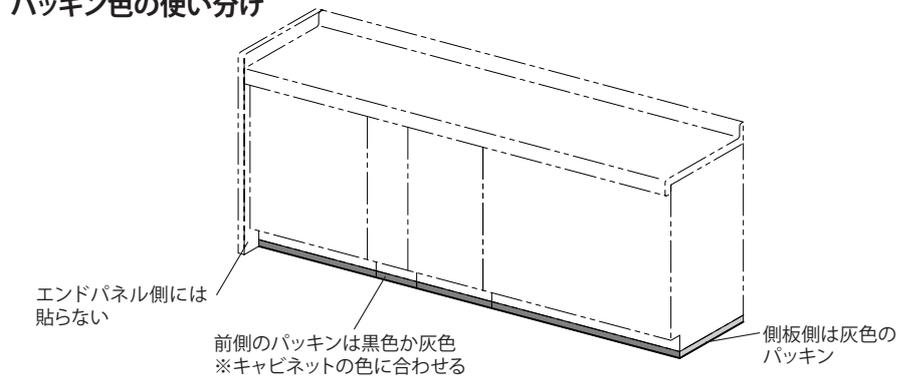
水平スペーサーの厚みは1・3・5mmの3種類ありますので、床面の凹凸に合わせてキャビネットが水平になるように重ねたりして使用してください。



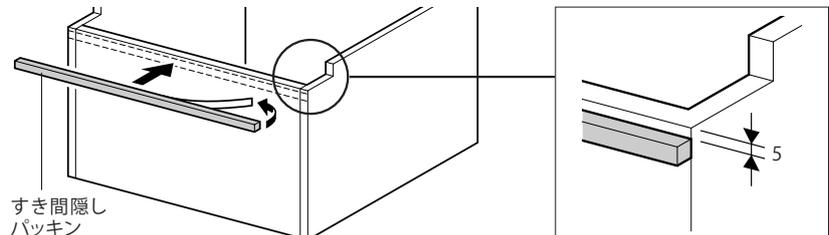
すき間隠しパッキンの使いかた

スペーサーでできたすき間が目立つときのみ使用してください。

パッキン色の使い分け



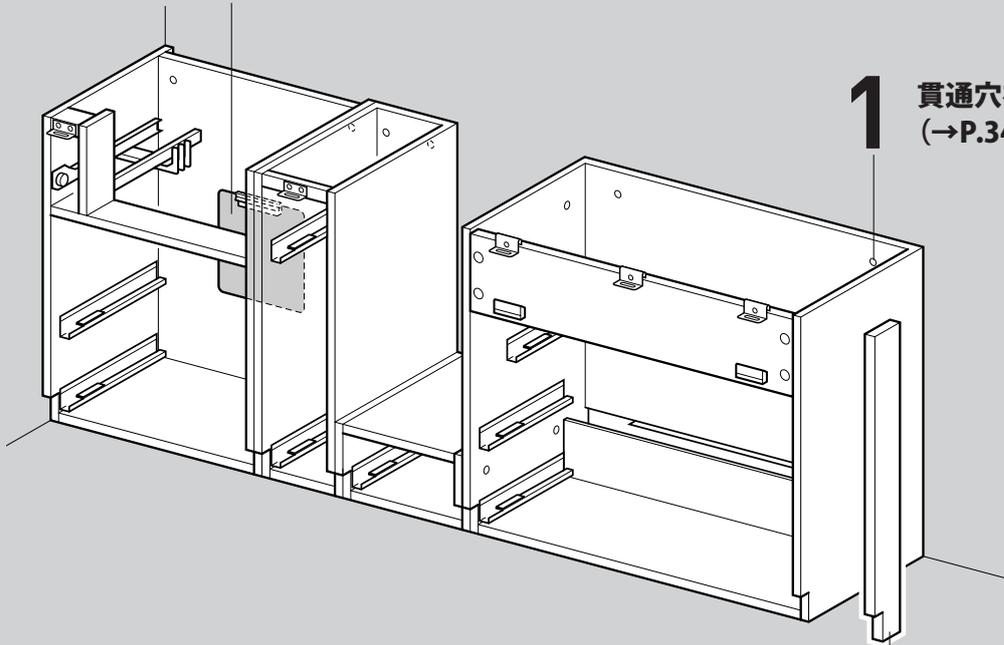
パッキンの貼り付け



4

フロアキャビネットを準備する

3 点検口を取り外す・取り付ける
(→P.38)



1 貫通穴を開ける
(→P.34)

2 フィラーを取り付ける
(→P.35)

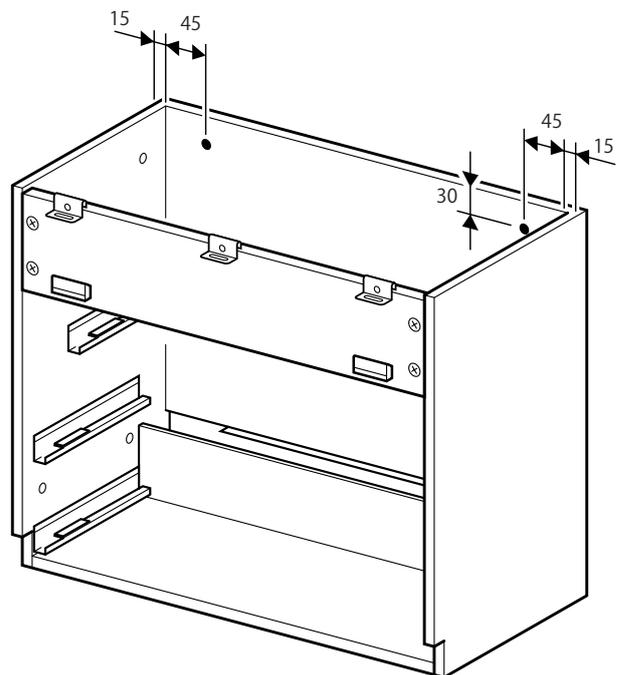
1 貫通穴を開ける

(引き出し付きキャビネット・開き扉付きキャビネットのみ)

フロアキャビネットの図の位置にφ5.5以下の貫通穴を開ける。

⚠ 注意

- ❗ φ5.5より大きな貫通穴を開けない。
フロアキャビネットの保持力が弱くなり、
キャビネットが外れてケガをする原因に
なります。



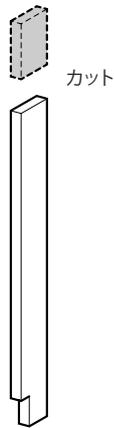
2 フィラーを取り付ける

プレートフィラー (幅5~30mm) を取り付ける

1 フィラーを必要な長さにカットする。

開き扉タイプ

(単位:mm)	
キャビネット高さ	切断サイズ
878	カットなし
828	50
778	100

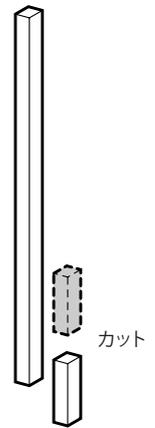


〈使用する締結部品〉

フィラーの厚み	部品名	部品図	固定穴
5mm	皿木ねじ3.5×16		
10~30mm 5mmピッチ	トラスタップピンねじ 3.5×16		

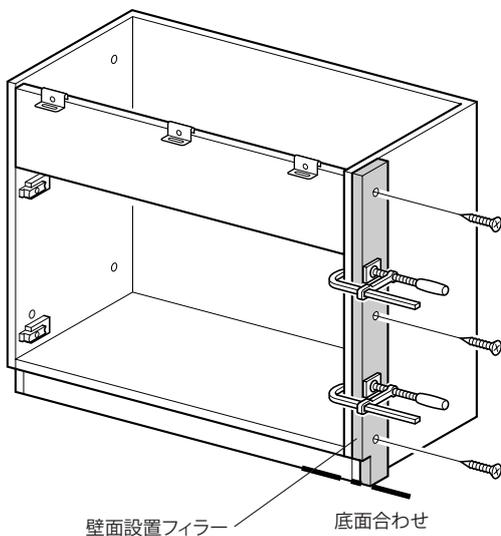
引き出しタイプ

(単位:mm)	
キャビネット高さ	切断サイズ
878	27
828	77
778	127

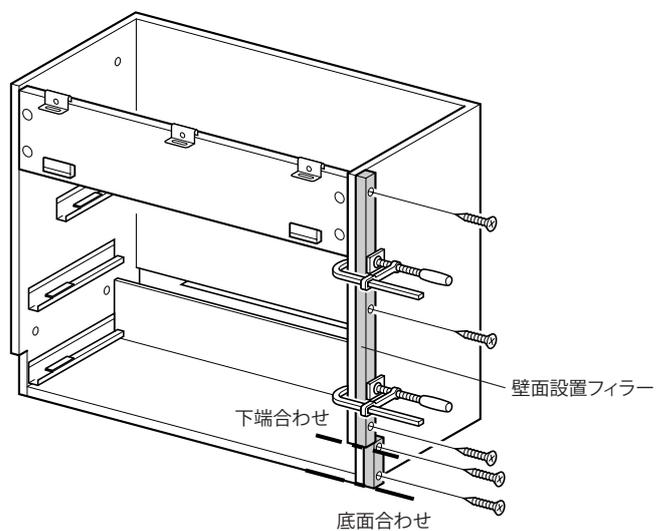


2 フィラーの前面をキャビネットの側板前面と底面にそろえてねじで固定してください。

開き扉タイプ



引き出しタイプ



4フロアキャビネットを準備する

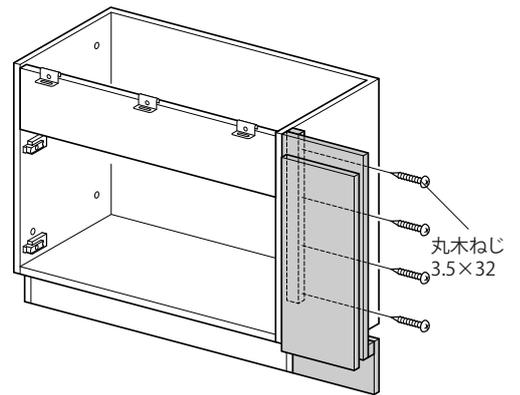
パネルフィラー (幅20~145mm) を取り付ける

●開き扉・トレーボードタイプの場合

〈使用する締結部品〉

部品名	部品図
皿木ねじ3.5×28	
丸木ねじ3.5×32	

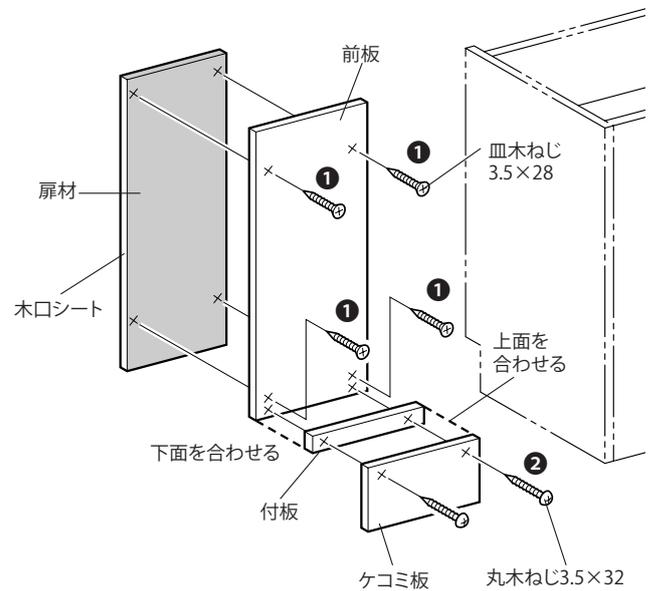
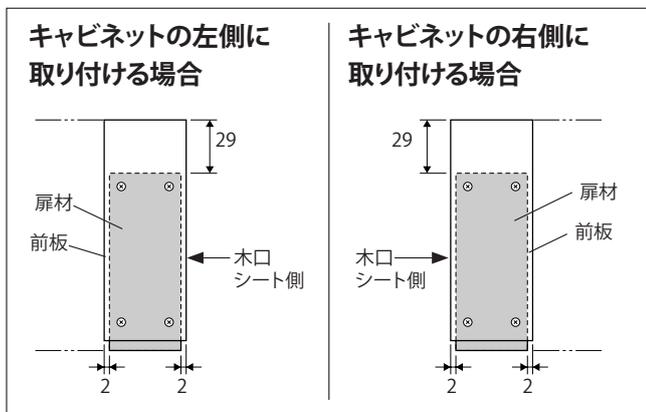
※図はキャビネット右側に取り付ける場合です。



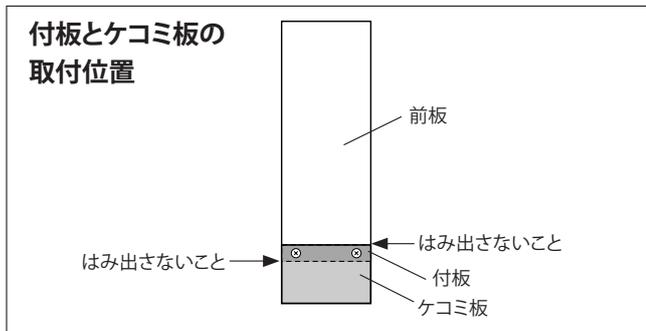
1 扉材を前板にねじで固定する。①

〈ご注意〉

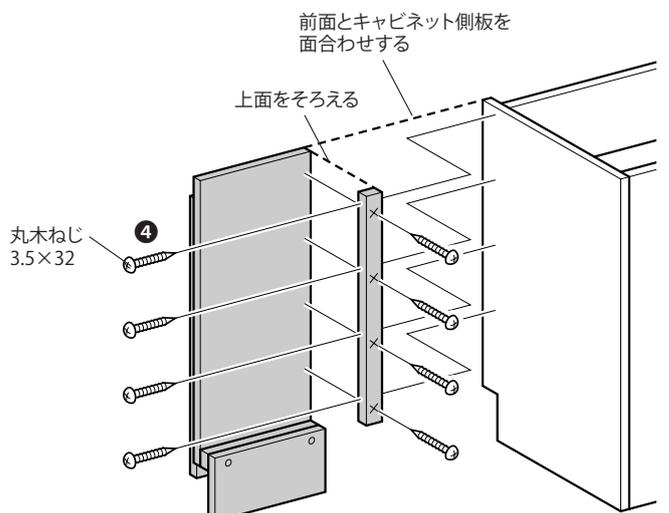
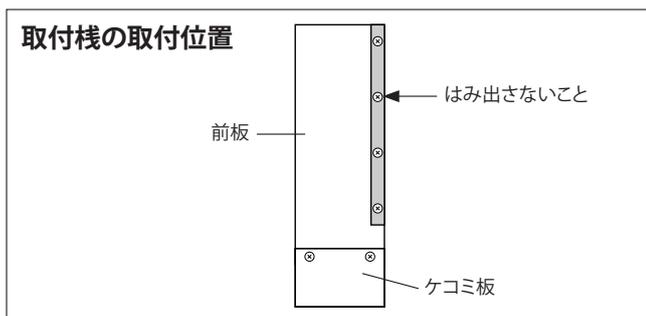
扉材には左右がありますので注意してください。



2 付板とケコミ板を、前板にねじで固定する。②



3 取付枠を前板にねじで取り付ける。③



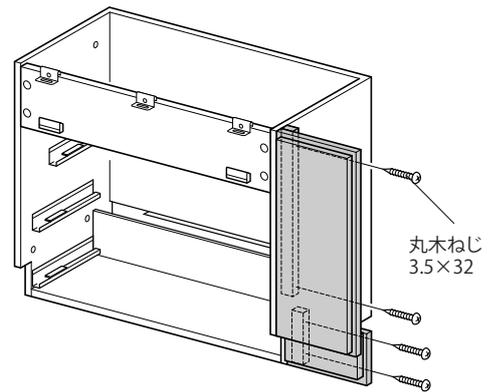
4 組み立てたパネルフィラーをフロアキャビネット側面にねじで取り付ける。④

●スライドストッカータイプの場合

〈使用する締結部品〉

部品名	部品図
皿木ねじ3.5×28	
皿木ねじ3.5×22	
丸木ねじ3.5×32	

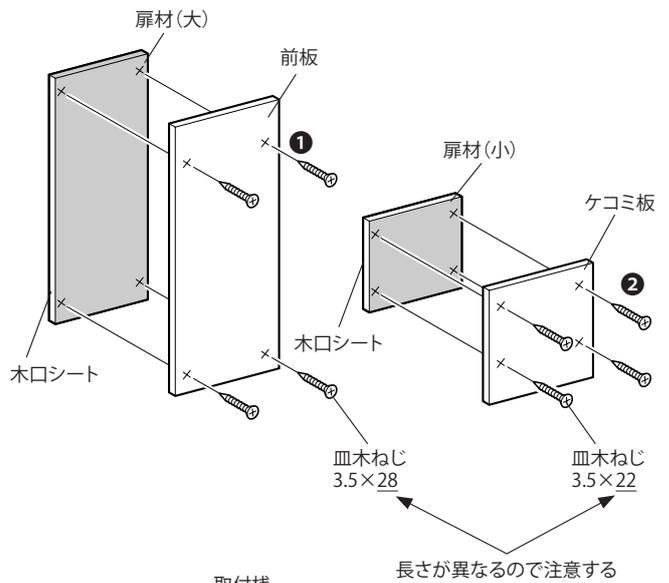
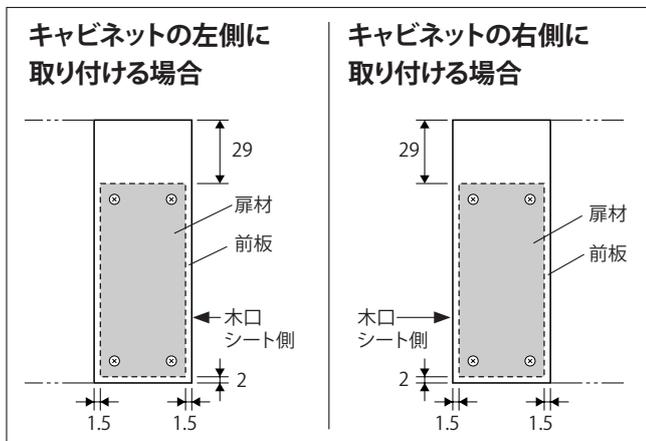
※図はキャビネット右側に取り付ける場合です。



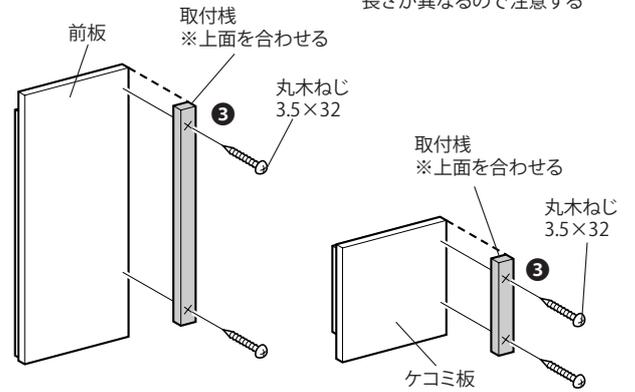
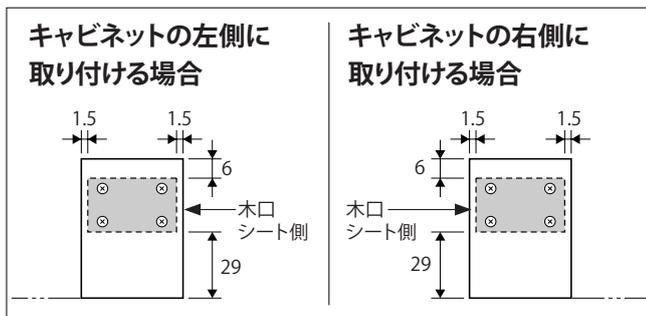
1 扉材(大)を前板にねじで固定する。①

〈ご注意〉

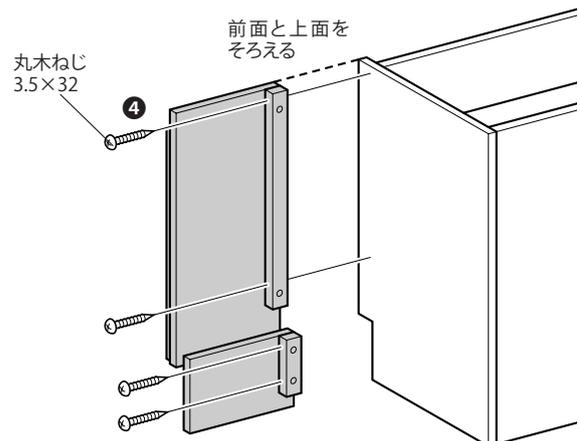
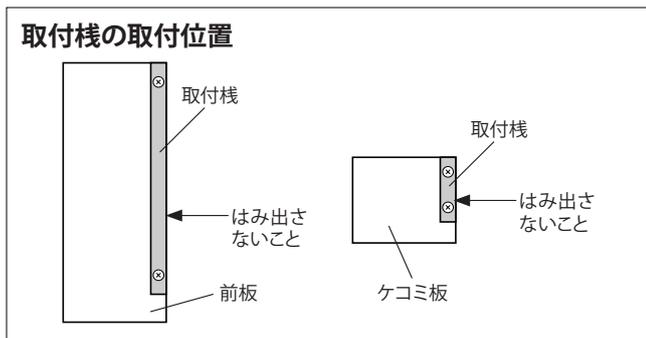
扉材には左右がありますので注意してください。



2 扉材(小)をケコミ板にねじで固定する。②



3 取付棧を前板とケコミ板にねじで固定する。③



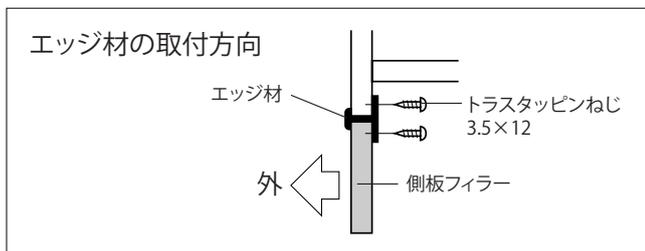
4 組み立てたパネルフィラーをフロアキャビネットの側面にねじで取り付ける。④

4フロアキャビネットを準備する

側板フィラー (別売) を取り付ける

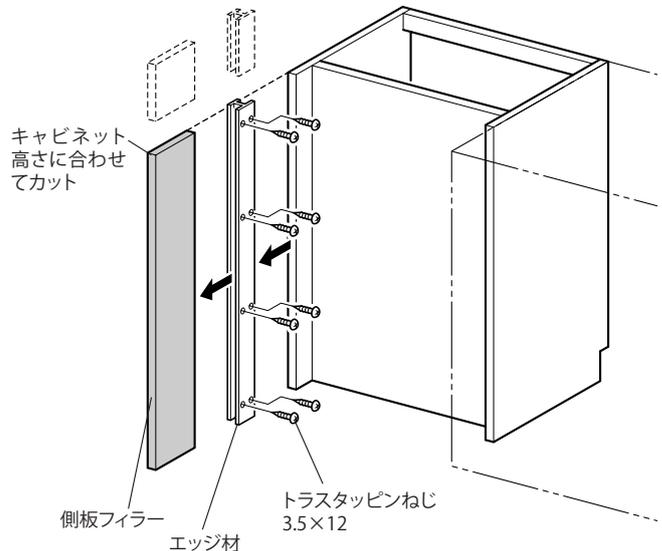
サイドキャビネットや加熱機器キャビネットなど、側板の奥行きが短いキャビネットをオープン側に設置する場合は、側板フィラーを取り付けてください。

- 1 エッジ材と側板フィラーを、取り付けるフロアキャビネットの高さに合わせてカットする。
- 2 側板フィラーをエッジ材とねじでキャビネットに取り付ける。



〈使用する締結部品〉

部品名	部品図
トラスタッピンねじ3.5×12	



3 点検口を取り外す・取り付ける (加熱機器キャビネットのみ)

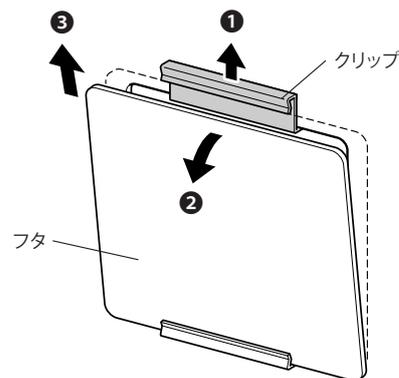
点検口のフタをあらかじめ取り外しておく、作業がしやすいです。

取り外しかた

- 1 上のクリップを引き上げる。①
- 2 フタを手前に引く。②
- 3 フタを引き抜く。③

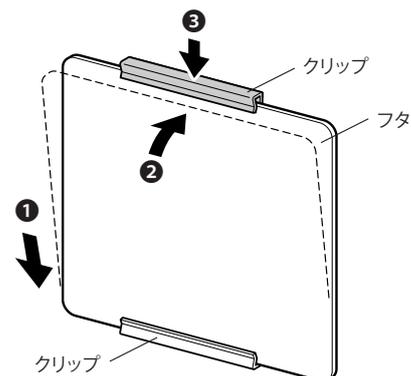
〈ご注意〉

外したフタは紛失したり、破損しないようにしてください。



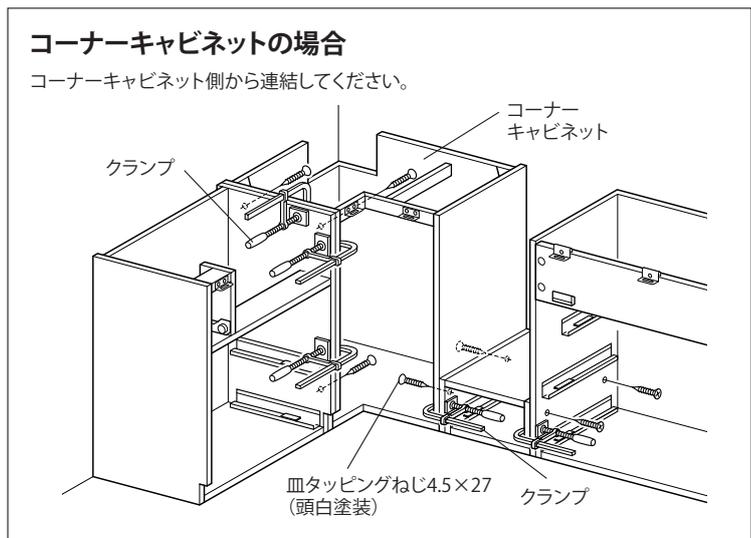
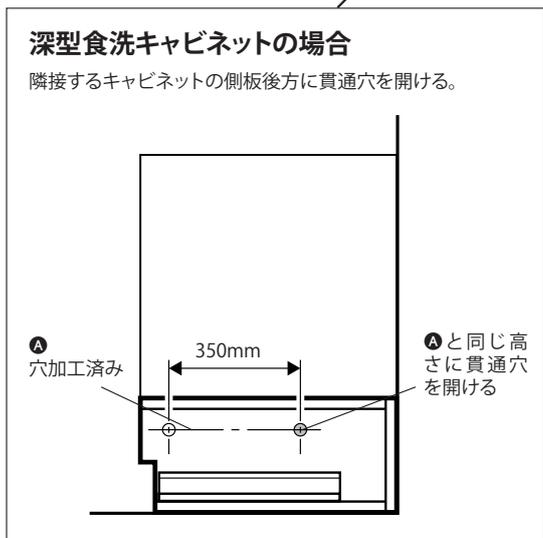
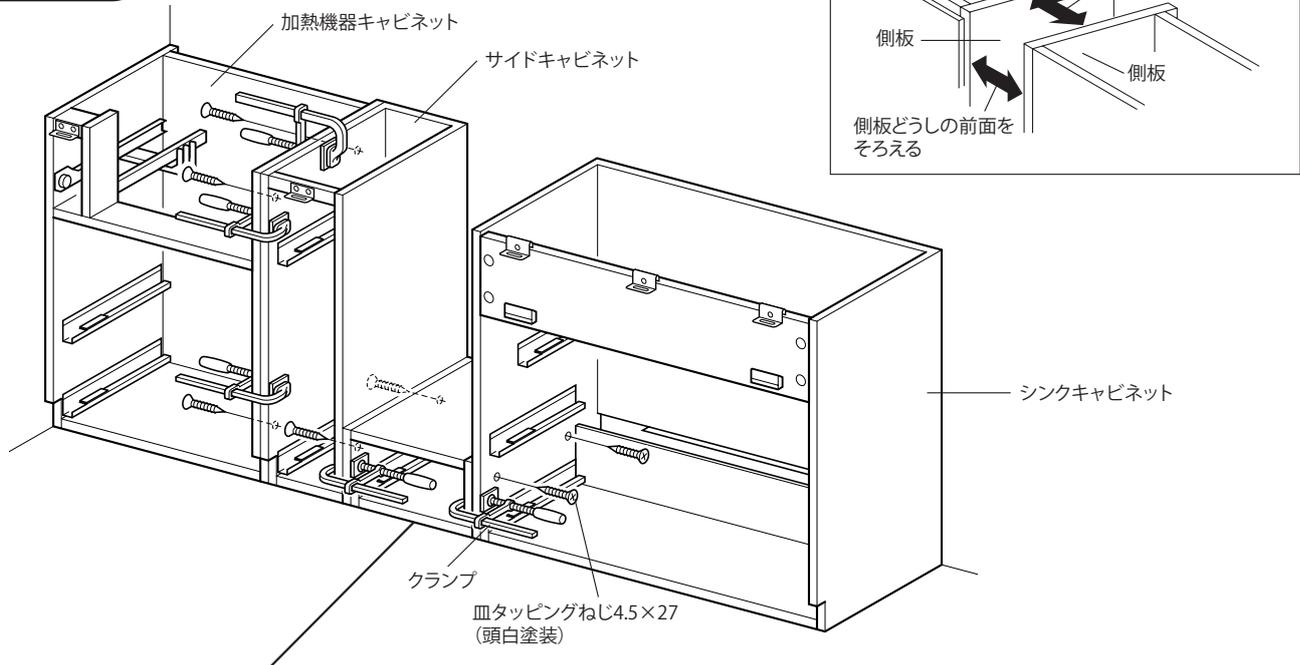
取り付けかた

- 1 フタを下のクリップに差し込む。①
- 2 フタを奥に押す。②
- 3 上のクリップをフタの上部に差し込む。③



5 フロアキャビネットを連結・壁固定する

5-1 連結する

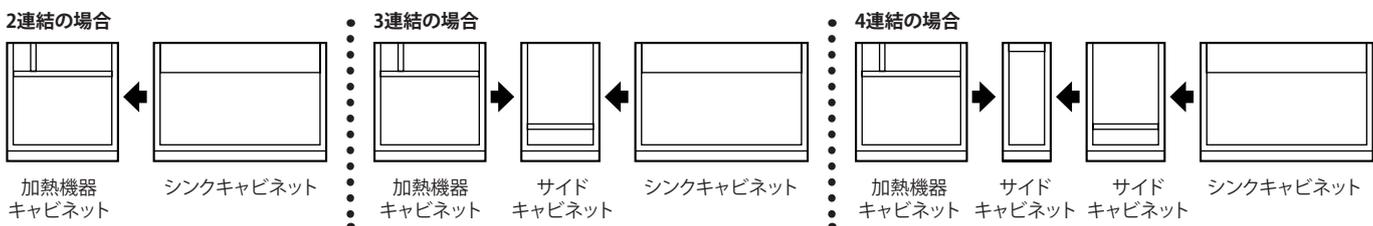


〈使用する締結部品〉

部品名	部品図	用途
大皿タッピングねじ5.3×63 φ17キャップ		フロアキャビネットの壁面固定用
皿タッピングねじ4.5×27 (頭白塗装)		フロアキャビネットの連結用

1 連結する方向を確認する

サイドキャビネットや加熱機器キャビネットなど、間口の広いキャビネットから狭いキャビネットに向かって連結してください。



フロアキャビネットの設置

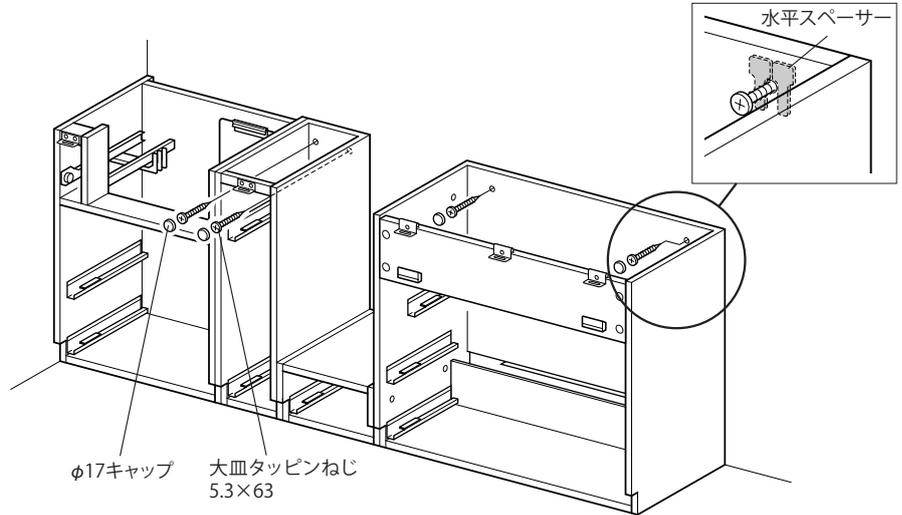
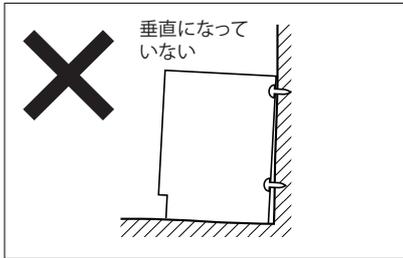
⑤フロアキャビネットを連結・壁固定する

2 キャビネットを壁面に固定する。

フロアキャビネットをねじで壁面に固定してください。
垂直を確認し、垂直が出ていない場合は、
水平スペーサーを使ってください。

〈使用する締結部品〉

部品名	部品図
大皿タッピンねじ5.3×63 φ17キャップ	

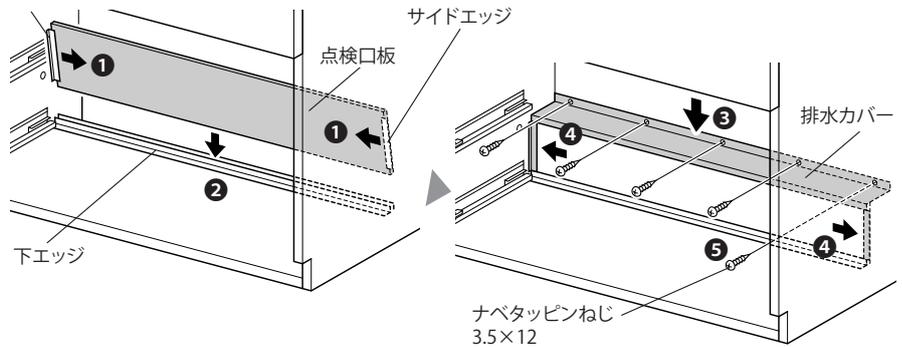


5-2 ひな段タイプの点検口を取り付ける

- 1 点検口板のサイドエッジを内側に押し込む。①
- 2 点検口板を下エッジに差し込む。②
- 3 排水カバーをかぶせる。③
- 4 サイドエッジを外側に押しつけて側板とのすき間をふさぐ。④
- 5 排水カバーをねじで固定する。⑤

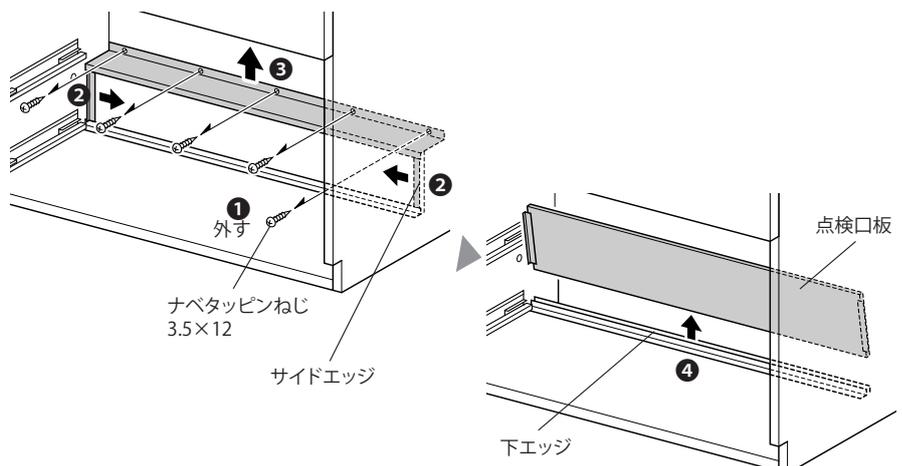
〈使用する締結部品〉

部品名	部品図
ナベタッピンねじ3.5×12	



取り外しかた

- 1 排水カバーのねじを外す。①
- 2 サイドエッジを内側に押し。②
- 3 排水カバーを点検口板から外す。③
- 4 点検口板を下エッジから外す。④



5-3

IH ヒーター用コンセントを取り付ける

電気工事

(加熱機器キャビネットのみ)

IH ヒーター用のコンセントは、シェルフや仕切板と干渉しない位置に設置してください。

警告



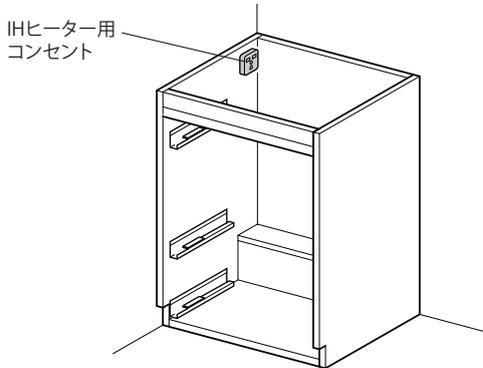
電気工事は、関連する法令・規定に従って有資格者が行い、電源の接続は確実に行う。無資格者が行くと法令に違反することになり、発煙や火災のおそれがあります。

ワークトップ奥行650の場合

点検口の形状によって取付位置が変わります。

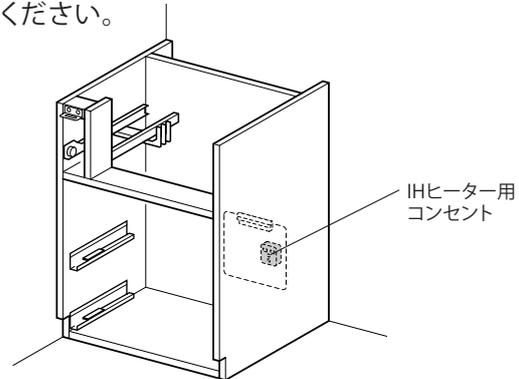
●ひな段タイプの点検口の場合

コンセントをひな段上部の側板に取り付けてください。



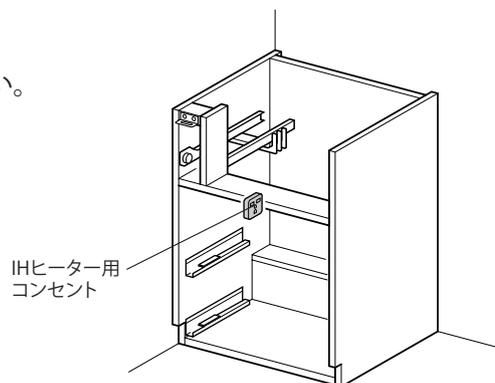
●クリップタイプの点検口の場合

コンセントを点検口背面の建築側壁面にに取り付けてください。



ワークトップ奥行600の場合

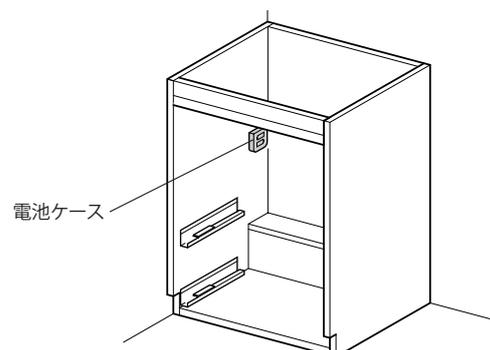
コンセントをひな段上部の側板に取り付けてください。



5-4

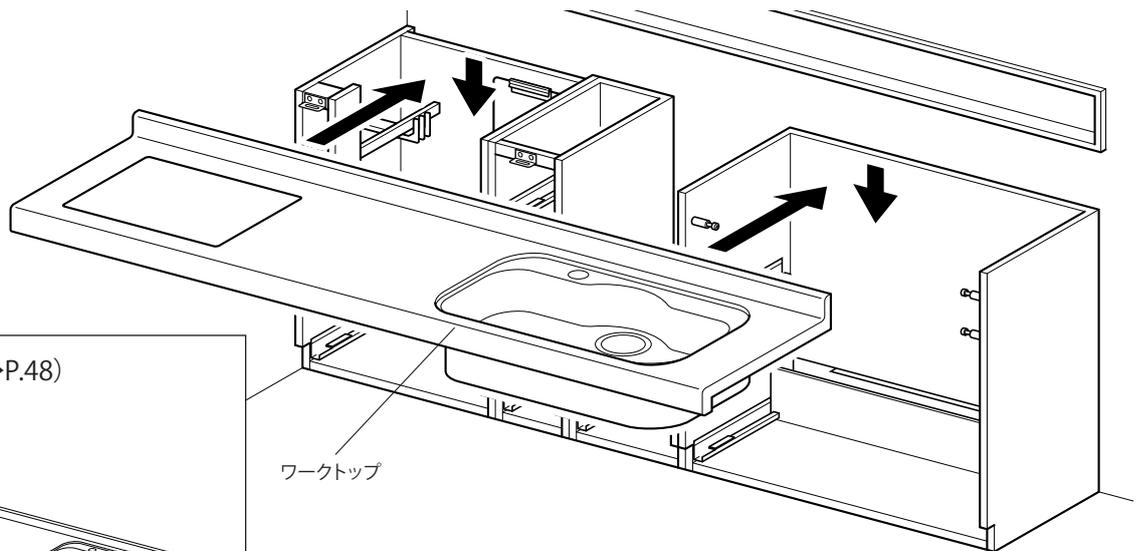
グリルレスコンロ用キャビネットを設置する

- 1 キャビネットに付属の「取付・設置説明書」を参照して、仕切板を取り付ける。
- 2 4口コンログリルレスタイプを設置する場合は、電池ケースをキャビネット側板にビスで取り付ける。

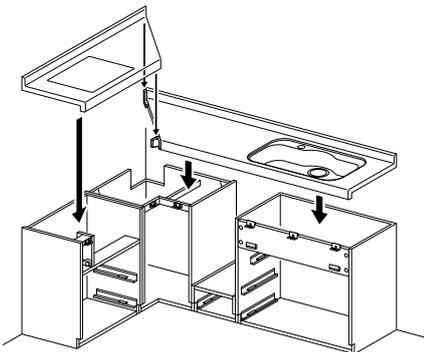


6

ワークトップを取り付ける



L型ワークトップ (→P.48)



ワークトップ

⚠️ 注意

❗ ひろびろラクリーンシンクの場合は、トップを設定する前に、排水部品を取り付ける (→P.62)
キャビネットに設置してから取り付けると目視確認ができないため、漏水するおそれがあります。

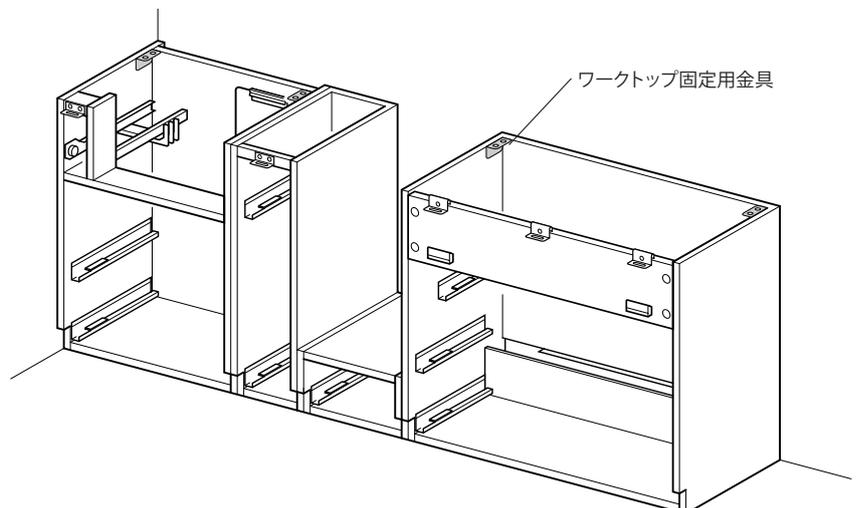
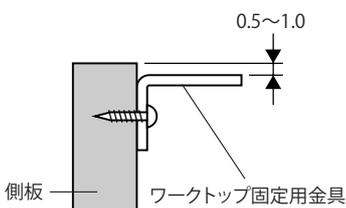
〈使用する締結部品〉

部品名	部品図	用途
ワークトップ固定用金具		ワークトップとフロアキャビネットの固定用
TU 固定金具		ワークトップの加熱機器開口周り とフロアキャビネットの固定用
皿木ねじ3.3×32		ワークトップとフロアキャビネットの固定用
トラスタッピンねじ3.5×12		ワークトップ固定金具とフロアキャビネットの固定用

6-1 ワークトップ固定用金具を取り付ける

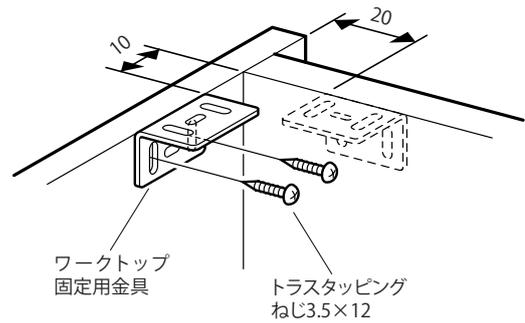
ワークトップ固定用金具を、フロアキャビネットの側板にねじで取り付けます。

ワークトップ固定用金具の
取付位置



ワークトップの裏打ち材がない場合

金具の位置を裏打ち材がある位置にずらして調整してください。

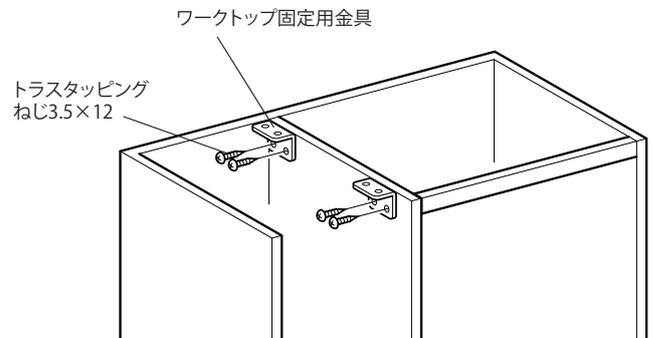


間口750以上の食洗キャビネットの場合

ワークトップ固定用金具を間仕切りの引き出し側前後2カ所(ワークトップ裏面に裏打ち材がある位置)にねじで取り付けてください。

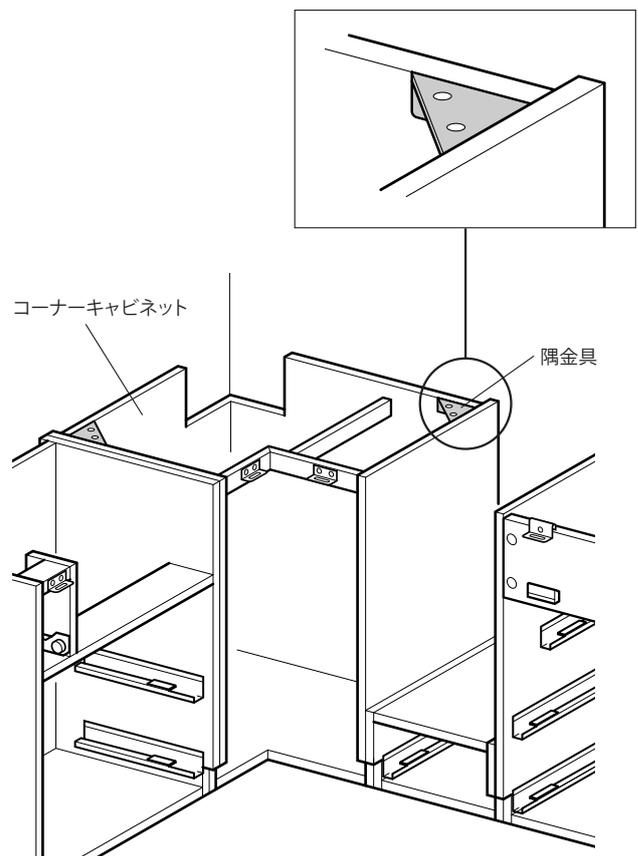
〈ご注意〉

ワークトップ固定用金具を取り付けないと、食器洗い乾燥機を設置した際、キャビネットの中仕切り板がたわみ、引き出しの目地調整ができなくなります。



コーナーキャビネットの場合

キャビネットに取り付けてある隅金具からワークトップに固定する。



6-2 ワークトップを取り付ける

1 鴨居を取り外す

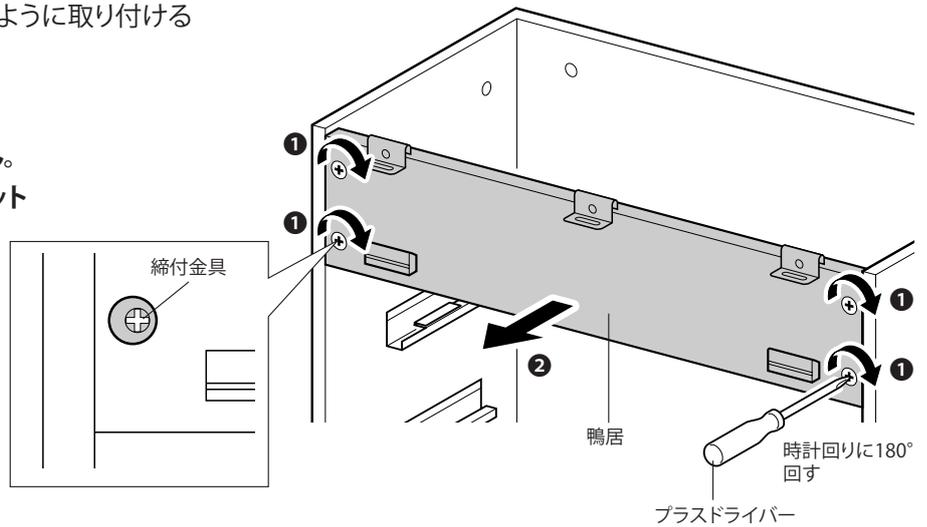
出窓などがあり、ワークトップを上からのせられない場合は、鴨居を外すことで手前から差し込むように取り付けることができます。

〈ご注意〉

以下のキャビネットは、鴨居を外せません。

- 間口1350mm以上の開き扉キャビネット
- ニースペースキャビネット

- ①締付金具を時計回りに180°回す。
- ②手前に引き、取り外す。

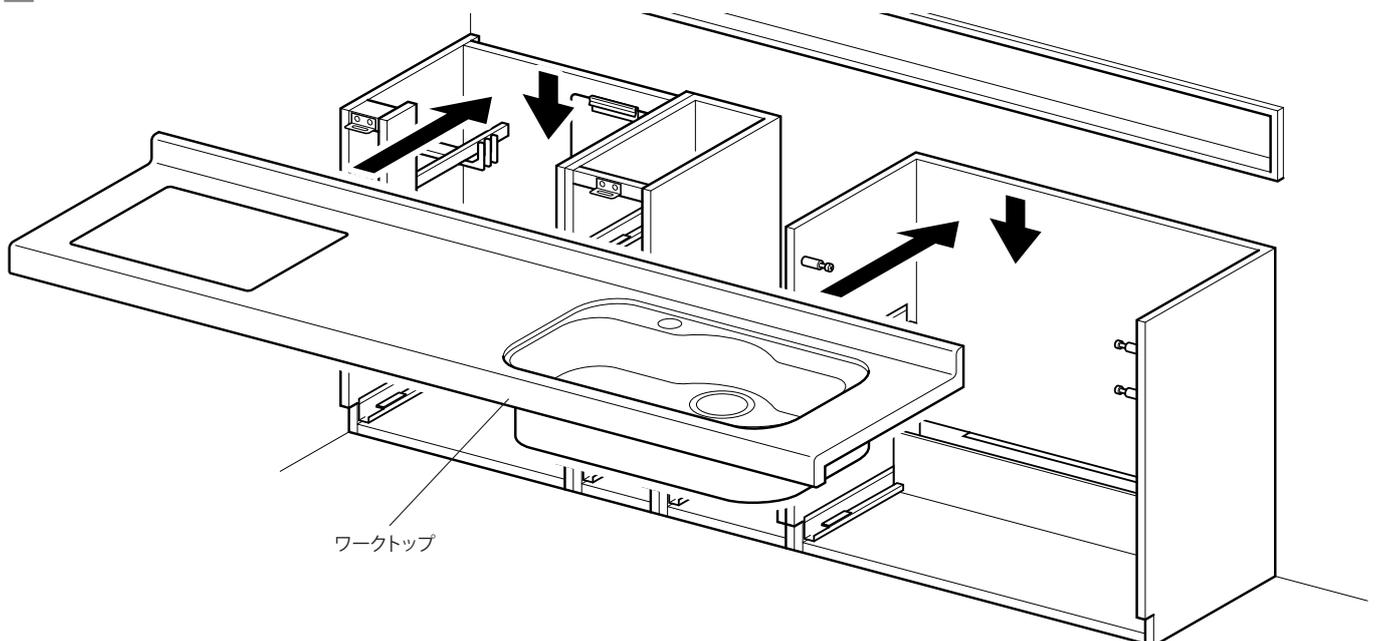


〈ご注意〉

丸棒のプラスドライバーを使用してください。
六角棒のプラスドライバーを使用すると、
締付金具の周りを傷付けるおそれがあります。



2 ワークトップを仮置きする

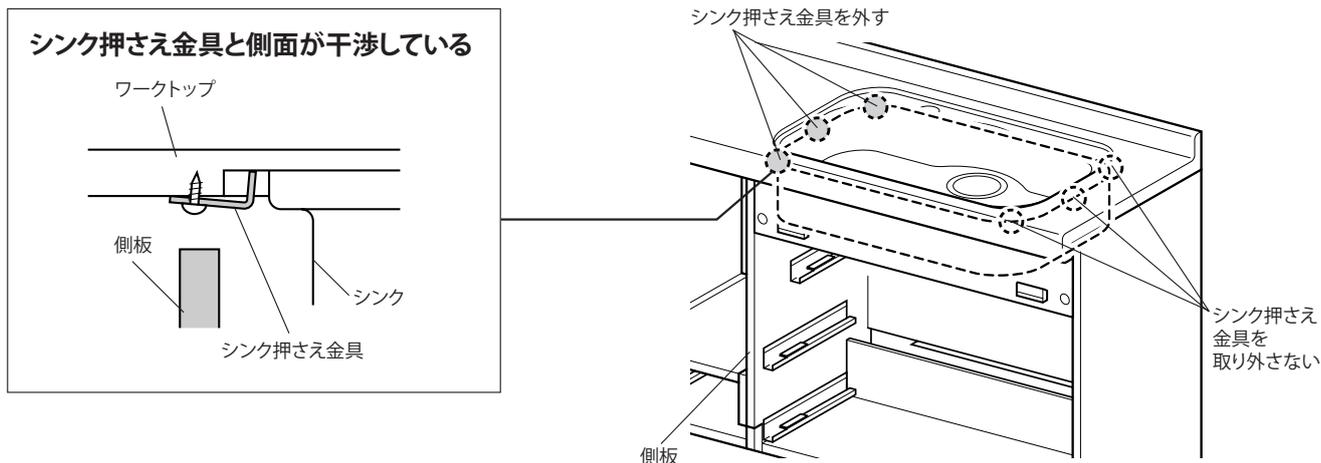


●人造大理石ワークトップ+ラウンドシンクの場合

●人造大理石ワークトップ+フランジシンクの場合

注意

❗ シンク押さえ金具とキャビネット側板が干渉しているときは、乗り上げているシンク押さえ金具を取り外す。
シンク押さえ金具と側板が干渉したままだと、ワークトップが浮いて正常に取り付けることができません。

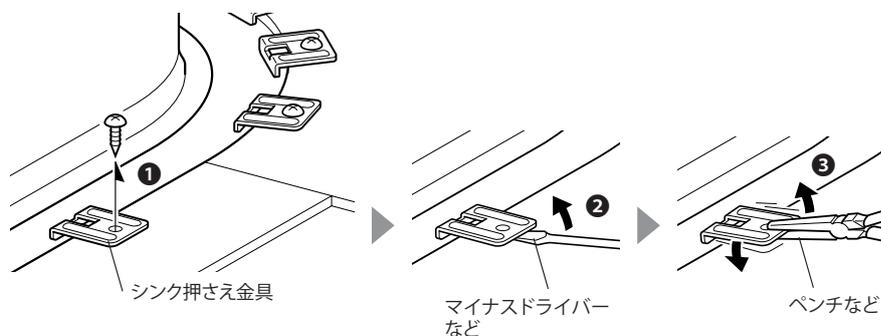


シンク押さえ金具の取り外しかた

〈ご注意〉

シンク押さえ金具を外すときは、シンク固定樹脂層を破損しないよう注意して行う。

1. シンク押さえ金具の固定ねじを取り外す。❶
2. マイナスドライバーなどをすき間に差し込み、シンク押さえ金具を少し引き起こす。❷
3. シンク押さえ金具をワークトップと平行にしたまま、ペンチなどで左右にこじりながら引き抜く。❸



フロントヒンジの設置

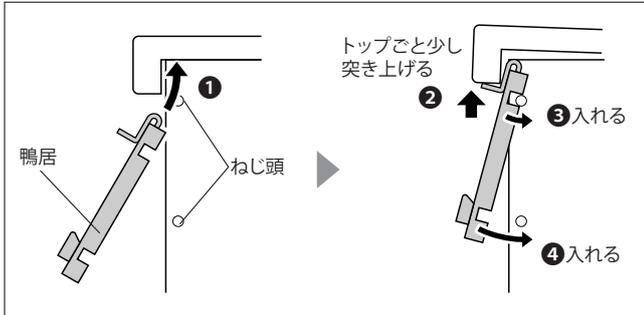
参考情報

シンク押さえ金具は、生産工程上のシンク固定樹脂層の硬化養生作業時に使用するためのもので、お客様の使用勝手には影響ありません。

⑥ワークトップを取り付ける

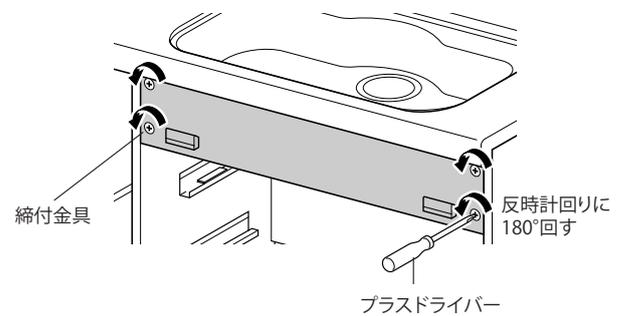
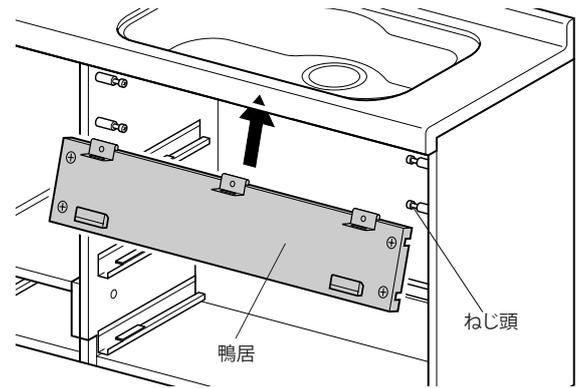
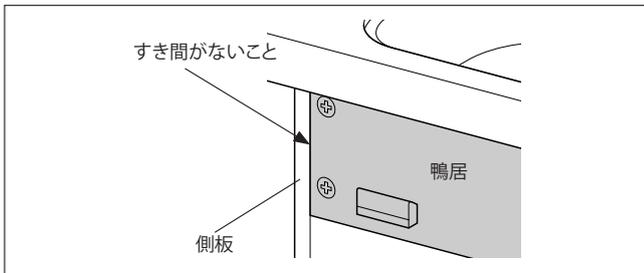
3 幕板・鴨居を取り付ける

1. 鴨居をキャビネットのねじ頭に引っ掛ける。



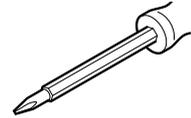
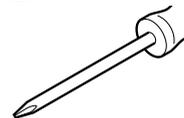
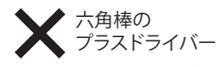
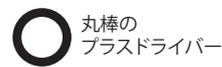
2. 締付金具を反時計回りに180°回し、鴨居を固定する。

3. 鴨居と側板にすき間がないことを確認する。



〈ご注意〉

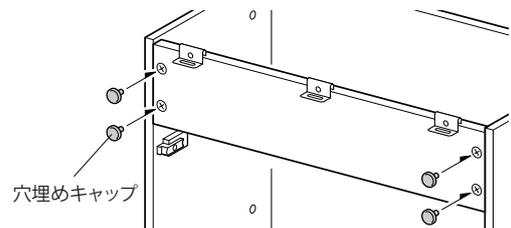
丸棒のプラスドライバーを使用してください。
六角棒のプラスドライバーを使用すると、
締付金具の周りを傷付けるおそれがあります。



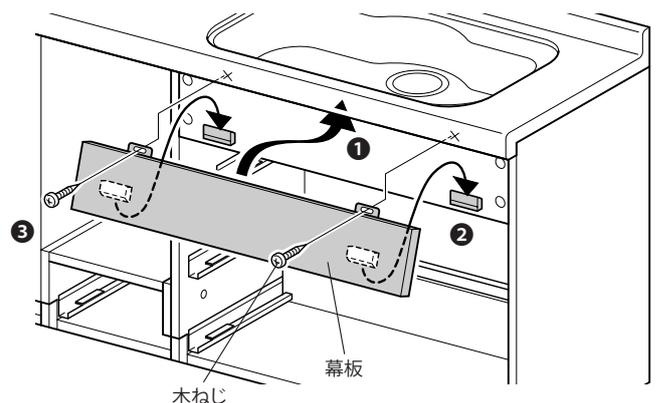
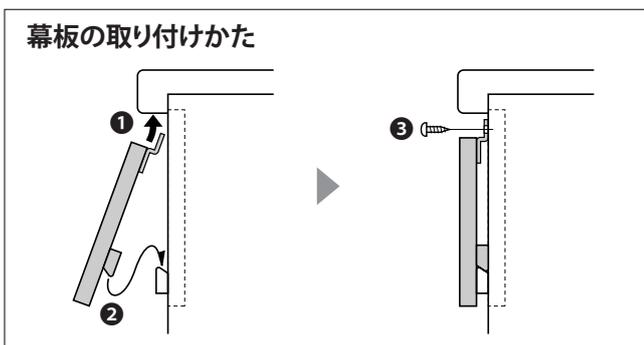
〈間口750~1200mmの開き扉のみ〉

穴埋めキャップを締付金具に取り付ける。

※穴埋めキャップはシンクキャビネットに同梱されてい
ます。



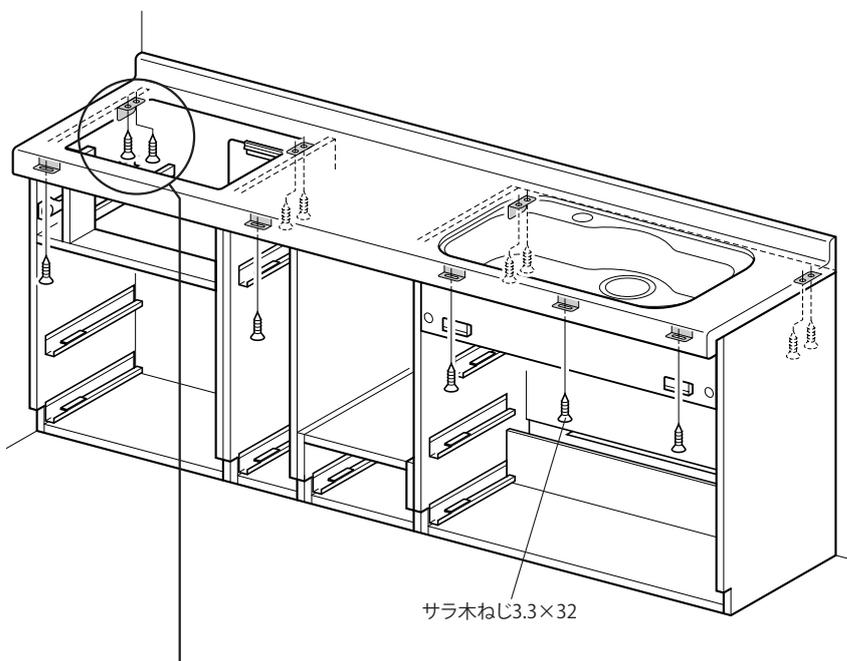
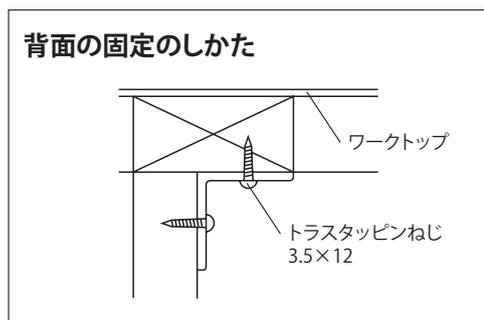
4. 幕板を鴨居に取り付ける。



4 ワークトップを固定する

〈ご注意〉

L型ワークトップの場合はワークトップを固定する前に、「L型ワークトップの連結」(→P.48)を参照してください。ワークトップとキャビネットを付属のねじで固定してください。



加熱機器開口の周りについて

漏れを防止するため、トップをのせたときに機器開口の周りの反りが1mm以内であることを確認してから固定してください。

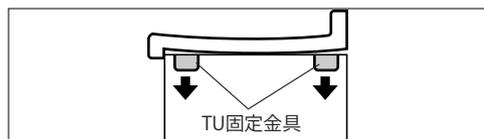
●1mm以上の反りがある場合

TU固定金具を右図のように取り付けて反りを矯正します。

トップ裏側に裏打ち材がない場合は木片など(ステンレストップの場合:厚さ:20mm/人造大理石トップの場合:厚さ15mm)を貼り付けてください。

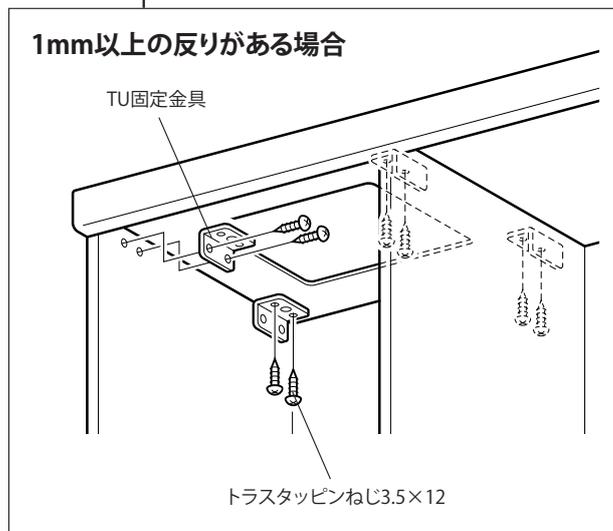
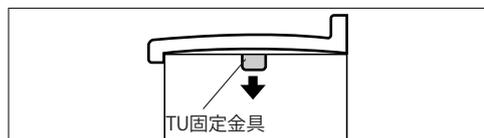
●凹方向の反りの場合

TU固定金具でワークトップの前後を引っ張って調整します。



●凸方向の反りの場合

TU固定金具でワークトップの中央部を引っ張って調整します。



6-3 L型ワークトップを連結する

参考情報

ステンレストップと人造大理石トップでは、連結手順や方法が異なります。

ステンレストップの連結→P.48

人造大理石トップの連結→P.51

ステンレストップを連結する

⚠注意

- ❗ 使用する溶剤や接着剤・洗剤、その他の薬品類については、それぞれに記載されている内容を守って正しく取り扱う。人体に影響が出たり、部材の損傷や劣化のおそれがあります。

1 右側のワークトップをねじで固定する。

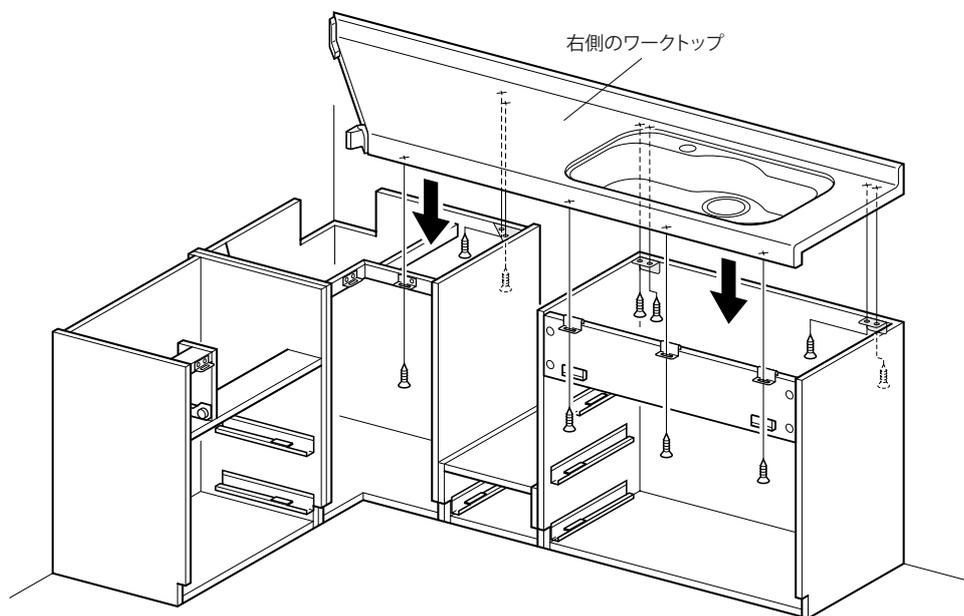
右側のワークトップがシンク付きの場合、ワークトップの仮置きの前に鴨居を取り外すことができます。

仮置き後、鴨居を取り付けてからワークトップを固定してください。

- 鴨居の取り外しかた→P.44
- 鴨居の取り付けかた→P.46

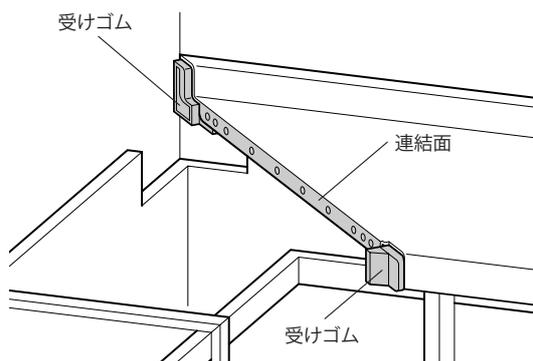
〈使用する締結部品〉

部品名	部品図
皿木ねじ3.3×32	



2 ワークトップの受けゴムと連結面を清掃する。

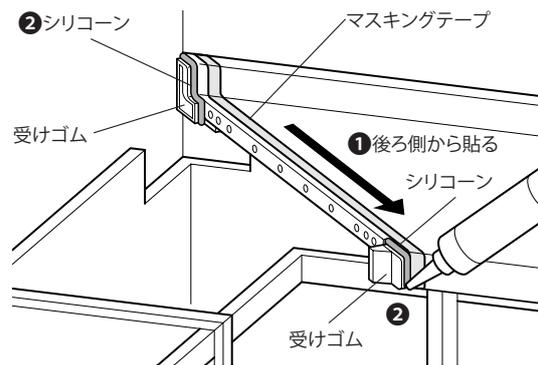
ホコリなどがあると、きれいに連結できなくなります。



3 ワークトップの連結部に
マスキングテープを貼る。^①

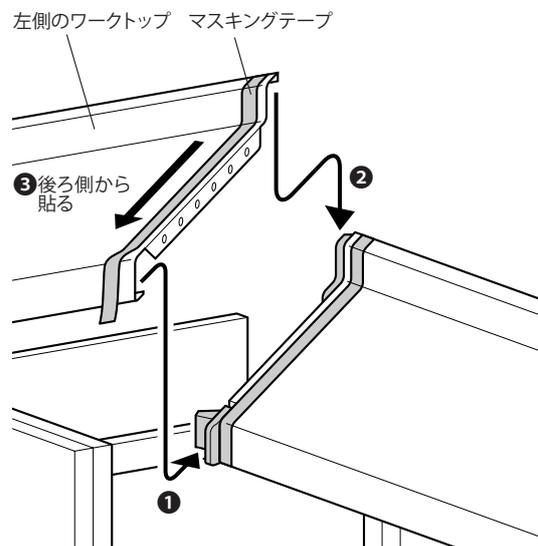
4 受けゴムにシリコンを塗布する。^②

右側トップ前後の受けゴムに付属のシリコン
(アルミ色)を塗布してください。



5 左側のワークトップを仮置きし、
位置合わせをする。

左側ワークトップの前枠を、右側の受けゴムに
かぶせてから①、バックガードを受けゴムに
かぶせてはめ合わせてください。^②



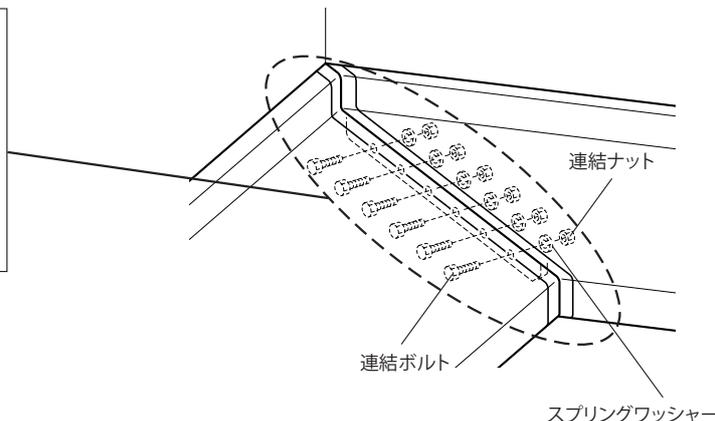
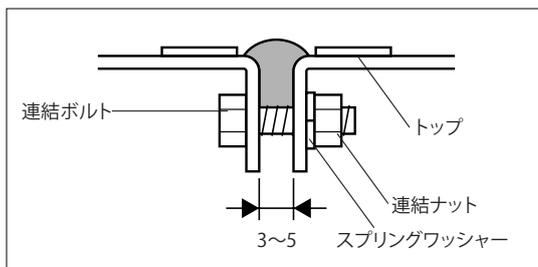
6 ワークトップの連結部に
マスキングテープを貼る。^③

7 連結ボルトとナットで、左右の
ワークトップを仮連結する。

キャビネット内部からワークトップの連結穴に
付属の連結ボルトを通し、すき間が3~5mmに
なるまで連結ナットを仮締めしてください。

〈使用する締結部品〉

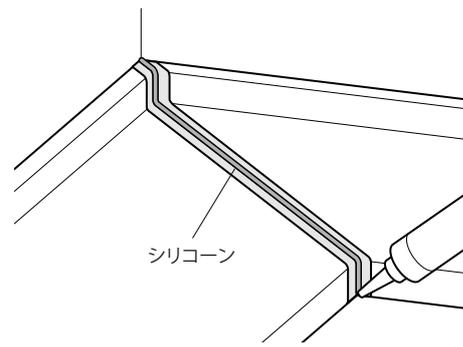
部品名	部品図
連結ボルト	
連結ナット	
スプリングワッシャー	



⑥ワークトップを取り付ける

8 連結面のすき間にシリコンを充填する。

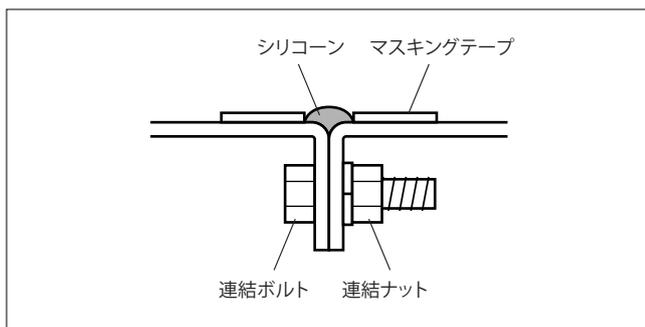
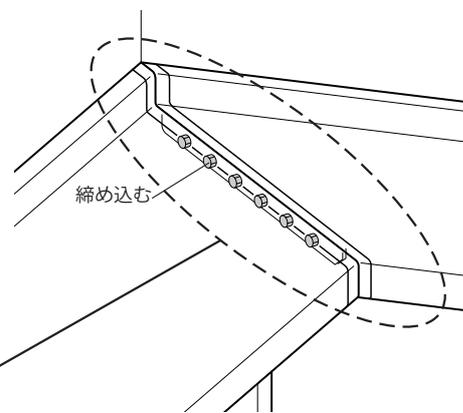
シリコンを切れ目なく均等に、奥まで充填してください。



9 連結ボルト・ナットを本締めする。

左右両方のトップのレベル調整をしながら、連結ボルト・ナットを締め込んでください。

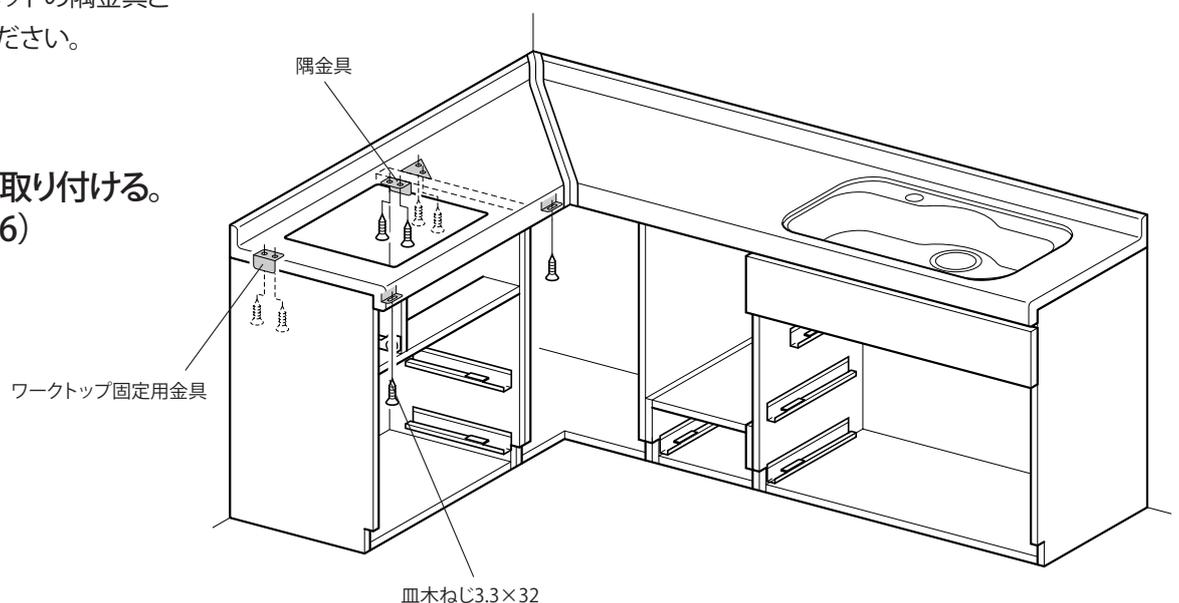
このとき、シリコンが盛り上がりますが、そのままにしておきます。



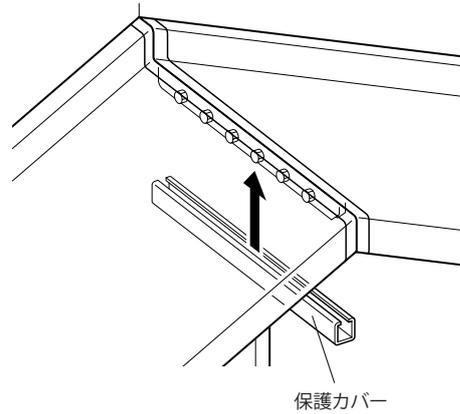
10 左側のワークトップをキャビネットに固定する。

ワークトップをキャビネットのワークトップ固定用金具、コーナーキャビネットの隅金具とねじで固定してください。

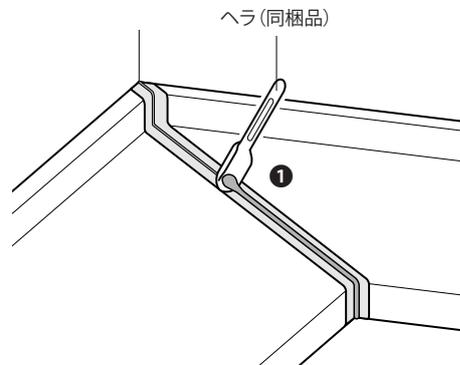
11 幕板を取り付ける。 (→P.46)



12 連結部に保護カバーを付ける



13 はみ出たシリコンをヘラで取り除く。



14 マスキングテープをはがす。

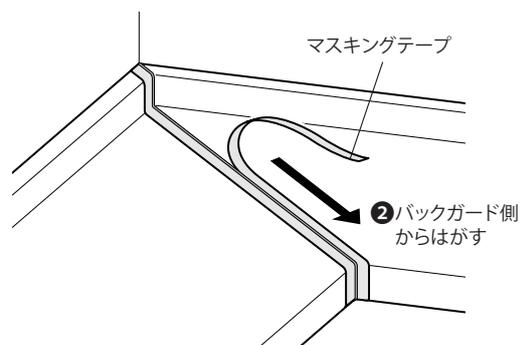
〈ご注意〉

マスキングテープをはがした後、シリコンを触らないでください。

シリコンが変形したり、はがれる原因になります。

参考情報

シリコンの硬化時間は24～48時間が目安です。



6-4 人造大理石トップを連結する

⚠ 注意

- ❗ 使用する溶剤や接着剤・洗剤、その他の薬品類については、それぞれに記載されている内容を守って正しく取り扱う。人体に影響が出たり、部材の損傷や劣化のおそれがあります。

⑥ワークトップを取り付ける

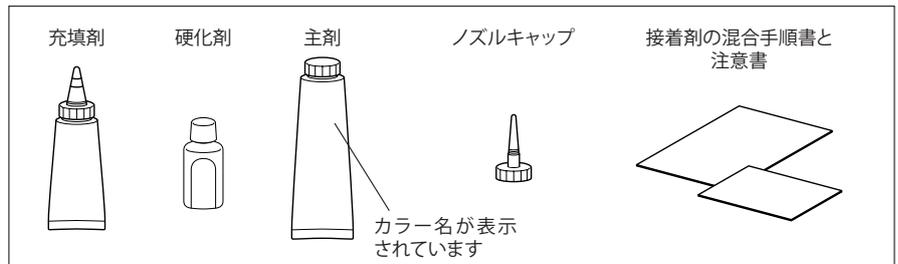
作業を始める前に必ずお読みください。

- ワークトップを研磨する際は、必ずマスクを着用して作業する。
- ワークトップに傷を付けたり、破損しないように注意する。
- 接合面のレベル調整が不十分(段差が大きい)であると、研磨に時間を要すだけでなく、接合面に研磨による凹みが発生する原因になる。
- 冬場の作業で硬化時間を短縮させるには、ワークトップを温めるより、接着剤(主剤)を温める(30～40℃)方が効果的である。
- ワークトップのバックガード・前見付けの入隅部は研磨しにくいいため、極力研磨の必要がないように配慮する。
- ワークトップの研磨の仕上がりは、目線をずらしながら入念に確認する。
- ランダムアクションサンダーを使用する場合は、ハイピッチペーパーを使用する。
- バリアコート人造大理石トップを接合・研磨した後、別紙説明書を参照してバリアコート処理を行う。

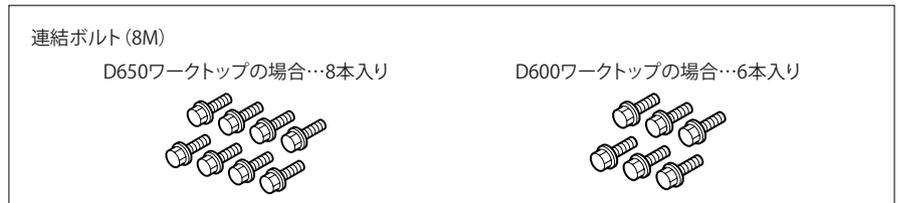
1 部材を確認する

- 1 シンク付ワークトップに付属している部材セットの数量と接着剤(主剤)カラーがあっていることを確認する。

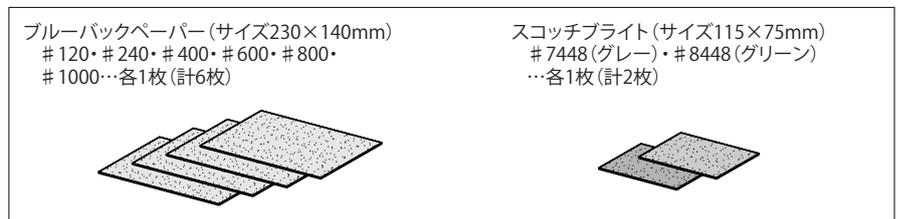
〈接着剤セット〉



〈連結ボルトセット〉

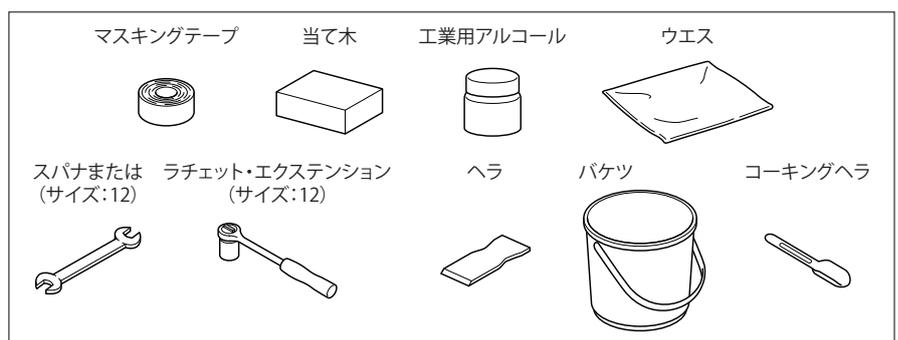


〈研磨剤セット〉



- 2 円滑に作業するため、現場にて右図の工具を用意する。

〈各現場で用意する工具類〉



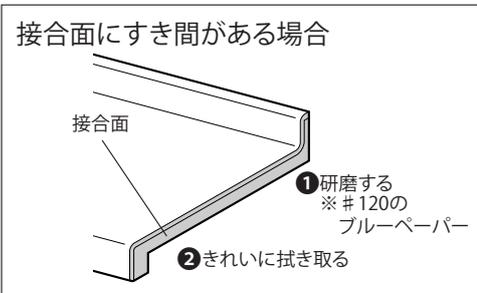
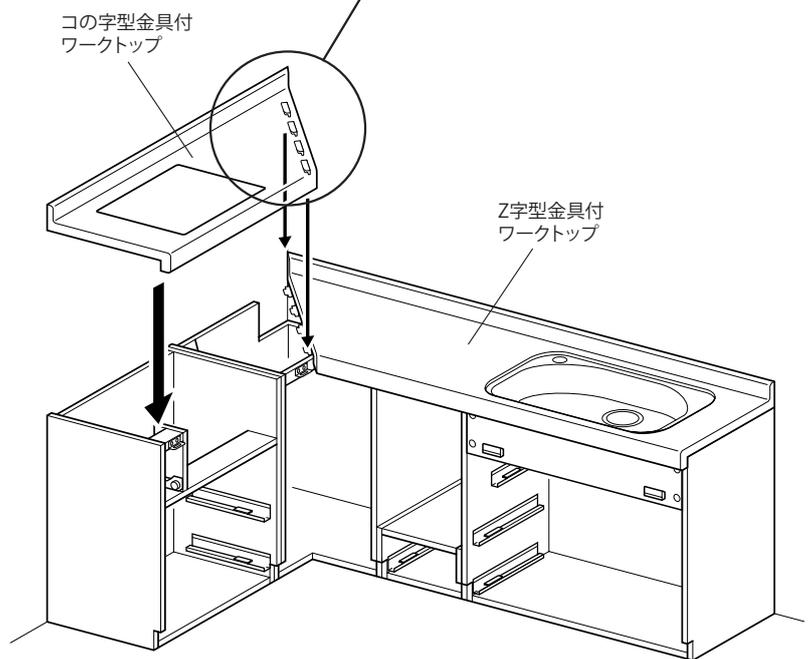
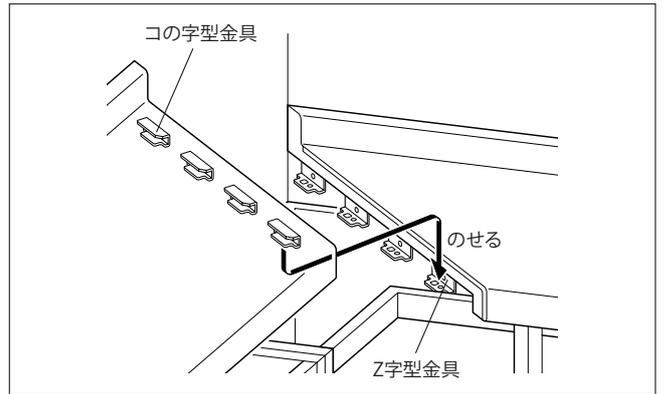
2 ワークトップを仮置きし、 接合面の試し合わせをする

1 幕板と鴨居を外す。(→P.44)
シンク付ワークトップ側の鴨居を外してください。

〈ご注意〉

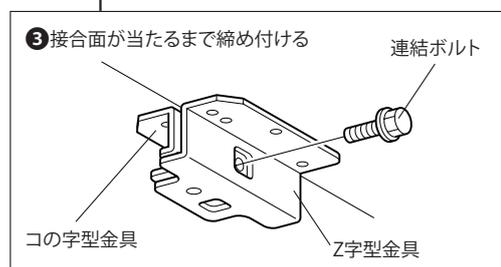
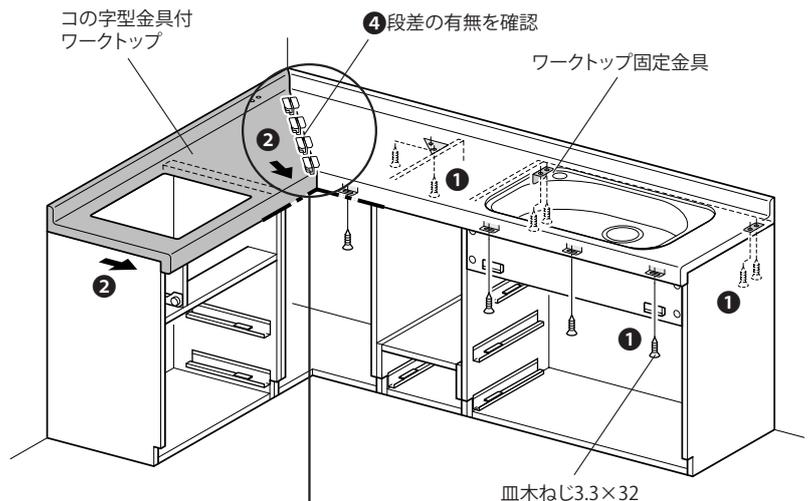
外せないキャビネットもありますので注意してください。

- 2 Z字型金具付ワークトップを仮置きする。
- 3 コの字型金具付ワークトップを仮置きする。
- 4 外した鴨居を取り付ける。(→P.46)
- 5 接合面にすき間がある場合は、接合面を#120のブルーバックペーパーで研磨する。
- 6 研磨後、接合面と接合面周辺を工業用アルコールでキレイに拭き取る。



3 ワークトップ平面部の 段差を確認する

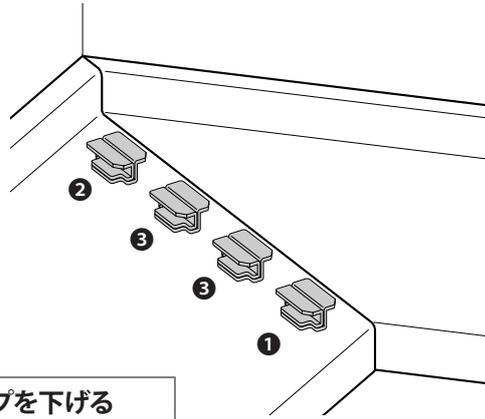
- 1 Z字型金具付ワークトップをフロアキャビネットに仮止めし、①コの字型金具付ワークトップを動かして前面をそろえる。②
- 2 ワークトップ裏面から、連結ボルトをZ字型金具中央の穴にねじ込み、ワークトップ接合面が当たるまで締め付ける。③
- 3 段差の有無を確認する。④



⑥ワークトップを取り付ける

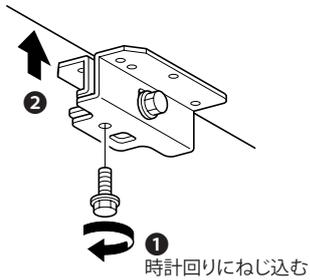
4 接合面のレベルを調整する

連結ボルトをワークトップ裏面の金具にねじ込み、
①手前→②奥→③中央の金具の順で、
ワークトップのレベルを調整してください。

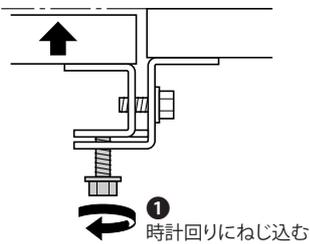


〈ワークトップのレベル調整のしかた〉

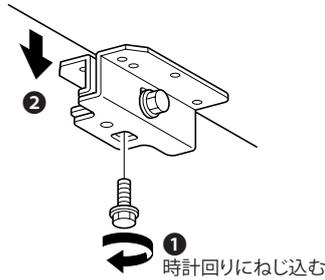
コの字型付ワークトップを上げる



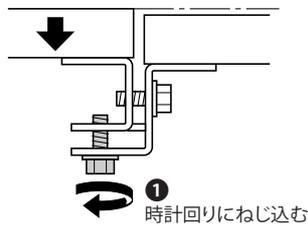
②コの字型金具が引き上げられて
ワークトップが上がる



コの字型付ワークトップを下げる

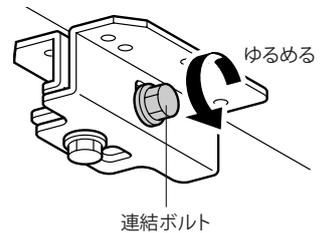


②コの字型金具が引き寄せられて
ワークトップが下がる



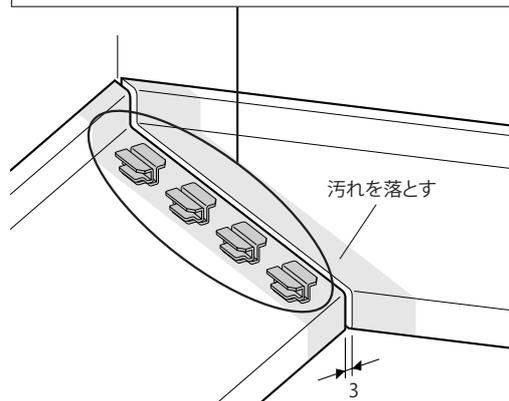
5 接合面にすき間を開ける

接着剤を塗布するために、3-2でね
じ込んだ連結ボルトをゆるめて、
ワークトップ接合面にすき間を約
3mm開けてください。



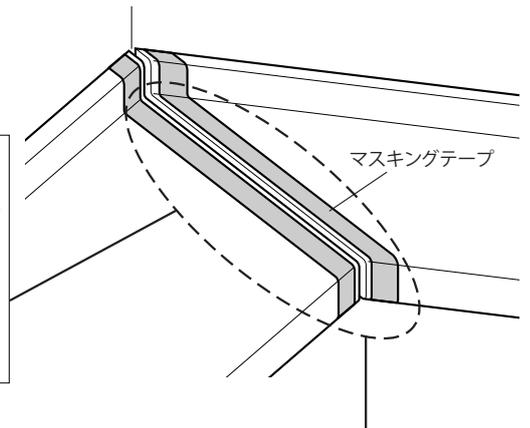
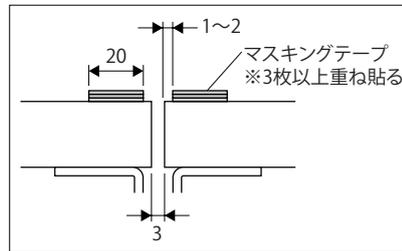
6 ワークトップ接合面付近の 汚れを落とす

ワークトップ接合面の汚れを、
工業用アルコールできれいに落としてください。



7 マスキングテープを貼る

- 1 接合面から1~2mm離して、幅広のマスキングテープを片側3枚以上重ねて貼る。

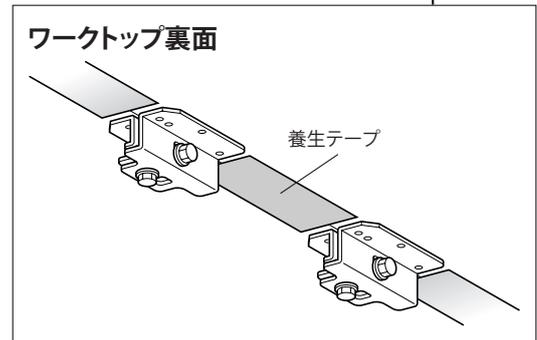


- 2 接着剤が垂れるのを防ぐため、養生テープをトップの裏面に貼る。

8 接着剤を準備する

接着剤セット部材でワークトップ接合用の接着剤を作ります。
〈ご注意〉

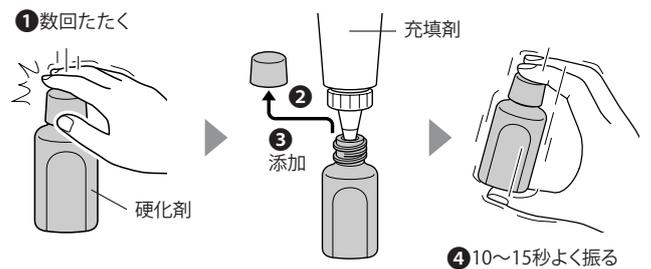
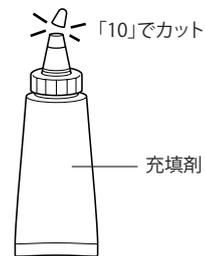
接着剤の硬化時間が比較的に早いので、あらかじめP.55~P.57までの説明を読み、使用する道具の準備をしてから作業を進めてください。



- 1 充填剤のノズルをカットする。

- 2 充填剤を硬化剤に添加する。

1. キャップに硬化剤が付着していることがあるため、容器を上向きにしてキャップを数回たたく。①
2. 硬化剤のキャップを開けて②、充填剤のノズル部分を差し込み、こぼれないように添加する。③
3. 硬化剤のキャップとキャップをしっかりと閉め、10~15秒程度よく振って、硬化剤と充填材を混合させる。④



- 3 硬化剤を主剤に添加する。

1. キャップに接着剤が付着していることがあるため、容器を上向きにしてキャップを数回たたく。①
2. 硬化剤の容器の口と主剤のチューブの口を合わせて、こぼれないように全量添加する。②

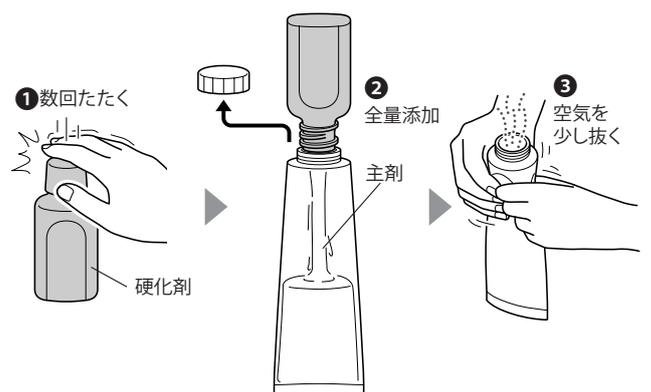
〈ご注意〉

全量添加しないと、硬化不良を起こすおそれがあります。

3. 主剤のチューブ内の空気を少し抜いてキャップを閉める。③

〈ご注意〉

空気を抜きすぎると、混合しにくくなるおそれがあります。



⑥ワークトップを取り付ける

4 よく混合する。

1. 手を上下に動かしながら、チューブをもみほぐすように30秒程度混合し、主剤と硬化剤をなじませる。①
2. チューブの上下を持ち、交互に握るように約3分間混合する。混合液が上下に動くようにしっかり混合させる。②
3. 3分間混合したのち、色がまだらな場合や未分散の粉体が確認できる場合は、再度もみほぐして十分に混合させる。

〈ご注意〉

混合が不十分ですと、接合部の色目不良や硬化不良が起こるおそれがあります。

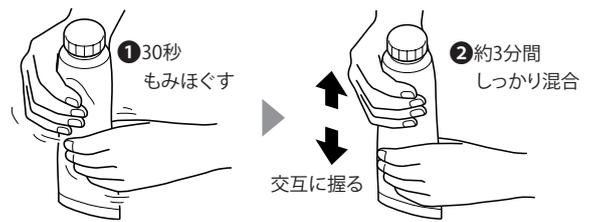
4. 混合後、容器のキャップをノズルに付け替え④、泡抜きのためにチューブを振る。⑤

〈容器を振る時間の目安〉

温度	容器を振る時間
5℃	15～25秒
23℃	10～20秒
40℃	5～10秒

〈ご注意〉

夏場など高温の場合は使用時間が短くなるため、接着剤を混合してから吐出するまでできるだけ早く作業してください。



9 接着剤を塗布する

ワークトップを接着剤で接続します。

1. 先端を約 20mm の位置で斜めにカットする。①
2. 最初に出てくる接着剤 (1/10 程度) を捨てる。②
キャップ周辺の接着剤は十分に混合されていないことがあります。



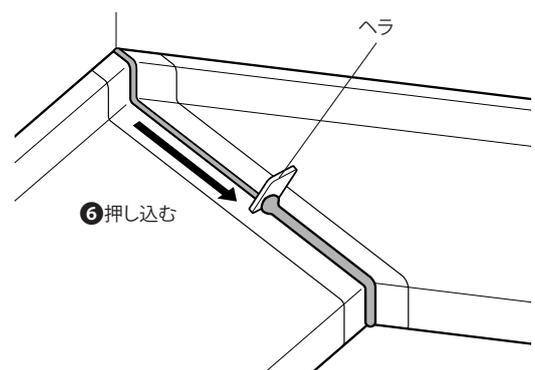
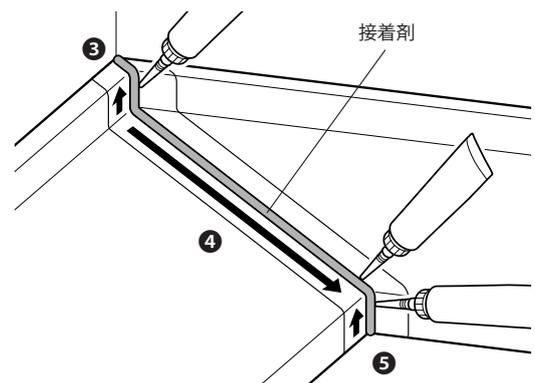
3. ③④⑤の順でワークトップのすき間に接着剤を充填する。

〈ご注意〉

- 前枠部分は接着剤が垂れやすいため注意して充填してください。
 - 接着剤はワークトップ端部まで十分に充填してください。ワレの原因となります。
4. 接合部分にすき間ができないように、接着剤をヘラで押し込む。⑥
 5. 接着剤を使い切るまで、3.～4.の工程を繰り返す。

〈ご注意〉

充填が不十分だと、接着剤がヒケるおそれがあります。



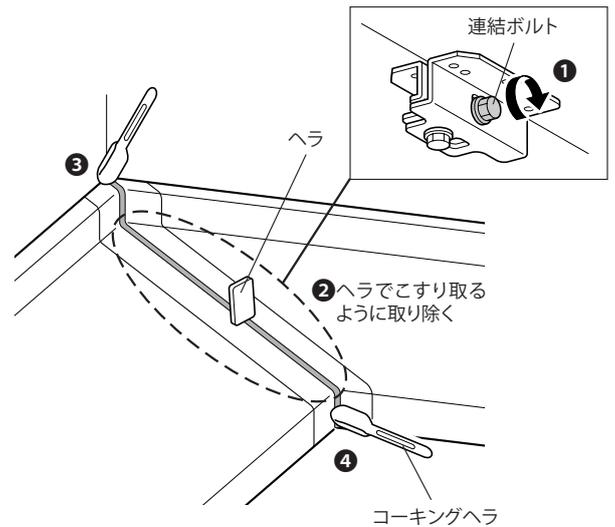
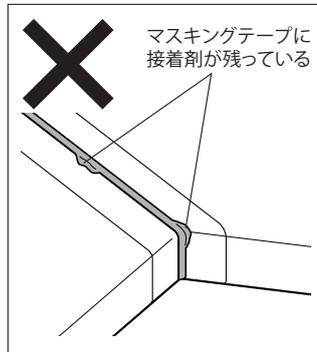
⚠ 警告

- 残った接着剤は、水の入ったバケツなどで冷却し、完全硬化後に処分する。
時間とともに接着剤が高温になり、火災になるおそれがあります。
- 残った接着剤を、床材の上などには絶対に置かない。
床材の変色や火災の原因になります。

6. 連結ボルト(M8)をワークトップどうしが当たるまで締め付ける。①
7. ワークトップのレベルを確認し、接合面の余分な接着剤をヘラで取り除く。②

〈ご注意〉

マスキングテープ上に接着剤が残らないように取り除いてください。接着剤が残っていると、マスキングテープをはがす際、すき間に充填された接着剤もはがれるおそれがあります。



8. 前枠とバックガードの接着剤をコーキングヘラで取り除く。③④

10 硬化した接着剤を除去し、接合面を平滑にする

1. 下表の硬化時間を目安にし、接着剤を爪の先で押す。①
爪跡が残らなければ、硬化しています。

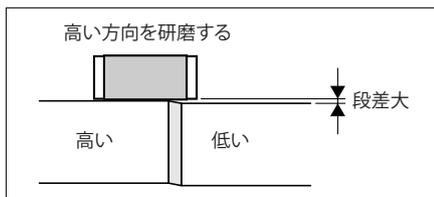
〈硬化時間の目安〉

室温	時間
5℃	約360~420分
23℃	約90~110分
40℃	約25~30分

参考情報

表面硬化が悪い場合は、ドライヤーなどを当てることで、硬化時間を短縮できます。

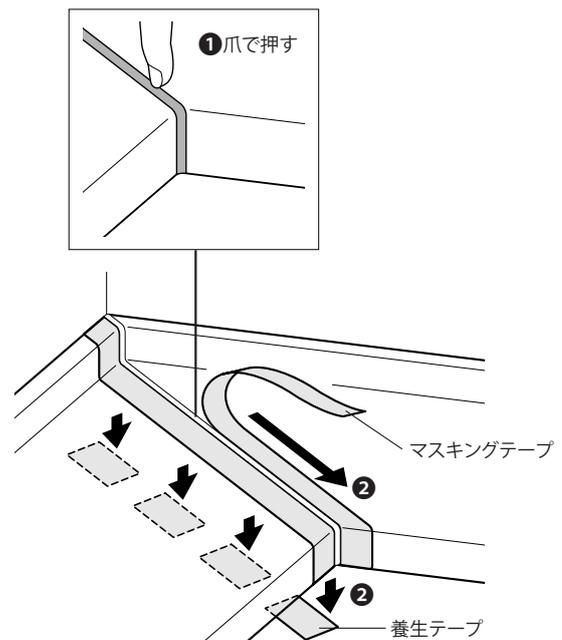
2. 硬化していることを確認したら、表面のマスキングテープ、裏面の養生テープをはがし、②硬化した接着剤を取り除く。
3. 当て木を#120のブルーバックペーパーで包む。
4. 左右のワークトップに段差がある場合は、高い方を研磨し、接合部を平滑にする。



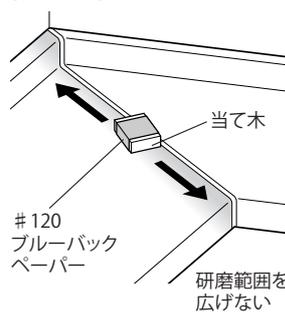
〈ご注意〉

段差が大きい場合は研磨範囲を広げて、平滑になるように研磨してください。局所的に研磨すると、不陸(凹凸)が出るおそれがあります。

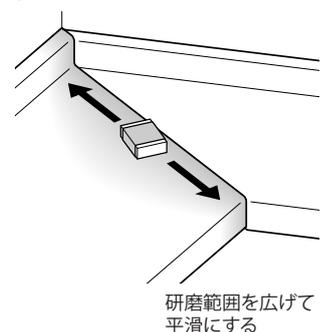
5. 指で触って接合面に不陸(凹凸)がないことを確認する。



段差が小さいとき



段差が大きいとき



11 研磨して表面を仕上げる

接合部が平滑になったら、同梱のブルーバックペーパーで研磨してください。

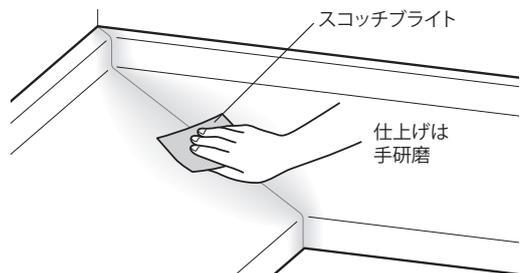
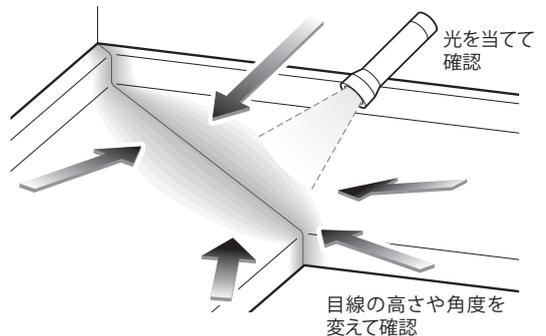
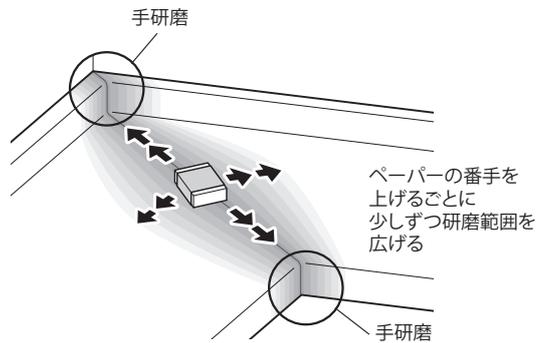
1. 通常ワークトップと、バリアコートワークトップの白色または白色以外で使用するブルーバックペーパーの番手が異なるので、使用する番手と研磨の順番を確認する。
2. ペーパーの番手を上げるごとに、少しずつ範囲を広げて研磨する。
※入隅付近は必ず手研磨(木片)する。
3. 研磨した全体をスコッチブライト(7448:グレー)で仕上げる。

〈ご注意〉

ペーパーキズが残らないようにしてください。
同じ箇所を集中的に研磨したり、前のペーパーキズをきちんと落としていないと研磨ムラや光沢ムラになります。

〈使用するブルーバックペーパーの番手と研磨の順番〉

研磨順	通常ワークトップ	バリアコートワークトップ	
		白色	白色以外
1	#120	#120	#120
2	#240	#240	#240
3	#400	#400	#400
4	#600	#600	#600
5	スコッチブライト(7448:グレー)	#800	#800
6	—	#1000	スコッチブライト(7448:グレー)
7	—	スコッチブライト(7448:グレー)	—



12 研磨の仕上がりを確認する

接合部の研磨が終了したら、水またはアルコールを含ませたきれいな布でトップ全体を拭いて、仕上がりを確認してください。

ポイント

- 目線を落としたり、少し離れたところから見たり、照明を使ったりして、さまざまな角度から見て確認してください。
- 特に、キッチン前面に出窓などがあり、光が入るレイアウト時には注意してください。
- 研磨部と未研磨部の境目が目立つ場合は、以下の手順で境目をぼかす作業を行ってください。

研磨・未研磨部境目の仕上げかた

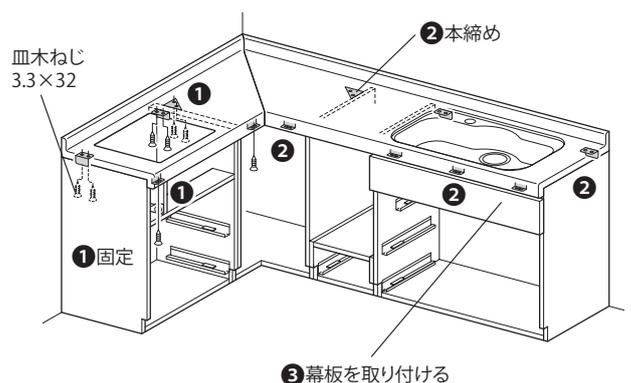
同梱のスコッチブライト(7448:グレー)で、研磨部を全体的にざらざら感がなくなるまで手研磨で仕上げてください。
仕上げ作業が完了したら、再度清掃および仕上がり確認をしてください。

〈バリアコート人造大理石の表面処理(仕上げ)のしかた〉

人造大理石トップの連結と研磨作業後、バリアコートタイプはバリアコート処理作業を行ってください。
別紙の説明書を参照し、正しく作業してください。

13 ワークトップを固定して幕板を取り付ける

1. コの字型金具付ワークトップをキャビネットにねじで固定する。①
2. Z字型金具付ワークトップの仮止めしたねじを本締めする。②
3. 幕板を取り付ける(→P.46)。③

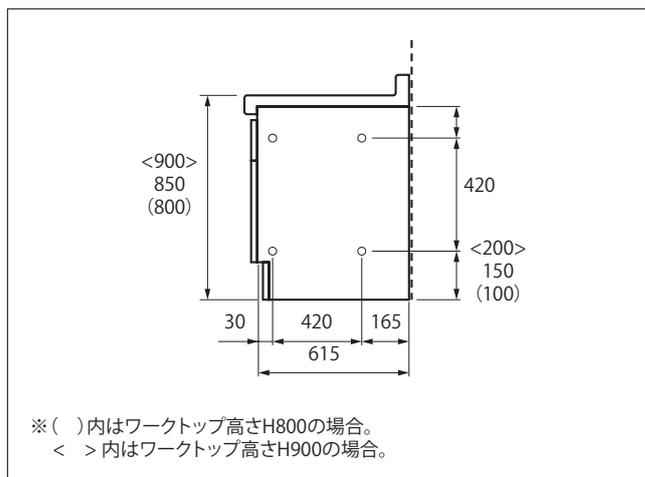


7 エンドパネルを取り付ける

1 フロアキャビネットに貫通穴がない場合は、φ4.5～5の貫通穴を開ける。

⚠️ 注意

❗ φ5より大きな貫通穴を開けない。
 エンドパネルの保持力が弱くなり、エンドパネルが外れてケガをする原因になります。



2 エンドパネルを必要な長さにカットする。

キッチン用の場合

H2400で納入されるので、高さを合わせて上部をカットする。

ワークユニット用の場合

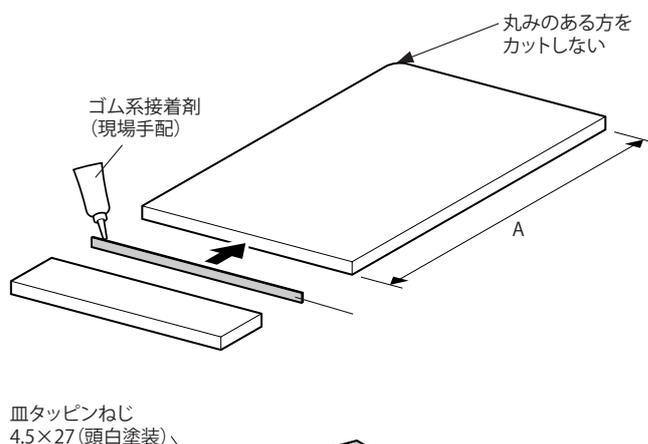
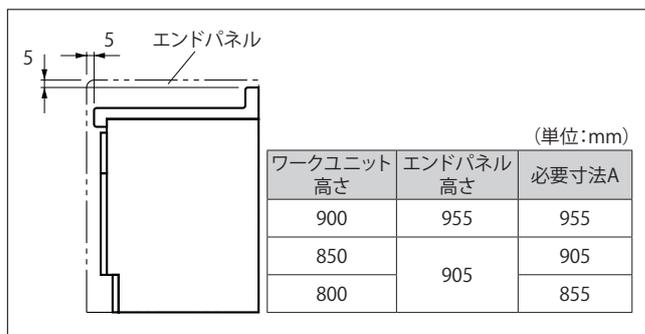
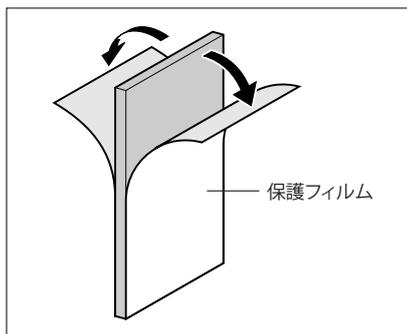
1. ワークユニット高さでエンドパネルの高さが異なるので、確認する。
2. ワークユニット高さ800mmに取り付ける場合は、エンドパネルの下面をカットする。

〈ご注意〉

ワークユニット高さ900mm・850mmに取り付ける場合は、**カットしません。**

3. 同梱の木口シートをカットした面に、ゴム系接着剤で貼る。

3 エンドパネルに保護フィルムが貼られている場合は、保護フィルムをはがす。

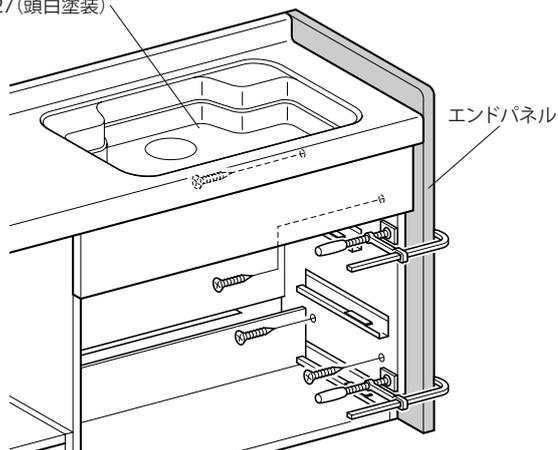


4 側面の連結穴に合わせて、エンドパネルをクランプで固定する。

5 エンドパネルをキャビネットにねじで固定する。

〈使用する締結部品〉

部品名	部品図
皿タッピンねじ4.5×27 (頭白塗装)	

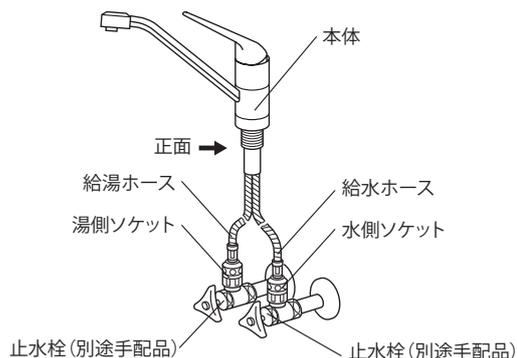


8

水栓金具・浄水機能付水栓を取り付ける

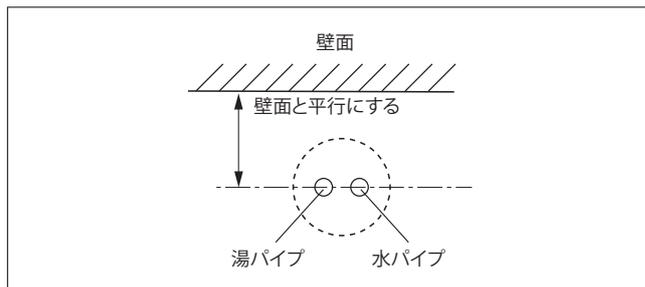
⚠️ 注意 管工事 キッチン取付・設置

- ❗ 水栓の取り付けは、「取付・設置説明書」と製品本体に表示されている内容を守り、正しく設置する。
水や湯が漏れ、床を汚したり、損傷するおそれがあります。



〈ご注意〉

- 水栓には1次配管と接続するためのソケットが同梱されている場合がありますので、紛失しないよう注意してください。
- シャワーホースや電磁弁などがキャビネット引き出しに干渉しないことを確認してください。
干渉する場合は、鋼管を干渉しないように奥側に軽く曲げるなどしてください。



9

排水部品を取り付ける

⚠️ 注意

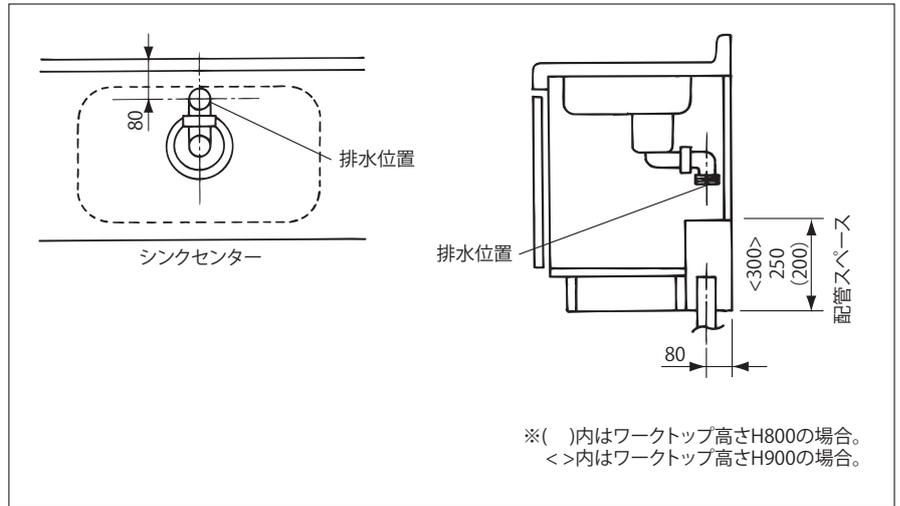
- ❗ 必ず設置方法を守って取り付け。
取り付けを誤ると漏水し、損害が発生するおそれがあります。
- ❗ シンク締込部各パッキン密着部は、ゴミやホコリなどを確実に取り除く。
ゴミやホコリなどが残っていると、パッキンが密着せずに漏水するおそれがあります。
- ❗ シンク締込部各パッキンに「ねじれ」や「はみ出し」がないことを確認する。
「ねじれ」や「はみ出し」があると、漏水するおそれがあります。
- 🚫 フクロナットの締め付けは、工具を使用しない。
工具を使用するとフクロナットが割れ、漏水する原因になります。

排水部品の取付・設置の流れ

① 排水位置を確認する	61
② 排水セット部品を取り付ける	61
③ 水漏れ確認をする	67
④ 封印シールを貼る	69
⑤ 排水接続について	70

9-1 排水位置を確認する

図の位置に排水が立ち上がっていることを確認してください。



9-2 排水セット部品を取り付ける

排水セット部品について

ゴミ収納器付き排水トラップは、シンクの種類によって異なりますので確認し、正しく取り付けてください。

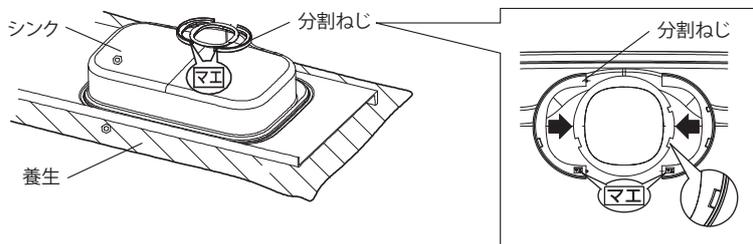
シンクの種類	ひろびろ ラクリーン シンク		キレイシンク (ひろびろキレイシンク 含む)		ラウンドシンク・スキットシンク・Wサポートシンク (ひろびろWサポートシンク含む)		
排水口タイプ	くるりん 排水口	てまなし 排水口	くるりん 排水口	てまなし 排水口	くるりん 排水口	ステンレス 排水口	樹脂排水口
取り付けかた	P.62		P.64		P.65	P.66	P.67

ひろびろラクリーンシンク用排水セット部品を取り付ける

〈排水セット部品の種類〉

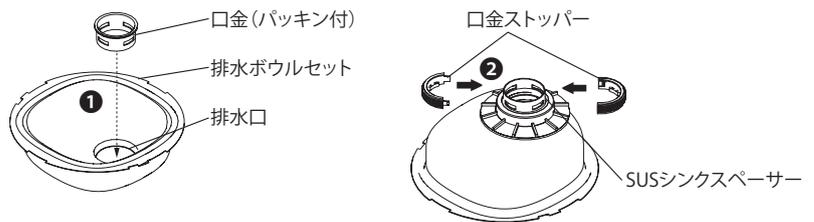
くるりん排水口タイプ		てまなし排水口タイプ	
デュアルコート無	デュアルコート有	デュアルコート無	デュアルコート有
<p>ゴミカゴ フィン 封水筒 シャフト 口金 パッキン 排水ボウルセット 分割ねじ (シンク・排水ボウル)ロックナット SUSシンクスペーサー パッキン 口金ストッパー ロックナット パッキン ファスナー 三角パッキン スベリワッシャー フクロナット</p>	<p>排水ボウルセット 分割ねじ (シンク・排水ボウル)ロックナット SUSシンクスペーサー パッキン 口金ストッパー ロックナット パッキン ファスナー 三角パッキン スベリワッシャー フクロナット</p>		

1 シンクに分割ねじを取り付ける。



2 口金を排水ボウルセットの排水口部に取り付ける。

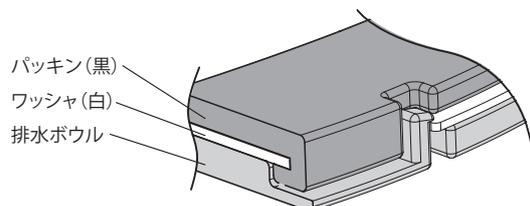
1. 口金 (パッキン付き) を排水ボウルセットの排水口部に落とし込む。①
2. SUS シンクスペーサーを口金に通し、口金ストッパーを口金の開口部に差し込む。②



⚠️ 注意

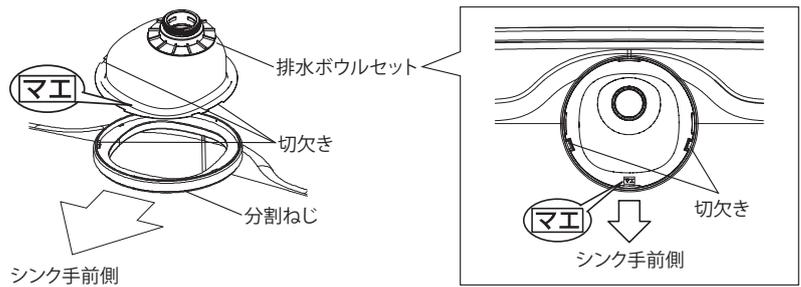
- ❗ 各部位のパッキンがよじれていないか、確実に取り付けられていることを確認する。
漏水するおそれがあります。
- ❗ 排水ボウルにパッキンが確実にセットされていることを確認する(外周4カ所とも)。
セットが不完全だとパッキンが密着せず、漏水するおそれがあります。

排水ボウルセット断面



3 排水ボウルセットをシンクに取り付ける。

1. 排水ボウルセットの切り欠き部分を分割ねじと合わせてセットする。



2. 排水ボウルロックナットを手で止まるまで締めた後、専用工具で増締めし、排水ボウルセットをシンクに固定する。



4 排水トラップロックナットを取り付ける。

排水トラップロックナットを手で止まるまで締め付けて固定してください。



⚠️ 注意

排水トラップロックナットの締め付けは、口金を手で押さえながら手締めで確実にを行う。漏水の原因となります。

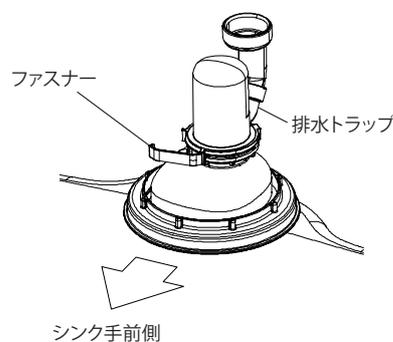
5 トラップを取り付ける。

くるりん排水口タイプの場合

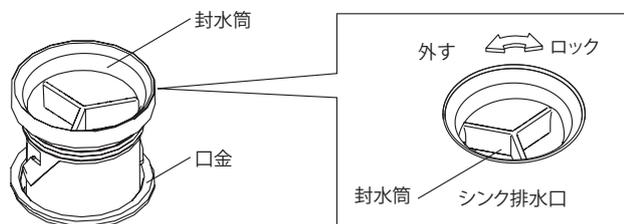
くるりん排水口に同梱の取付・設置説明書を確認して、正しく取り付けてください。

てまなし排水口タイプの場合

1. 排水トラップロックナットにトラップ本体を差し込み、ファスナーをロックする。

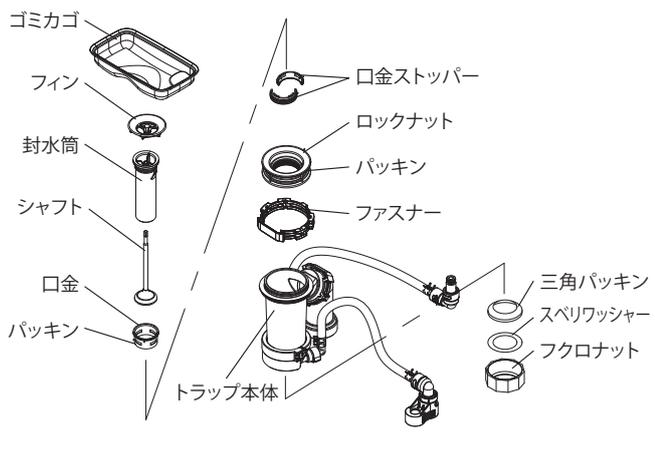
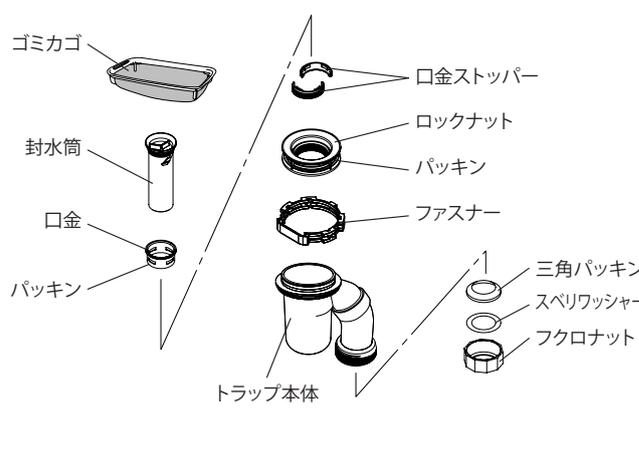


2. 口金に封水筒を差し込み、確実に締め込む。



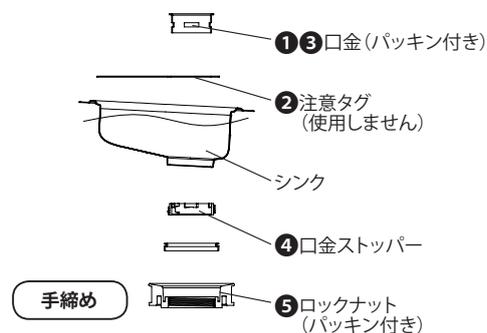
キレイシンク用排水セット部品を取り付ける (ひろびろキレイシンク含む)

〈排水セット部品の種類〉

くるりん排水口タイプ	てまなし排水口タイプ
バリアコートNEO有/無	バリアコートNEO有/無
フタ無	フタ無
	

1 納入されたセットをばらし、シンクに部品を取り付ける。

1. 口金にパッキンが付いていることを確認する。❶
2. 注意タグを外す。❷
3. 口金をシンクの排水口に設置する。❸
4. シンクの下側から口金に口金ストッパーを取り付ける。❹
5. ロックナットを手で確実に締め付ける。❺



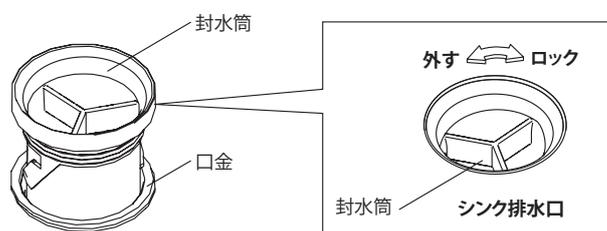
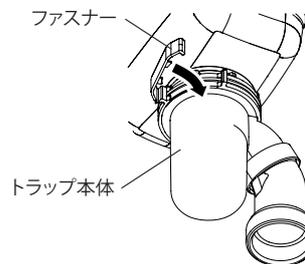
2 トラップを取り付ける。

くるりん排水口タイプの場合

くるりん排水口に同梱の取付・設置説明書を確認して、正しく取り付けてください。

てまなし排水口タイプの場合

1. 排水トラップロックナットにトラップ本体を差し込み、ファスナーをロックする。
2. 口金に封水筒を差し込み、確実に締め込む。



ラウンドシンク・スキットシンク・Wサポートシンク用排水セット部品を取り付ける (ひろびろWサポートシンク含む)

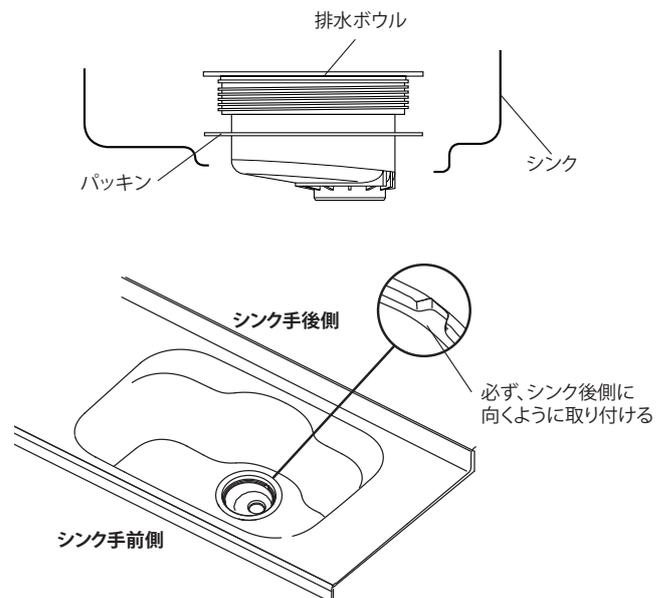
<排水セット部品の種類>

くるりん排水口タイプ		ステンレス排水口タイプ		樹脂排水口タイプ	
デュアルコート無	デュアルコート有	デュアルコート無	デュアルコート有	デュアルコート無	デュアルコート有
排水カップ	排水カップ (デュアルコート)	排水カップ	排水カップ (デュアルコート)	排水カップ	排水カップ (デュアルコート)
<p>ゴミカゴ フィン 封水筒 シャフト 口金 パッキン 排水ボウルセット 口金ストッパー ロックナット パッキン ファスナー トラップ本体 三角パッキン スベリワッシャー フクロナット</p>		<p>ゴミカゴ ワン ロックナット ファスナー トラップ本体 三角パッキン スベリワッシャー フクロナット</p>		<p>ゴミカゴ ロックナット 排水トラップ本体 エルボ 三角パッキン スベリワッシャー フクロナット</p>	

●くるりん排水口タイプの場合

1 排水ボウルをシンクに取り付ける。

1. 排水ボウルにパッキンが確実に取り付けられていることを確認する。
2. 排水ボウルを、シンク上側から落とし込む。
3. 排水ボウルの凹部がシンク後側に向くように回転させる。

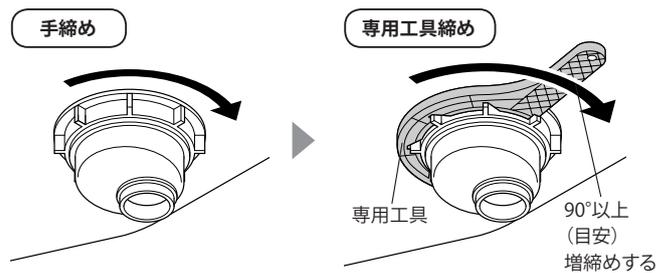


⑨排水部品を取り付ける

4. ロックナットをシンク下側から手で止まるまで締めた後、専用工具で増締めし、排水ボウルセットをシンクに固定する。

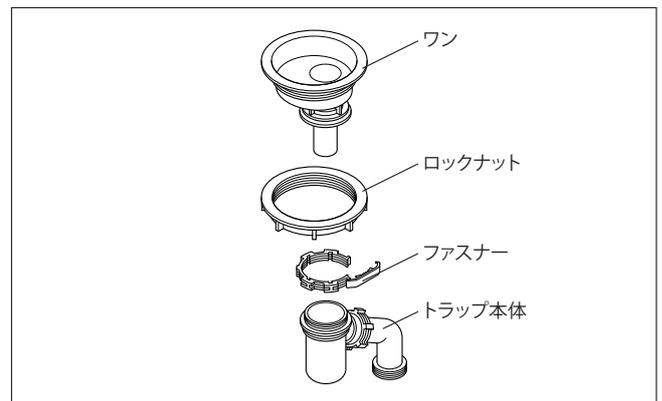
2 トラップを取り付ける。

くるりん排水口に同梱の取付・設置説明書を確認して、正しく取り付けてください。



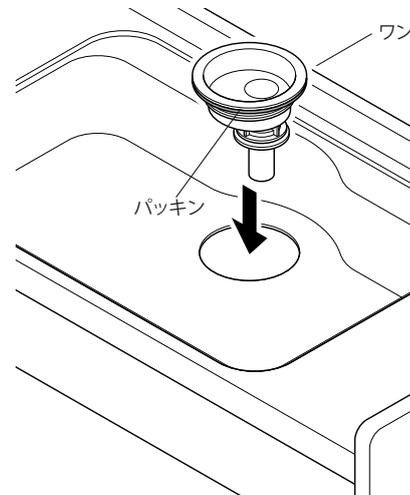
●ステンレス排水口タイプの場合

1 ファスナーを外してトラップ本体とワンを取り外す。



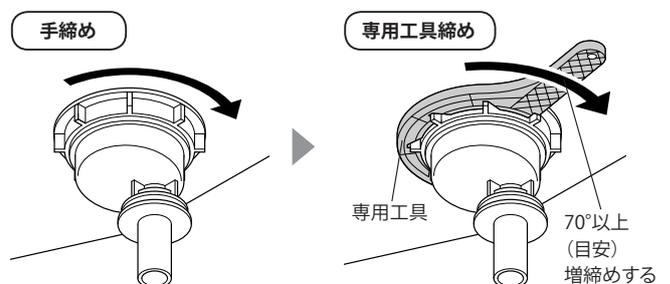
2 ワンをシンクに落とし込む。

ワンにパッキンが確実に取り付けられていることを確認し、ワンをシンクの上側から落とし込んでください。

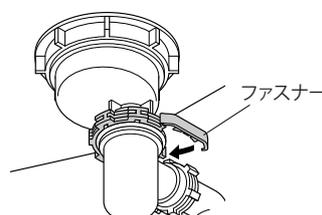


3 ワンをロックナットで固定する。

ロックナットをシンク下側から手で止まるまで締めた後、専用工具で増し締めし、ワンをシンクに固定してください。



4 トラップとワンをファスナーで固定する。



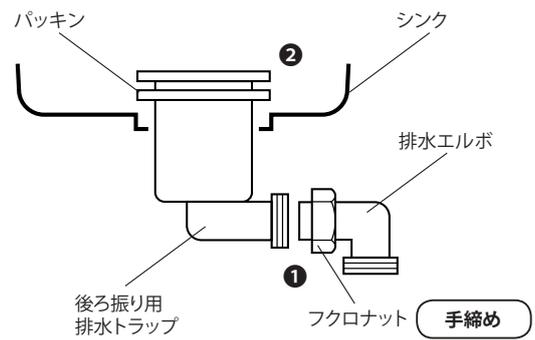
●樹脂排水口タイプの場合

1 排水エルボと排水トラップを接続する。

フクロナットは工具を使用せず、手で止まるまで締め付けてください。

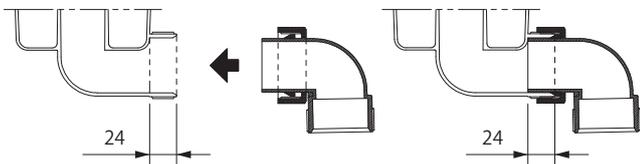
2 排水トラップをシンクに落とし込む。

排水トラップにパッキンが確実に取り付けられていることを確認し、排水トラップをシンクの上側から落とし込んでください。



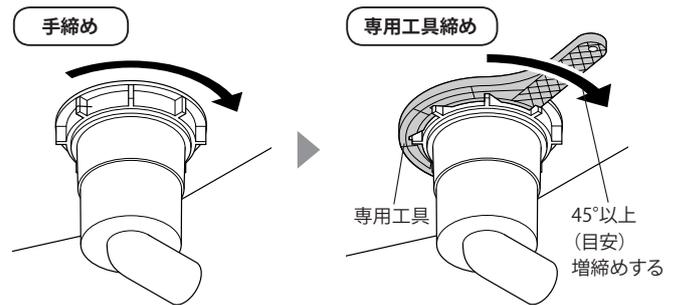
参考情報

排水エルボ接続部の寸法は下図を参照してください



3 排水トラップを固定する。

ロックナットをシンク下側から手で止まるまで締めた後、専用工具で増締めし、排水トラップをシンクに固定してください。



9-3 水漏れ確認をする

接続した排水セット部品の接合部などから水漏れがないことを確認してください。

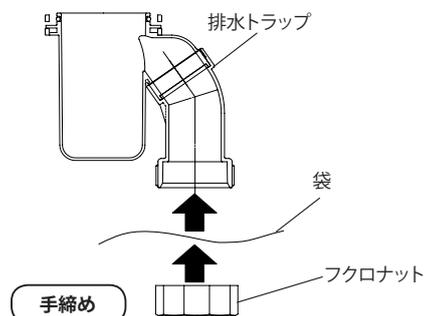
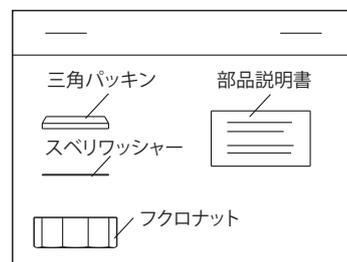
ワークトップに同梱のフクロナットセットの梱包袋を使用してください。

1 フクロナットセットから同梱品を取り出し、袋に穴やキズがないことを確認する。

2 排水部品接続口に袋を当てて、フクロナットをきつく締め込む。

三角パッキン、スベリワッシャーは使用しないでください。

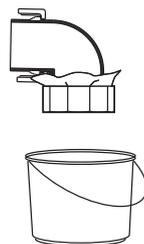
フクロナットセット



⑨排水部品を取り付ける

- 3** 排水部品接続口の下にバケツを用意し、シンク内に約2ℓの水を貯め、30分ほど放置する。

トラップの接合部から水漏れがないことを確認してください。



- 4** 水漏れ確認が完了したら、袋に穴を開けてシンク内の水をバケツに流す。

- 5** トラップ内に封水用の水が貯まっていることを確認する。

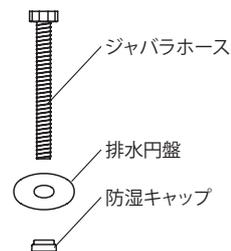
- 6** シンクとキャビネットに付着した水をキレイに拭き取る。

参考情報

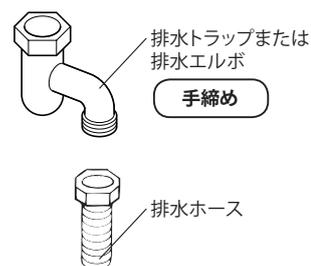
●排水ホースを使用して水漏れ確認をする場合

排水ホースセットは別途設定品(別梱包)になっています。

排水ホースセットの内容

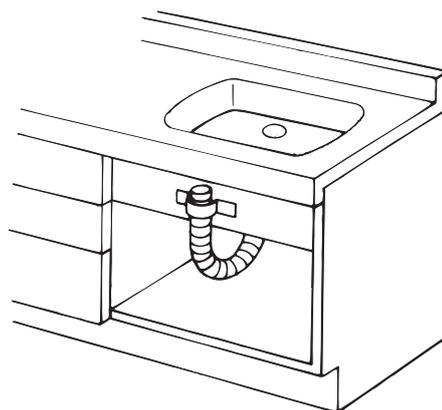


- 1** 排水エルボまたは排水トラップに排水ホースを手できつく締め付ける。



- 2** 排水ホースを水面より上になるように仮止めし、シンク内に約3ℓの水を貯め、30分ほど放置する。

排水セットの接合部から水漏れがないことを確認してください。



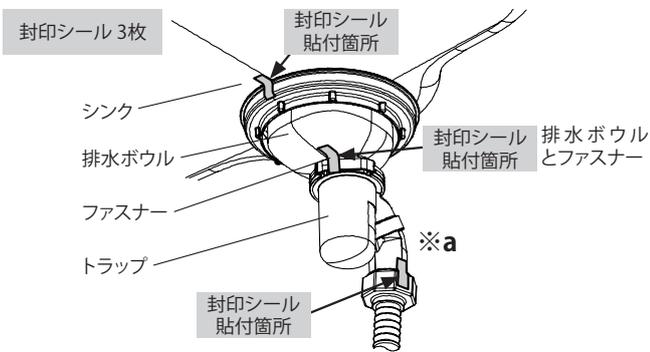
9-4 封印シールを貼る

管の接続と水漏れ試験が終わり、漏水がないことが確認できたら、トラップ排水経路に封印シールを貼り付けてください。

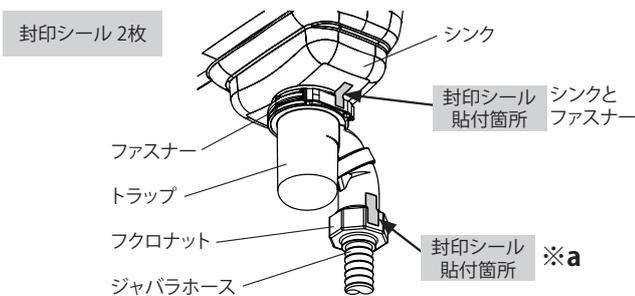
⚠️ 注意

- 封印シールは必ずロックナットやフクロナットをまたぐように貼り付ける。
工事後に誤ってナットをゆるめてしまうおそれがあります。

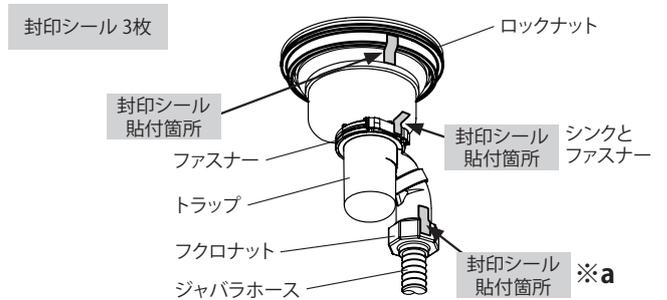
●ひろびろラクリーンシンクの場合



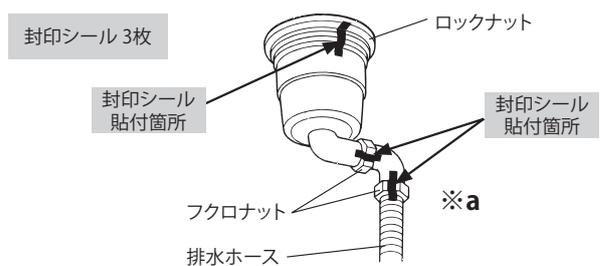
●キレイシンク・ひろびろキレイシンクの場合



●ラウンドシンク・スキットシンク・Wサポートシンク (くるりん排水口・ステンレス排水口) の場合



●ラウンドシンク・スキットシンク・Wサポートシンク (樹脂排水口) の場合



〈ご注意〉

- ※a 直管配管の場合は、管工事業業者工事区分のため、排水パイプとフクロナットの間封印シールを貼らずに、余った封印シールは回収してください。

9-5 排水接続について

管工事

⚠警告

- ❗ 管工事は関連する法令・規定に従って、必ず有資格者が行う。
法令に違反することになり、水漏れするおそれがあります。

⚠注意

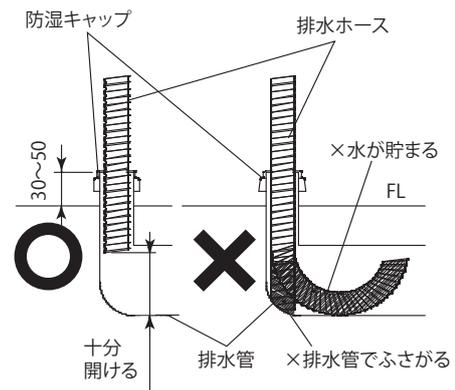
- ❗ 排水管の接続部は確実に締め付ける。
接続が不完全な場合は、水漏れ、腐食のおそれがあります。
- ❗ 排水管は床面から30~50mmの間で立ち上げる。
立ち上げが長いと、ビルトイン機器の排水が逆流します。

ジャバラホースの接続

⚠注意

- ❗ 防湿キャップを排水管の穴がしっかりふさがるように押し込む。
防湿キャップの押し込みが不完全ですと、漏水や悪臭がするおそれがあります。
- ❗ 排水ホースは曲がりやたるみのないように差し込む。
排水ホースに曲がりやたるみがあると、排水ホースがあばれ、排水ホースが破れることがあります。
- ❗ 排水ホースの先端が配管よりふさがれないように差し込む。
排水ホースの先端がふさがれてしまうと、ゴミが詰まりやすくなり、水の流れが悪くなります。

- ❗ 排水ホースをダブルトラップにならないようにして排水管に差し込む。また、排水ホースが長い場合は排水管の立ち上げ寸法に合わせて先端をカットする。
排水ホースが長いと、ホースの内部に水が残り、水の流れが悪くなります。

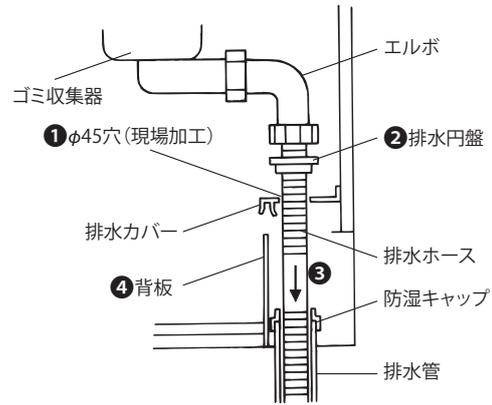


- 1 排水管位置に合わせて、排水カバーまたは底板を穴加工 (φ45) する。①
- 2 排水円盤を排水ホースに取り付け、ホースを排水カバーの穴に通す。②
- 3 排水ホースを排水管に差し込み、防湿キャップを取り付ける。③ 管工事

防湿キャップは、VP-40、VP-50、VU-40、VU-50に対応します。

4 排水カバー、背板を取り付ける。④

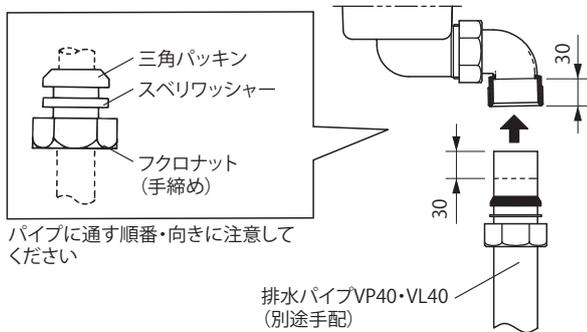
取り付けかたは、「ひな段タイプの点検口を取り付ける」(→P.40)を参照してください。



参考情報

●直管配管の接続 管工事

キッチンに付属のフクロナット、三角パッキン、スベリワッシャーを排水パイプ (VP40・VU40) に通して取り付けます。排水パイプ (VP40・VU40) は別途手配品となります。また、排水円板も別途手配となります。



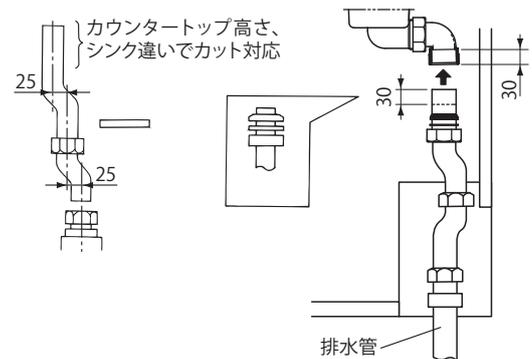
⚠️ 注意

排水パイプを排水エルボまたは排水トラップに差し込む際、排水パイプが突き当たるまで入れ、パッキンが排水エルボまたは排水トラップの口に密着するようにフクロナットを手できつく締め付ける。排水パイプの取り付けが浅かったり、フクロナットの締め付けがゆるいと、水漏れするおそれがあります。

●直管配管偏芯タイプの接続 管工事

排水管の立ち上げ位置がぶれた場合に使用します。偏芯タイプの直管配管用パイプセット (別途設定品) について、直管配管パイプセットに同梱されている取付説明書を参照してください。

※排水管との接続には、塩ビ用接着剤が必要となります。
※排水管の立ち上げ位置のぶれ対応範囲は、50mmまでです。



⚠️ 注意

偏芯タイプの直管配管パイプセットを排水エルボ、または排水トラップに差し込む際、直管配管パイプセットが突き当たるまで入れ、パッキンが排水エルボ、または排水トラップの口に密着するようにフクロナットを手できつく締め付ける。直管配管パイプセットの取り付けが浅かったり、フクロナットの締め付けがゆるいと、水漏れするおそれがあります。

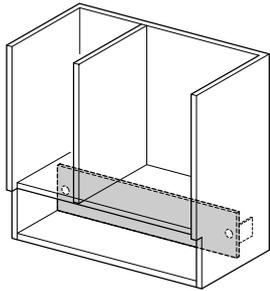
1 食器洗い乾燥機用キャビネットの下段引出しを取り外す。

下段が幕板の場合は、幕板に付いている取っ手をしっかり持ち、取り外してください。(→P.74)

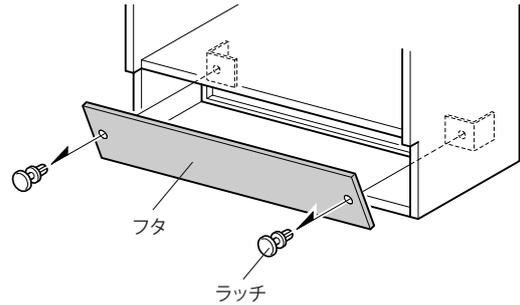
2 キャビネット奥にある点検口のフタを取り外す。

点検口フタの構造には3パターンあります。

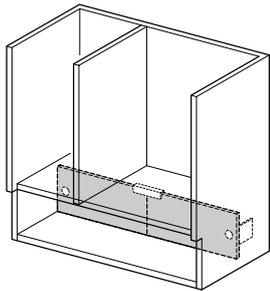
〈パターン1〉



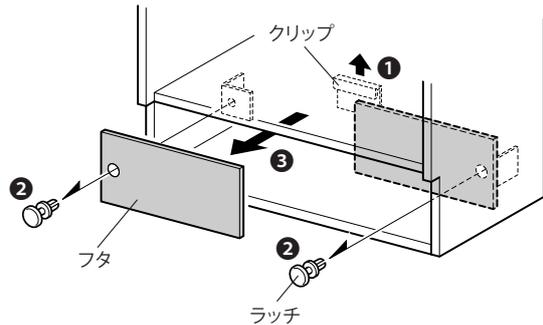
ラッチを手前に引いてフタを取り外す。



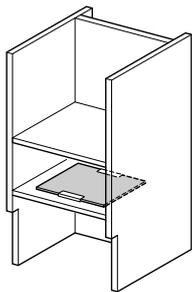
〈パターン2〉



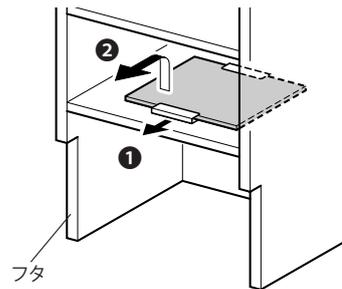
クリップを押し上げ、ラッチを手前に引いてフタを取り外す。



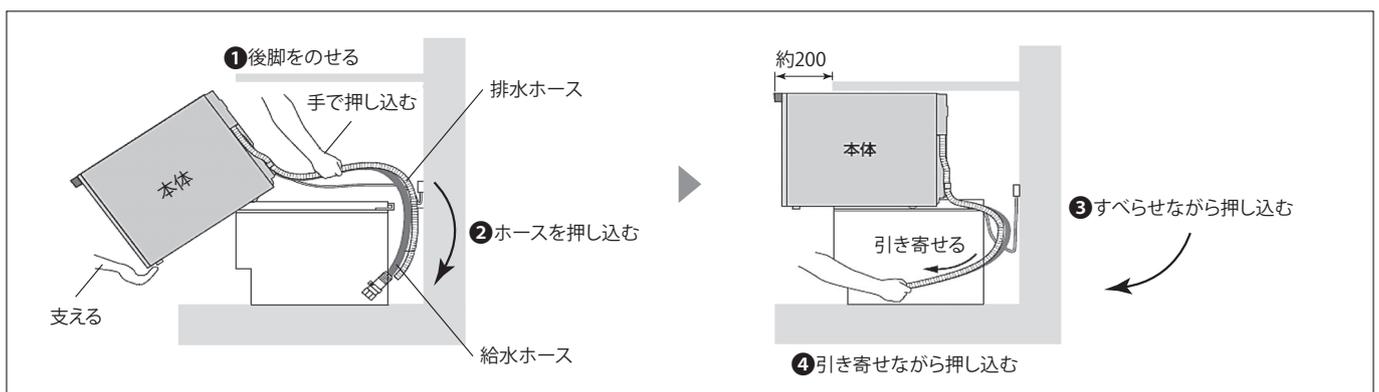
〈パターン3〉



クリップを手前にスライドさせてフタを取り外す。



3 食器洗い乾燥機を仮置きする。



4 食器洗い乾燥機を取り付ける。 管工事

配管や接続・設置手順については、
同梱の取付・設置説明書を参照してください。

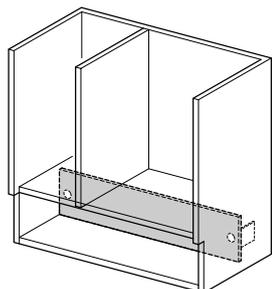
5 点検口フタを取り付ける。

点検口フタの構造には3パターンあります。

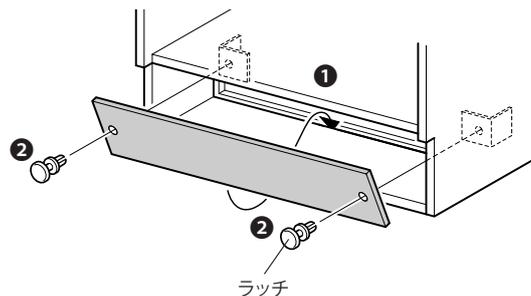
⚠️ 警告

- ❗ 管工事は関連する法令・規定に従って、
必ず有資格者が行う。
法令に違反することになり、
水漏れするおそれがあります。

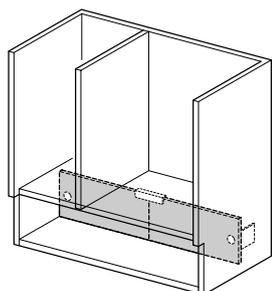
〈パターン1〉



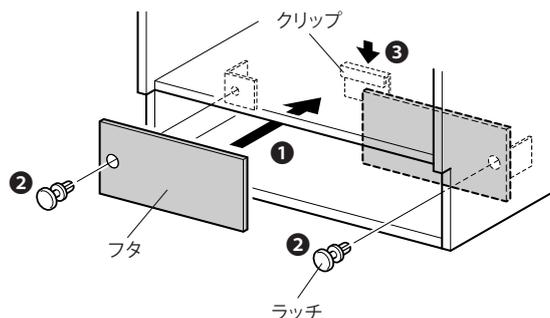
フタを差し込み、ラッチで固定する。



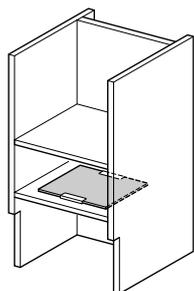
〈パターン2〉



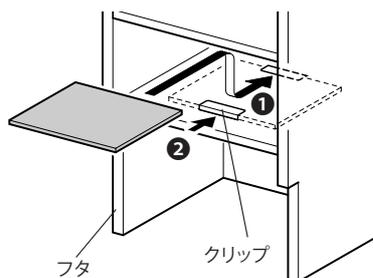
フタを金具に当てて、ラッチで固定し、クリップを差し込む。



〈パターン3〉



- ❶ 奥のクリップにフタを差し込む。
- ❷ 手前のクリップをフタに差し込む。



6 引き出しを取り付ける (→P.75)

7 引き継ぎチラシを食器洗い乾燥機正面に貼り付ける

(例) 引き継ぎチラシ

取付・設置担当者様へ

- 取付・設置後、電気工事、給・排水工事引継ぎのため、本チラシを食器洗い乾燥機前面に貼り付けてください。

本チラシ取付け

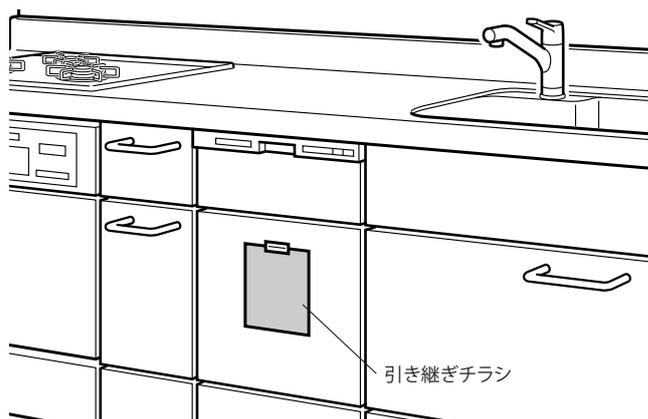
電気工事担当者様へ

❗ **電気工事が残っています。**

- 電気工事、アース工事は関連する法令・規定に従って必ず「有資格者」が行なってください。
- 電気回路は100V、15A以上の専用回路が必要です。
- 取付説明書の「電気工事」を参照し、工事は全て電気設備技術基準に準じて行ってください。

配管工事担当者様へ

❗ **配管工事が残っています。**



⑩ 食器洗い乾燥機を設置する

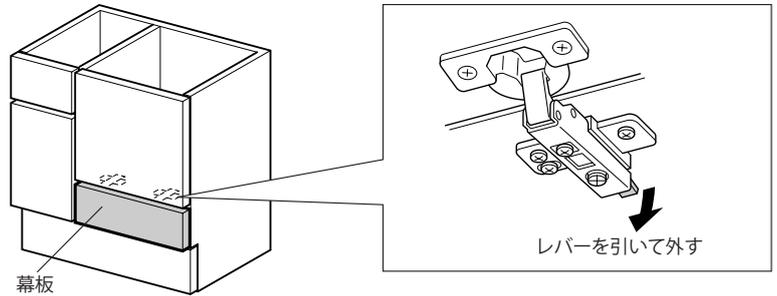
参考情報

●キャビネットの幕板・鴨居・下段幕板の取り外し方

作業後は、幕板や鴨居、下段幕板を元通り取り付けてください。

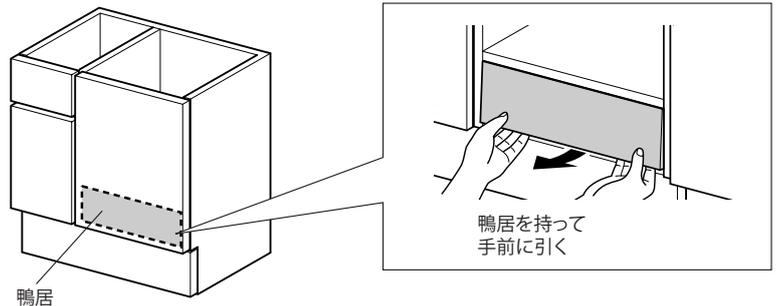
幕板の外しかた

幕板の丁番のレバーを引いて、幕板を取り外してください。



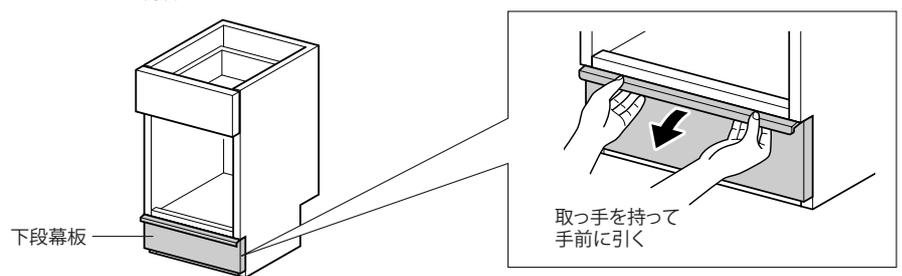
鴨居の外しかた

鴨居を持ち、手前に引いて、取り外してください。



下段幕板の外しかた

幕板の取っ手を持ち、手前に引いて、取り外してください。



11

加熱機器を設置する

加熱機器に付属の「取付・設置説明書」を参照して、加熱機器を設置してください。

⚠️ 注意

- ❗ 加熱機器を正しく設置する。
思わぬ事故や破損・故障するおそれがあります。

12

扉・引き出しを取り付ける

12-1 扉を取り付ける

「付属品・扉を取り付ける」(→P.24)を参照して、扉を取り付けてください。

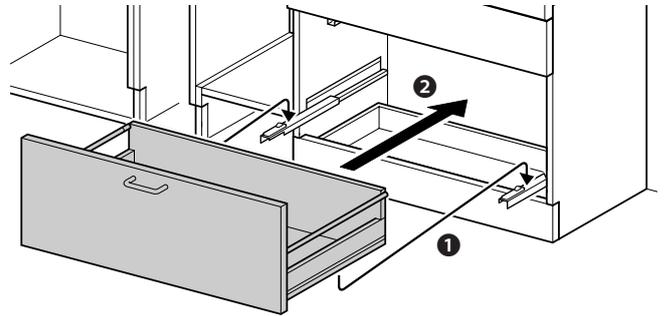
12-2 扉キャッチの動作確認・調整をする

「扉キャッチの動作確認・調整をする」(→P.26)を参照して、確認・調整をしてください。

12-3 引き出しを取り付ける

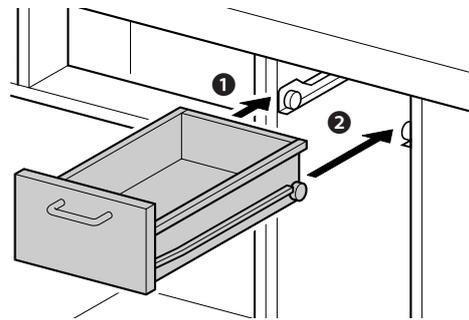
ソフトモーションレール引き出しの場合

引き出しをレールにのせて、①奥まで挿入してください。②



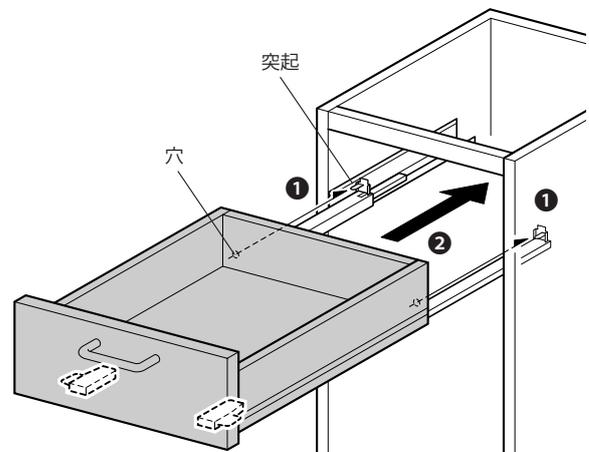
ローラーレール引き出しの場合

引き出しのローラーをレールのローラーの奥に入れて、①奥まで挿入してください。②



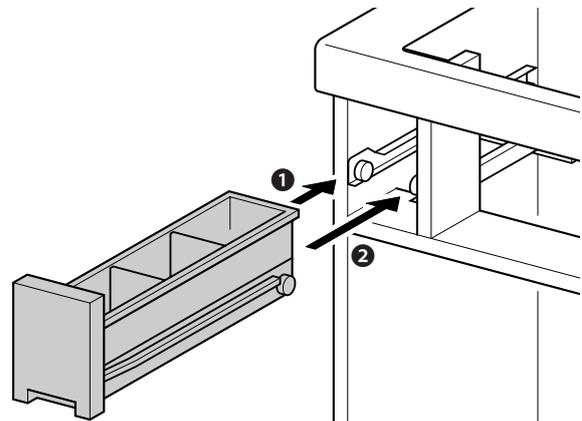
木製引き出しの場合

引き出しをレールにのせ、引き出し背板の穴をレールの突起に差し込み、①奥まで挿入してください。



ローラーレール樹脂製引き出しの場合

引き出しのローラーをレールのローラーの奥に入れて、①奥まで挿入してください。②



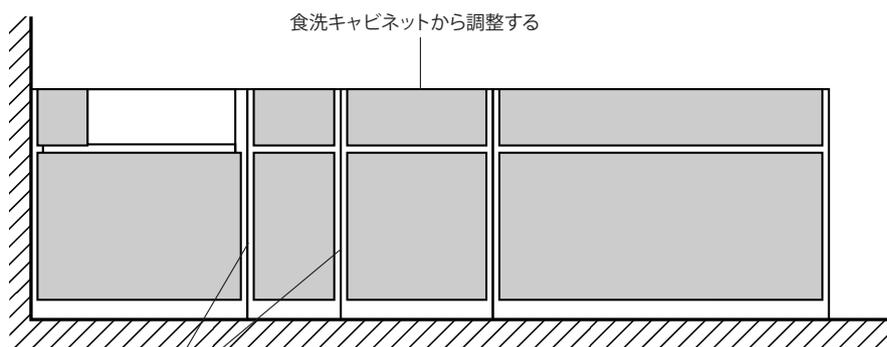
13

扉・引き出しを調整する

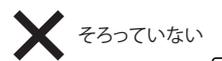
扉と引き出しを取り付けたら、扉や引き出しの左右・上下のすき間が均等になるように、また、扉や引き出しの表面が揃うように調整してください。

食洗キャビネットから調整を行い、順番に外側のキャビネットを調整してください。

※食器洗い乾燥機の扉面材の調整は、食器洗い乾燥機に付属の「取付・設置説明書」を参照してください。



扉や引き出しのすき間を均等にする



⚠ 注意

❗ 扉の調整は電動工具を使わず、手回しドライバーで行う。

破損により、使用中に落下してケガをするおそれがあります。

13-1 扉を調整する



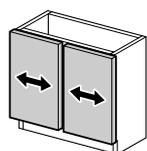
⚠ 注意

❗ 扉の傾きやガタツキ、丁番のゆるみがないことを必ず確認してください。

使用中に扉が落下してケガをするおそれがあります。

扉に前後左右、上下のズレや傾き、ガタツキなどがある場合は、調整してズレやガタツキをなくしてください。

通常扉の場合

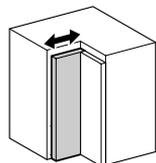


扉が左右にズレている場合

左右調整ねじで調整します。

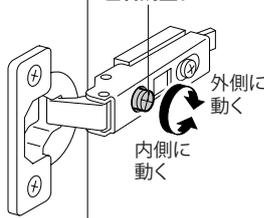
●扉を外側に動かしたいとき、ねじを時計回りに回します。

●扉を内側に動かしたいとき、ねじを反時計回りに回します。



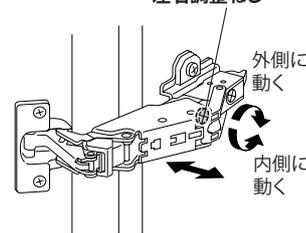
標準扉の場合

左右調整ねじ



コーナーキャビネット用扉の場合

左右調整ねじ



扉が前後にズレている場合

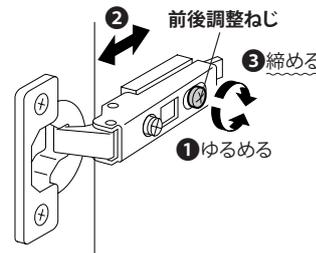
〈標準扉の場合〉

- ① 前後調整ねじをゆるめる。
- ② 金具を動かします。
 - 扉を前に動かしたいとき、金具を前に動かします。
 - 扉を後に動かしたいとき、金具を後に動かします。
- ③ 調整後は前後調整ねじを締め付ける。

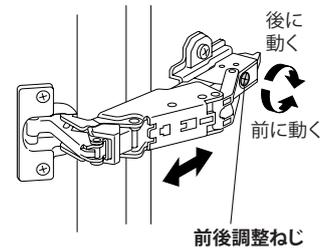
〈コーナーキャビネット用扉の場合〉

- 前後調整ねじで調整します。
- 扉を後に動かしたいとき、ねじを時計回りに回します。
 - 扉を前に動かしたいとき、ねじを反時計回りに回します。

標準扉の場合



コーナーキャビネット用扉の場合

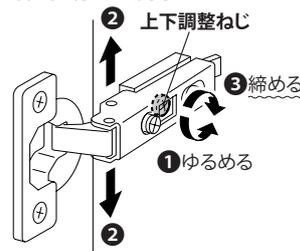


扉が上下にズレている場合

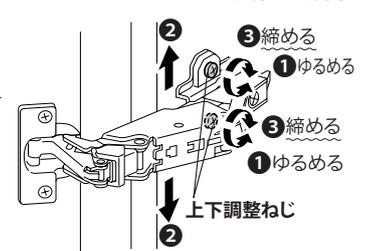
※扉に付いているすべての丁番の上下調整ねじをゆるめて、調整してください。

- ① 上下調整ねじをゆるめる。
- ② 金具を動かす。
 - 扉を上を動かしたいとき、金具を上を動かします。
 - 扉を下を動かしたいとき、金具を下を動かします。
- ③ 調整後は上下調整ねじを締め付ける。

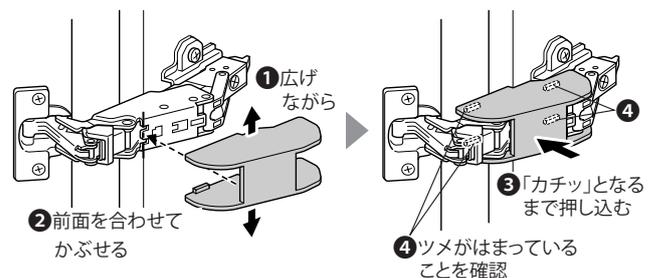
標準扉の場合



コーナーキャビネット用扉の場合

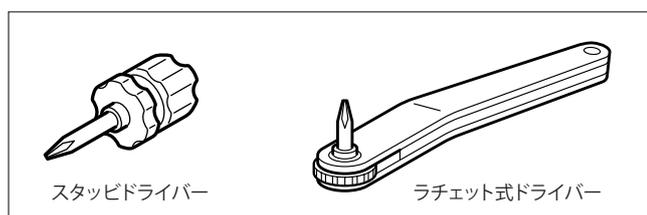


コーナーキャビネット用扉の場合は、扉調整が完了した後、丁番にキャビネット同梱のカバーを取り付けてください。

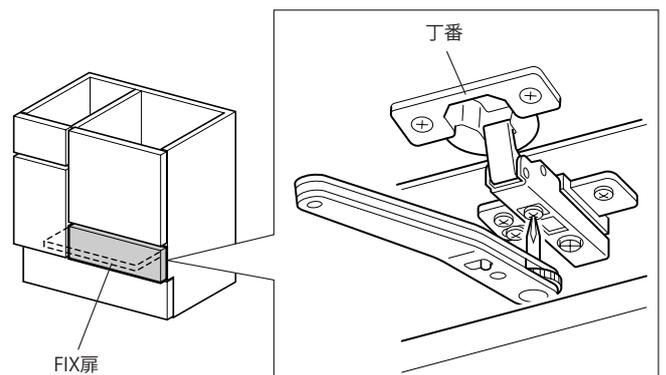


食洗キャビネットのFIX扉の場合

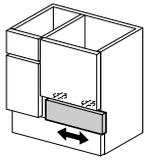
開口部が狭いため、スタッドドライバーやラチェット式ドライバーの使用をお勧めします。



※調整方法は次ページを参照してください。



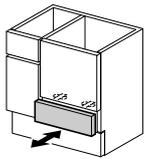
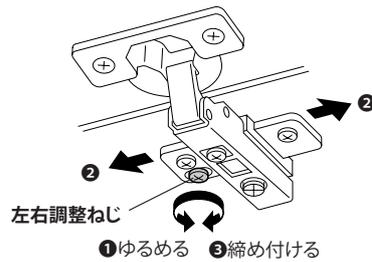
⑬扉・引き出しを調整する



扉が左右にズれている場合

左右調整ねじで調整します。

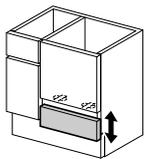
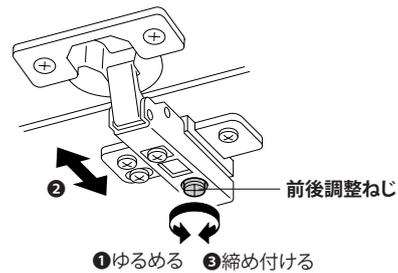
- ①左右調整ねじをゆるめる。
- ②金具を左右に動かす。
- ③調整後は左右調整ねじを締め付ける。



扉が前後にズれている場合

前後調整ねじで調整します。

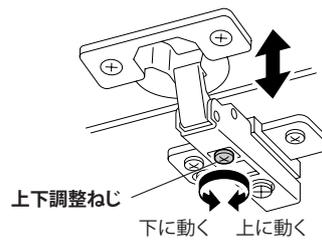
- ①前後調整ねじをゆるめる。
- ②金具を前後に動かす。
- ③調整後は前後調整ねじを締め付ける。



扉が上下にズれている場合

上下調整ねじで調整します。

- 扉を上にかさしたいとき、ねじを時計回りに回します。
- 扉を下にかさしたいとき、ねじを反時計回りに回します。



13-2 引き出しを調整する

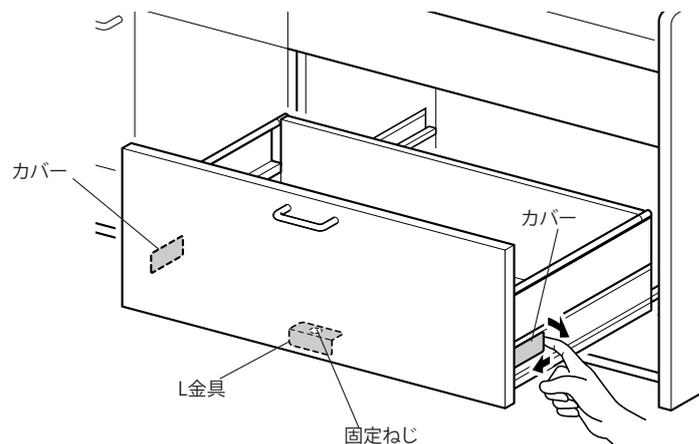
引き出しに前後左右、上下のズレや傾き、ガタツキなどがある場合は、調整してズレやガタツキをなくしてください。

ソフトモーションレール引き出しの調整をする

- 1 引き出し側面のカバーを取り外す。

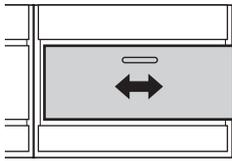
- 2 固定ねじをゆるめる。

※間口60cm以上の引き出しの場合は、調整前にL金具の固定ねじをゆるめてください。

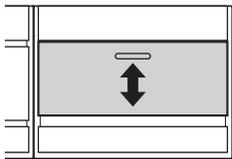
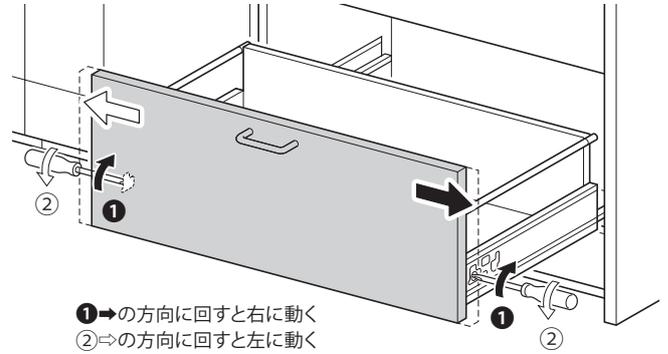
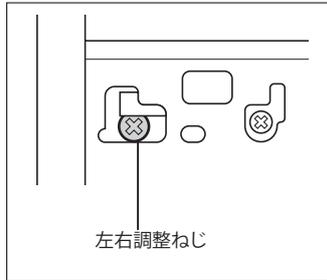


指先(ツメ)を入れて、手前に引いて取り外す

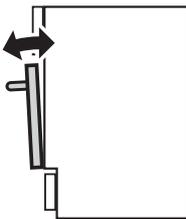
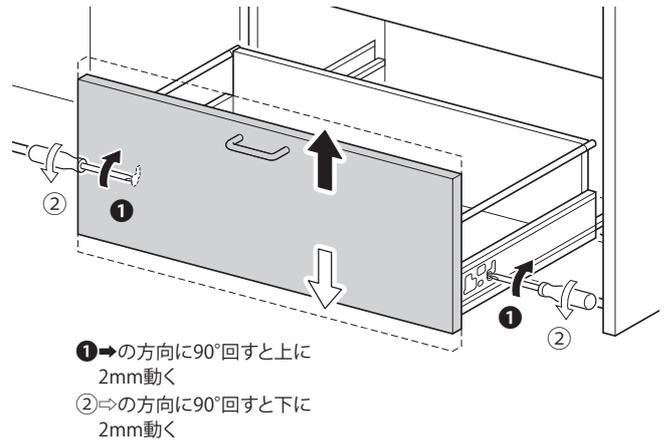
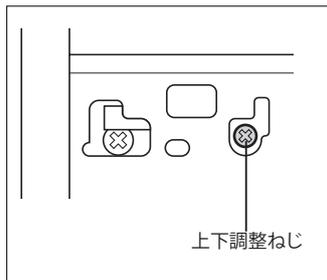
3 調整ねじを回して調整する。 



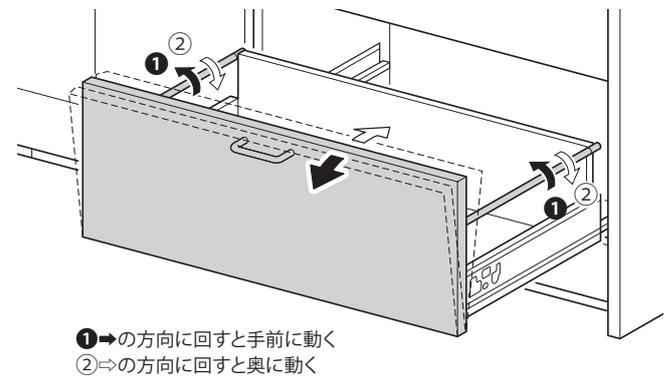
左右にズれている場合
引き出し左右両側の
左右調整ねじを回します。



上下にズれている場合
左右のバランスを見ながら、
上下調整ねじを回します。



前後に傾いている場合
サイドギャラリを回して長さを
調節することで、傾きや
左右段差を調整します。



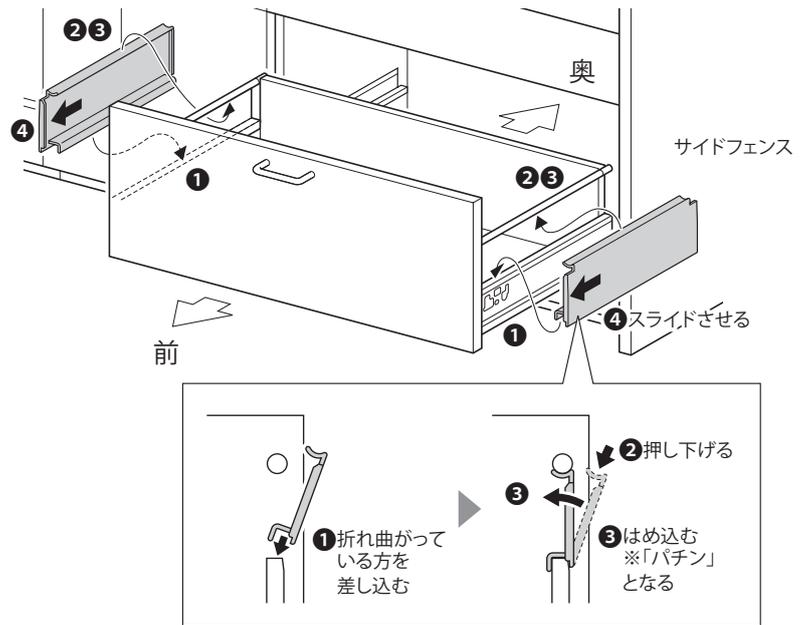
⑬扉・引き出しを調整する

4 サイドフェンスを取り付ける。

引き出し内にあるサイドフェンスを引き出し左右に取り付けてください。

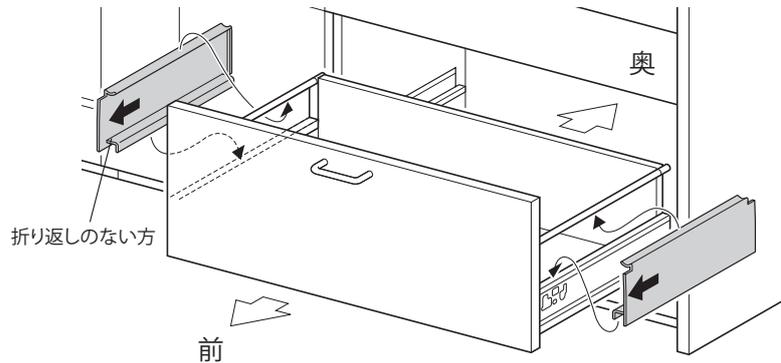
⚠注意

⊘ サイドキャップやマグネットケース、サイドフェンスをひねったり無理な力を加えたりしない。
破損してケガをする原因になります。



参考情報

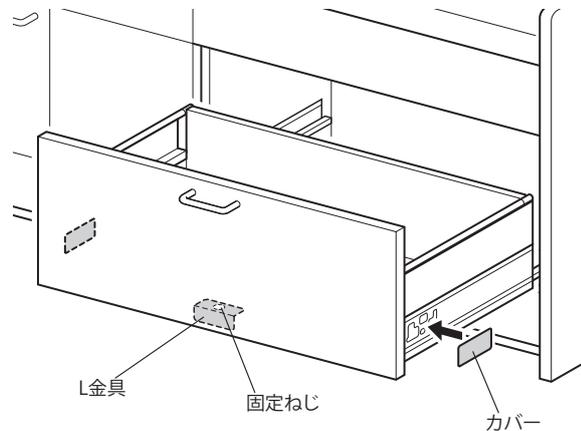
片方にのみ折り返しがあるサイドフェンスがあります。
その場合、折り返しを引き出しの奥側にして取り付けてください。



5 固定ねじを締め付ける。

間口60cm以上の引き出しの場合は、調整後にL金具の固定ねじを締め付けてください。

6 引き出し側面のカバーを取り付ける。



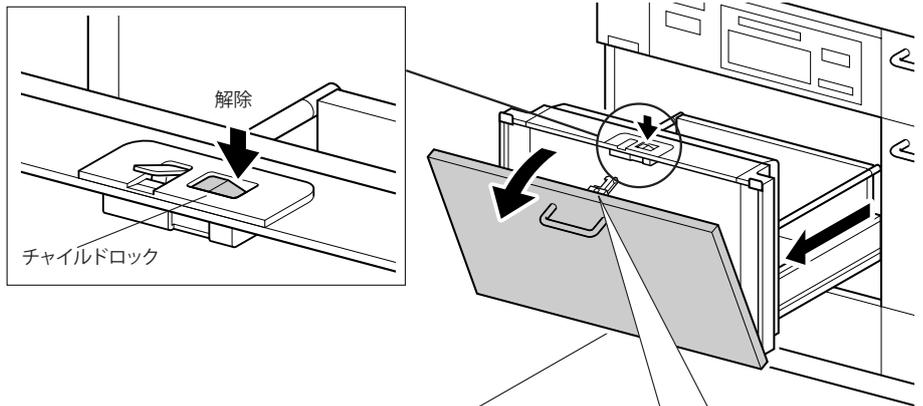
●ドアポケットタイプの調整

上下・左右の調整

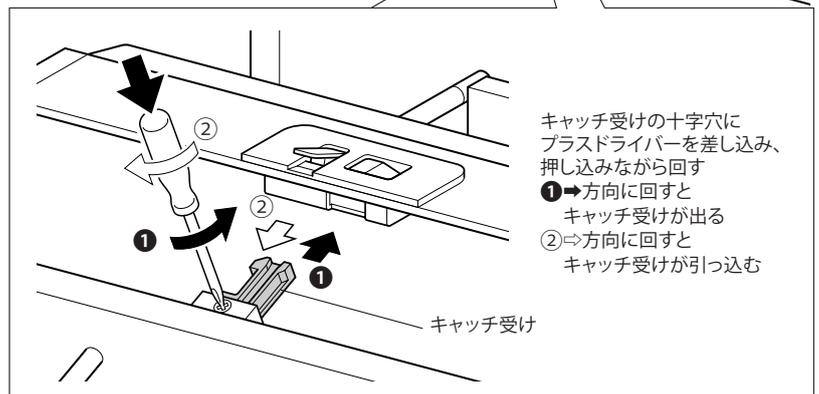
「ソフトモーションレール引き出しの調整をする」の「3」(→P.79)を参照してください。

前後の傾きの調整 

1 チャイルドロックを押し
て、解除する。



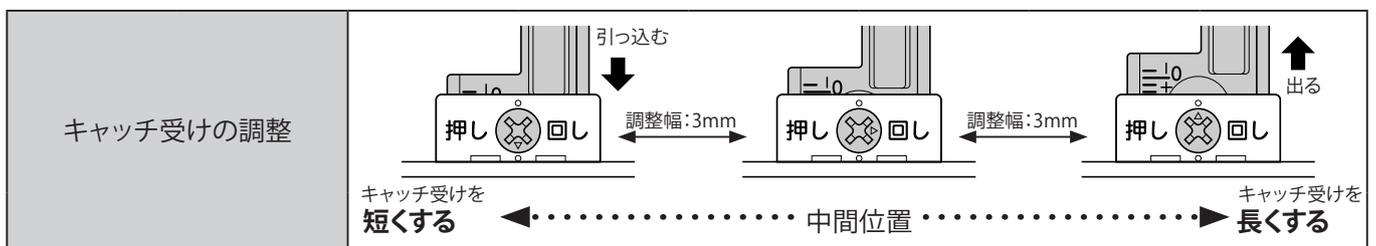
2 キャッチ受けを動かし
て、前後の調整をする。



参考情報

キャッチ受けの調整と状態について

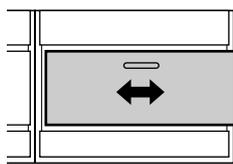
キャッチ受けの長さを長くすると扉面段差が開方向、プッシュ力が軽くなる方向に調整されます。



状態	扉面段差	閉方向 ◀.....▶ 開方向
	プッシュ力	通常 ◀.....▶ 軽い

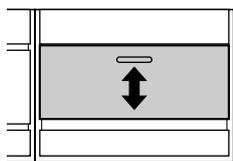
⑬扉・引き出しを調整する

ローラーレール引き出しの調整をする



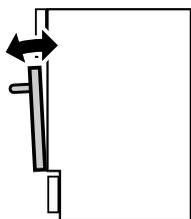
左右にズれている場合

- ①引き出し左右のねじをゆるめる。
- ②鏡板を動かす。
- ③ねじを締め付ける。



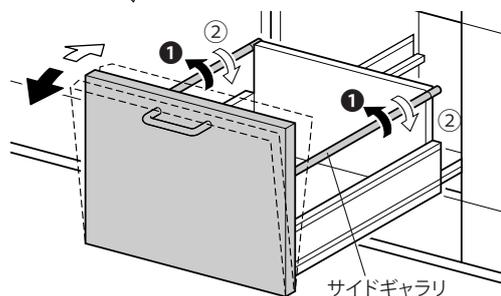
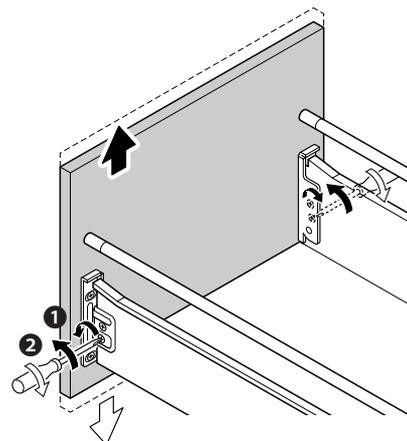
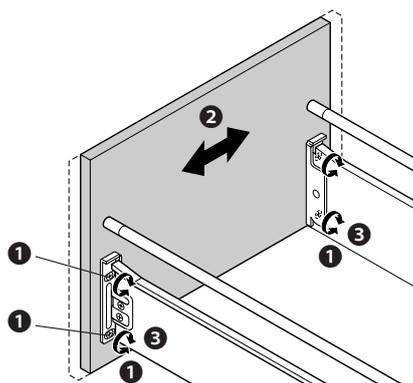
上下にズれている場合

- ①上のねじをゆるめる。
- ②下のねじを調整する。
→反時計回りに回すと、鏡板が上がります。
⇨時計回りに回すと、鏡板が下がります。
- ③上のねじを締め付ける。



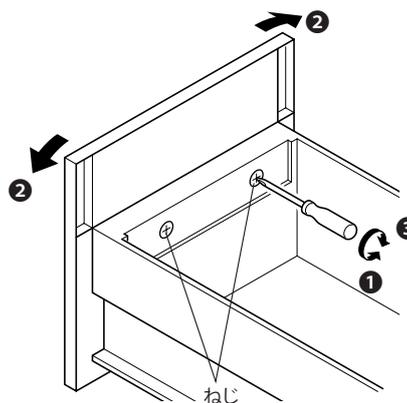
前後に傾いている場合

- ①→反時計回りに回すと、前板が倒れます。
- ②⇨時計回りに回すと、前板が起きます。



コンロ脇小引出しを調整する

- ①ねじをゆるめる。
- ②鏡板を動かす。
- ③ねじを締め付ける。



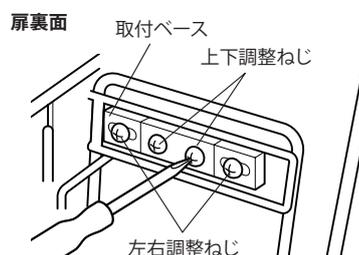
スライドバスケットの調整をする

上下にズれている場合

- ①上下調整ねじをゆるめて、鏡板を動かす。
- ②上下調整ねじを締め付ける。

左右にズれている場合

- ①左右調整ねじをゆるめて、鏡板を動かす。
- ②左右調整ねじを締め付ける。



取付・設置後

1 清掃する

取付・設置後のキャビネットや扉のホコリ・汚れは、やわらかい布で拭き取ってください。

〈ご注意〉

家具用ワックスや、シンナー・アルコールなどの溶剤、研磨剤の入った洗剤は使用しないでください。
変色したり、光沢をなくしたりして、扉やキャビネットの表面を傷めます。

2 シーリングをする

⚠ 注意

- 以下の内容を守らないと、埋めかたが不完全になり、水こぼれでキッチン本体・エンドパネルや床・壁を傷めるおそれがあります。
- キッチンパネルが弊社製の場合、キッチンパネルとワークトップ間のシーリングはキッチン取付設置区分となりますが、弊社製以外（タイル壁など）のトップ周り、やトップ周り以外のシーリングは内装工事区分となるため、事前に建築工事責任者と作業区分の打ち合わせをする。
- ワークトップと、壁またはエンドパネルの接合部はシーリング材を充填する。

〈ご注意〉

シーリングの前に必ず清掃を行って、ホコリやゴミが目地部分に入らないようにしてください。

1 シーリングをする部分に マスキングをする。

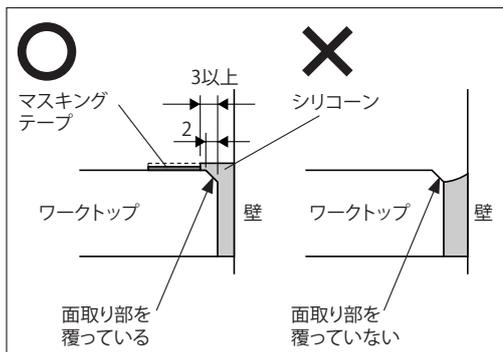
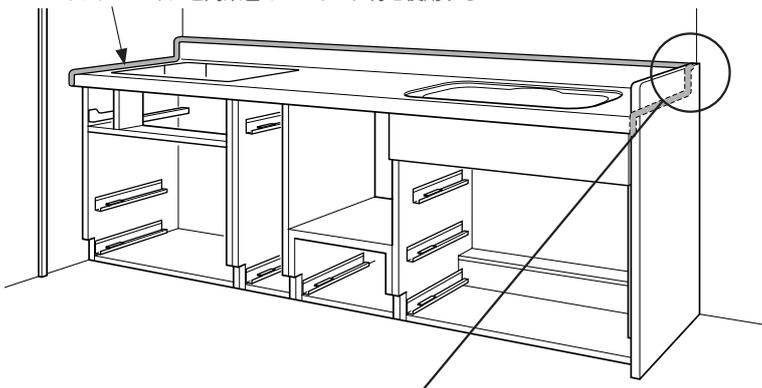
ポイント

ワークトップ端部から3mm以上の位置にマスキングテープを重ね貼りする。

2 シーリング材でシーリングする。

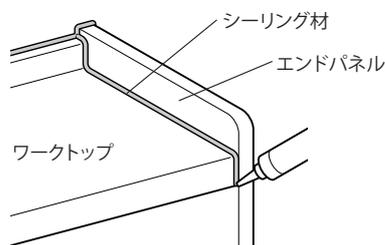
ワークトップの面取り部(2mm)を覆うようにシーリングしてください。

ワークトップとキッチンパネルのすき間は、キッチンパネルと同系色のシーリング材を使用する



エンドパネルとワークトップの接合面

ワークトップと同系色のシーリング材を使用する



3

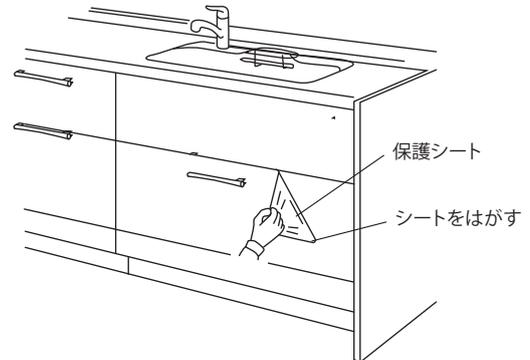
付属品を取り付ける

3-1 棚板を取り付ける

「棚板を取り付ける」(→P.24)を参照して、棚板を取り付けてください。

3-2 保護シートをはがす

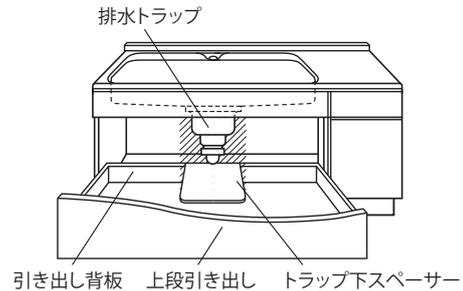
保護シートを貼ってある扉・取付部材は、シートをはがしてください。



3-3 シンクキャビネット(引き出しタイプ)の トラップ下スペーサーを取り付ける

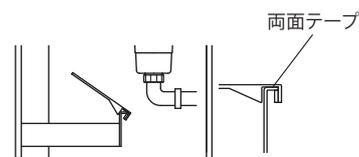
引き出しの背板に同梱のトラップ下スペーサーを取り付けます。

トラップ下スペーサーは必ず排水トラップのセンターに取り付けてください。



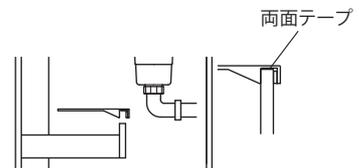
引き出し背板が金属の場合

取付部の両面テープの剥離紙をはがし、引き出し背板の後ろに引っ掛け、後ろ合わせで固定します。



引き出し背板が木製の場合

取付部の両面テープの剥離紙をはがし、引き出し背板に上から挿入して固定します。

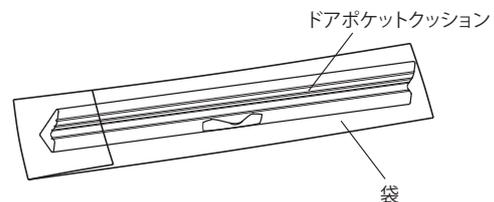


3-4 ドアポケットクッションについて

ドアポケットクッションはオプションです。

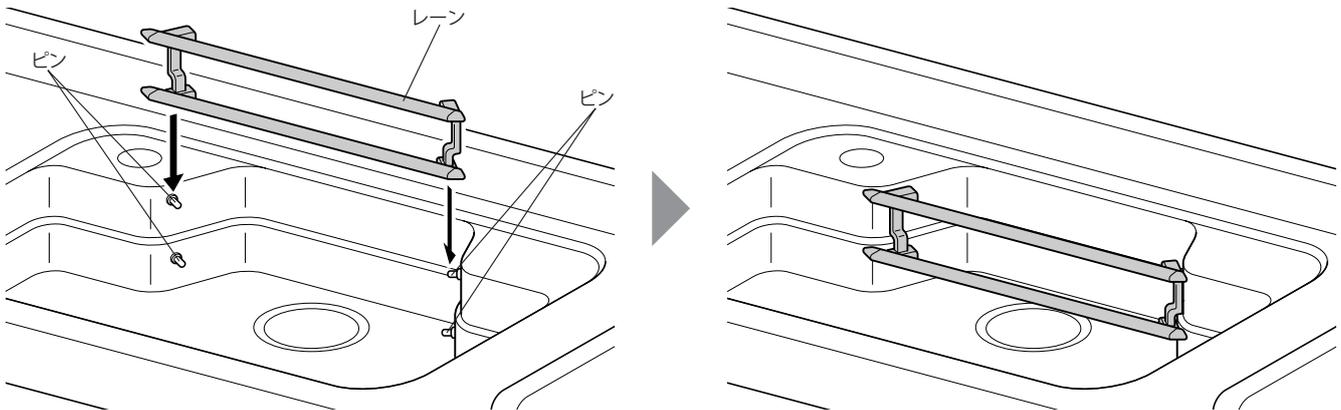
ドアポケットクッションが納品されていたら、ドアポケットクッションを袋から出さずにドアポケット内に入れておいてください。

ドアポケットクッションが入っている袋には、使用者のための取扱説明書が印刷されています。



3-5 シンク付属品を保管・取り付ける

取り付けなかったシンク付属品は、シンクキャビネット内に保管してください。
Wサポートシンクの場合レーンをシンクに取り付けてください。



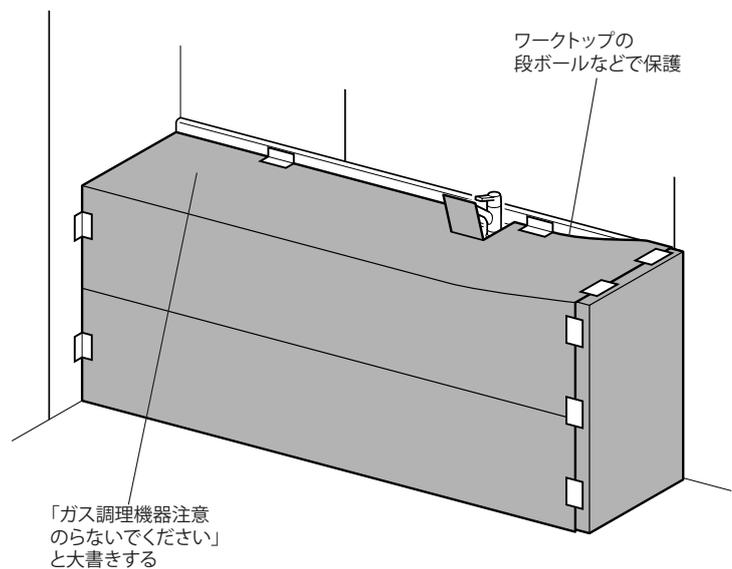
4 養生する

取付後、内装工事などの後工事がある場合は、養生を行って、電気工事引き継ぎ確認書を目立つところに貼ってください。

〈ご注意〉

- 養生に使う段ボールやポリカバーは梱包材を使用してください。
- 養生には弱粘性のテープを使用してください。

養生例



5

取付・設置後の確認をする

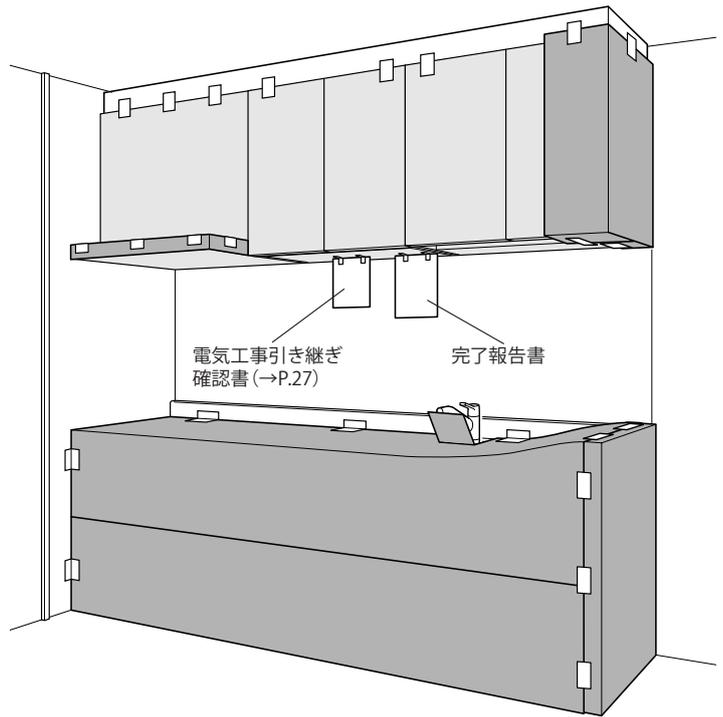
キャビネットが壁面・床面に確実に固定されていることなど、取付完了報告書の内容にしたがって確認してください。確認後、キャビネットに貼り付けてください。

⚠️ 注意

- ❗ 特に扉や引き出しの傾きやガタツキ、丁番のゆるみがないことを確認する。
使用中に扉や引き出しが落下したり、外れたりして破損やケガをするおそれがあります。

(例) 完了報告書

システムキッチン取付完了報告書 (兼完成検査用紙)		現場貼付用	記入日		
(例) LIXIL		依頼NO	年 月 日		
A	営業担当名	期	B		
	支店担当名	期			
C	物件NO				
	現場名称				
D	取付完了日	年 月 日	G		
			工事管理者 確認印		
E	部位	確認項目	確認結果	NGの場合の処理	取寄せ の合否
キャビネット	下地	下地位置と材質・厚みの確認 () (mm)	OK NG 対象外		合/否
		水平・垂直、段差、躯体固定の確認 (付属部品の取付)	OK NG 対象外		合/否
	ウォールユニット	設置前に背面に下穴を開けたか (φ)	OK NG 対象外		合/否
		取付後に扉の傾きを量る (N・m)	OK NG 対象外		合/否
	レンジフード(吊り)	付属のビス (指定ビス) が固定しているか	OK NG 対象外		合/否
		取付ベースの取付下地確認、固定の確認	OK NG 対象外		合/否
	フックキャビネット	水平・垂直、段差、躯体固定の確認 (付属部品の取付)	OK NG 対象外		合/否
		水平取付、キャビネット固定、ガタツキ、反りの確認	OK NG 対象外		合/否
	フックトップ	上取コーナーの傾き確認、段差、汚れ、固定の確認	OK NG 対象外		合/否
		引出・扉・ドアが	開閉確認、動作確認、取扱説明書、業者名簿の確認	OK NG 対象外	
レンジフード	躯体固定、プラグ/アース接続、付属部品の取付確認	OK NG 対象外	※1	合/否	
	ファン (強中弱とも)、照明スイッチの動作確認	OK NG 対象外		合/否	
機能機器	トップとの隙間、遮熱シール等部品取付・固定確認	OK NG 対象外		合/否	
	ガスコンロとオーブンの接続、ガス種別確認	OK NG 対象外	※2	合/否	
換気扇	110V配線・電気アース接続、電圧の確認	OK NG 対象外		合/否	
	換気扇の取付、取付位置、取付位置の確認	OK NG 対象外		合/否	
水栓	法定書類、取付位置の確認、付属部品の取付確認	OK NG 対象外		合/否	
	取付位置の確認、取付位置の確認	OK NG 対象外		合/否	
排水部品	排水パイプの取付、取付位置の確認	OK NG 対象外		合/否	
	排水パイプの取付、取付位置の確認	OK NG 対象外		合/否	
その他	取付完了後の養生をしっかりとっているか確認	OK NG 対象外	※3	合/否	
	取付完了後の養生をしっかりとっているか確認	OK NG 対象外	※4	合/否	
	取付完了後の養生をしっかりとっているか確認	OK NG 対象外	※5	合/否	



6

事後工事の説明と引き継ぎをする

- 建築工事側で行う事後工事について、必ず建築工事責任者に引き継ぎを行ってください。
- 各部材に付属している取扱説明書を、建築工事責任者、または使用者にすべて渡してください。

7

廃棄処分について

余った部材や梱包材などを廃棄処分する際は、必ず専門業者に依頼してください。

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

株式会社 LIXIL



<http://www.lixil.co.jp/>

7958361 17SKトリツケセツセツ 17.07.haru
PKS-0221(19054)